

公益社団法人
日本鍼灸師会

創立70周年記念誌



The Japan Acupuncture and Moxibustion Association,
a Public Interest Assistance Corporation

2022

目次

式辞	会長 要 信義	4
祝辞	厚生労働大臣 後藤茂之	5
	鍼灸マッサージを考える国会議員の会 会長、元衆議院議員 伊吹文明	6
	鍼灸マッサージを考える国会議員の会 事務局長、参議院議員 衛藤晟一	6
	日本医師会 会長 中川俊男	7
	東洋療法研修試験財団 理事長 奈良信雄	8
	東洋療法学校協会 会長 清水尚道	9
	全日本鍼灸マッサージ師会 会長 伊藤久夫	10
	日本あん摩マッサージ指圧師会 会長 安田和正	11
	日本視覚障害者団体連合 会長 竹下義樹	12
	全国病院理学療法協会 会長 平野五十男	13
	日本理療科教員連盟 会長 工藤 滋	14
	全日本鍼灸学会 会長 若山育郎	15
歴代4会長対談		16
創立70周年を迎えて	日本鍼灸師会 元会長 相馬悦孝	
	日本鍼灸師会 元会長 仲野弥和	
	日本鍼灸師会 前会長 小川卓良	
	日本鍼灸師会 会長 要 信義	
歴代会長		20
歴代役員名簿		21
委員会・ブロック会長一覧		25
代議員名簿		26
70年のあゆみ		27
研修委員会		
日本鍼灸師会70周年によせて	研修委員会 委員長 堀口正剛	49
学術委員会		
研修事業の軌跡と将来展望	学術委員会 委員長 永島茂雄	50
地域ケア推進委員会		
日本鍼灸師会創立70周年記念大会に寄せて	地域ケア推進委員会 委員長 菅野幸治	52
広報普及IT委員会		
日本鍼灸師会の広報普及について	広報普及IT委員会 委員長 児山俊浩	53
国際委員会		
これからの4年間で日本の伝統医療のためにできること	国際委員会 委員長 寺川華奈	57

健保委員会				
日本鍼灸師会70周年によせて	健保委員会 委員長	小林潤一郎	……	58
組織委員会				
日本鍼灸師会70周年によせて	組織委員会 委員長	新名美恵	……	59
青年委員会				
日本鍼灸師会70周年、歴史と未来を紡ぐ青年委員会	青年委員会 委員長	風間祐二	……	60
東京オリンピック・パラリンピック委員会				
日本鍼灸師会創立70周年記念大会に寄せて	東京オリンピック・パラリンピック委員会 委員長	高田常雄	……	61
危機管理委員会				
危機管理委員会の役割～これまで、そしてこれから～	危機管理委員会 委員長	矢津田善仁	……	63
法人管理委員会				
日本の鍼灸を支える業団として	法人管理委員会 委員長	寺川華奈	……	65
創立70周年記念事業実行委員会				
日本鍼灸師会70周年を迎えて	創立70周年記念事業実行委員会 委員長	大口俊徳	……	68
監 事				
70周年を迎えた日本鍼灸師会のこれから	監事	仲野彌和	……	69
見果てぬ夢	監事	浜田 暁	……	70
日本鍼灸師会の更なる飛躍へ	監事	川上詩朗	……	71
写真で綴る創立70周年記念式典			……	72
70周年記念講演				
「ポストコロナの我が国の医療はどうあるのが望ましいか」(動画)	参議院議員	片山さつき	……	82
叙勲・褒章受章者一覧(都道府県・受章年度順)			……	83
厚労大臣表彰受賞者一覧(都道府県・受賞周年順)			……	84
日本鍼灸師会会長表彰者名簿			……	87
日本鍼灸師会会長感謝状(役員功労)贈呈者名簿			……	87
日本鍼灸師会会長感謝状(永年功労)贈呈者名簿			……	88
全国師会と師会長一覧			……	90
日本鍼灸師会年表(1948-2021)			……	92
編集後記			……	123



式 辞

公益社団法人 日本鍼灸師会
会長 要 信義

本日ここに、公益社団法人日本鍼灸師会が創立70周年記念式典を挙行できますことは、誠に喜びに堪えないところであります。今日まで本会を支えていただいた皆様に対し、会員一同深く感謝の意を表します。本来であれば昨年12月に行う予定でしたが、令和2年初頭からの新型コロナウイルス感染拡大により延期を決断することとなり、関係各機関の方々には多大なご迷惑をお掛けしましたことを、改めてお詫び申し上げます。

さて、本会は昭和25年11月30日に社団法人日本鍼灸師会（仮称）結成大会が参議院会館第一会議室で行われ、鍼灸専門団体として産声を上げました。これまでに、関係各機関ご協力のもと、平成26年7月1日には発足の発端の一つであった生活保護法へのはり、きゅうの指定施術機関としての改正がされました（生活保護法第55条第1項の規定による指定）。また、平成31年1月1日より、念願の療養費はり、きゅう受領委任払いが開始され、一步一步着実に歩み続けています。新型コロナウイルスの感染拡大により世界の生活様式や流通システムが変容しており、鍼灸もその中において変容を迫られる部分と、伝統医療として守っていかなければならない部分とがあり、今後ますます日本鍼灸師会の率先した活動が必要になります。

現在、日本の伝統医療を取り巻く世界環境は厳しく、世界保健機関（WHO）や国際標準化機構（ISO）の中では、各国が自国の伝統医療を整備し発信し続けています。しかし、日本においては未だ環境が整備されていないのが現状で、自国の伝統医療を発信している国々に後れを取っている状態です。このまま公的機関の協力が無ければ、日本における伝統医療は世界の中で埋没し消滅する可能性が危惧されます。このような状況を打開するために、今後も鍼灸が国家・国民の財産として日本の伝統医療となるよう、国内外に対し運動してまいりますので、関係各機関のますますのご支援、ご協力をお願いいたします。また、刻一刻と変わる社会と予防意識の高まりに伴い、鍼灸の果たすべき役割はますます重要になってきています。創立70周年を契機として、さらに鍼灸の発展に努め国民の保健医療に尽くす所存でございます。

今回の創立記念式典は、同じく1年延期となった第16回全国大会in東京を合わせて開催することとなりましたが、今後も、公益社団法人として全国各鍼灸師会や関係各機関と連携しながら、国家・国民の財産としての鍼灸を目指した事業を推進してまいります。関係各位の尚一層のご鞭撻、ご支援をお願い申し上げますとともに格段のご協力をお願い申し上げ、挨拶といたします。



祝 辞

厚生労働大臣
後藤 茂之

本日は、公益社団法人日本鍼灸師会の創立70周年を迎えるにあたり、心からお慶びを申し上げます。記念式典にお招きをいただきましたが、公務のため出席がかなわず誠に申し訳ございません。

鍼灸師の皆様方には、今般の新型コロナウイルス感染症の状況下においても、社会生活を維持する上で必要な施設として感染対策を講じた上で施術を継続し、国民の健康の保持増進に尽力されていることに深く感謝申し上げます。このような大変な状況の中、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら本記念式典が執り行われ、貴会が鍼灸に従事する皆様の資質向上のために積極的な取組を進められていることを大変心強く思います。

日本は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しており、団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれています。このため、厚生労働省においては2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進しており、今後、鍼灸の担う役割や鍼灸への国民の期待はさらに増加していくものと考えます。

このように、鍼灸師を取り巻く環境も大きく変化する中、昨年12月1日に療養費の改定が行われました。引き上げ幅は決して大きくはありませんが、初検料・施術料・施術報告書交付料をそれぞれ引き上げることができました。また、平成31年1月から鍼灸マッサージ療養費に受領委任の取扱いが導入されましたが、さらに本年1月からは、受領委任を取り扱う施術管理者の要件に新たに実務経験と施術管理者研修の受講が追加されました。これは、施術管理者がより質の高い施術を提供できるようにすることを目的とするものです。高い資質を有した鍼灸師が養成され、より良質な施術を提供し、以って国民の健康の保持にさらなる貢献がなされることを期待しています。鍼灸師である皆様方が研鑽を重ね、これまでの輝かしい歴史と伝統を継承しつつ、新しい時代に向けてさらに飛躍されることを願う次第です。

厚生労働大臣就任以来、新型コロナウイルス感染症対策に全力投球しております。ここのところ新規感染者数は落ち着きを見せ、予断は許しませんが将来に対する明るい希望もわずかながら見えてきております。引き続き感染拡大防止に努め、皆様と親しく語り合うことができる日を楽しみに、日々力を尽くして参ります。

本日は誠におめでとうございます。



祝 辞

鍼灸マッサージを考える国会議員の会 会長
元衆議院議員
伊吹 文明

公益社団法人日本鍼灸師会の創立70周年をお祝い申し上げます。

東洋の伝統医学の一つである鍼灸術は、古来より治療効果は広く認められており、永く日本や中国で受け入れられてきました。70年間にわたり、この鍼灸施術の向上と施術師の地位の確立を通じて、国民の健康に貢献してこられた先生方のご努力が、70周年のご慶事に繋がったものと存じます。

新型コロナウイルス感染症による社会活動の制限等で、日常生活の不安・不自由・不満が国民のなかにあります。先生方には国民の健康維持のため一層のご貢献を願っています。「鍼灸マッサージを考える国会議員の会」も、先生方が誇りを持って施術を続けていただけるよう、引き続き政治の場で努力したいと存じます。

日本鍼灸師会の発展と先生方のご健勝をお祈りし、メッセージとします。



祝 辞

鍼灸マッサージを考える国会議員の会 事務局長
参議院議員
衛藤 晟一

公益社団法人日本鍼灸師会70周年記念式典の開催に当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

貴会におかれましては、昭和25年の設立以来、要信義会長を始めとした役員の皆様、会員の皆様方のたゆまぬ御努力により発展を遂げられ、今日まで70有余年の永きにわたり、国民の健康の維持・向上に大きく貢献されてきたことに、心から敬意を表します。

我が国の医療は、高齢化が進む中であっても、公平性を担保し一定以上の質を達成した点で、世界的にも高く評価されております。高齢化が一層進展する中で、この世界に冠たる国民皆保険を守るため、さらに効果的・効率的な医療提供を進めていくなど、継続的な努力を怠ってはならないと考えます。こうした中で、鍼灸の果たす役割は益々大きくなっており、時代の要請に対応できるよう、平成30年4月より新たな学校養成施設カリキュラムによる教育が始まっています。また、本年1月からは、療養費の受領委任を取り扱う施術管理者に対する「実務経験」と「施術管理者研修」の要件追加がスタートしました。これらの施策を着実に実施するとともに、貴会が鍼灸に従事する皆様の資質向上のために積極的な取組みを進めらるることにより、さらに高い資質を有する鍼灸師が養成され、質の高い施術を必要な患者に提供し、国民の健康を守っていかれますことを期待しております。

最後になりますが、貴会の益々のご発展と皆様のご健勝ご活躍を心から祈念しまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

公益社団法人 日本医師会
会長 中川 俊男

公益社団法人日本鍼灸師会が創立70周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。創立以来の長きにわたり、鍼灸を通して国民の医療・保健・福祉の増進に寄与されるとともに、鍼灸の普及啓発及び鍼灸師の資質向上のために尽力されている関係者の皆様方に、深く敬意を表します。

この70年間で、鍼灸を取り巻く環境も大きく変化してきたことと存じます。この先の未来においても、時代の要請と国民の信頼に応える、安全・安心な鍼灸が提供されますよう、引き続き知識・技術の研鑽に励まれますことをご期待申し上げます。

わが国の医学・医療は大きく進展し、国民の健康に対する意識・ニーズも多様化しています。一方で、急激な高齢化の進行や人口減少による社会構造の変化に伴い、わが国の社会保障制度は大きな転換期を迎えています。さらには、現下の新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、我々の日常生活、そして医療現場をも一変させました。これまで当たり前のように享受していた医療は決して当たり前のものではないこと、そして同時に、国民生活、社会活動の重要な基盤であるということ、国民の皆様、我々医療従事者も強く再認識するに至りました。

日本医師会といたしましては、新型コロナウイルス感染症の収束と、次世代へつなぐ社会保障制度の再構築に向け、引き続き使命を果たしていく所存です。日本鍼灸師会の皆様におかれましても、引き続き、ご支援・ご協力を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

結びといたしまして、日本鍼灸師会のますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝・ご活躍を祈念いたしまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。



祝 辞

公益財団法人 東洋療法研修試験財団
理事長 奈良 信雄

このたび、公益社団法人日本鍼灸師会が創立70周年を迎えられ、本日此処にかくも盛大なる記念式典が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

貴会におかれましては、昭和25年の発足以来、鍼灸学術を振興するとともに、鍼灸業務を通じて高齢者福祉の増進、公衆衛生の向上に関する事業を行なわれ、「国民の健康と福祉の向上」に寄与することを目的として活動されてきました。これらの諸活動は常に日本における鍼灸医療の中心的な役割を担い、正に“国家・国民のための医療としての鍼灸”を推進されています。貴会 要信義会長をはじめとする先生方のこれまでの多大なご尽力に対しまして、衷心より深甚なる謝辞を表します。

我が国は世界に例を見ない速度で超高齢化が進展しており、国民の健康を維持し増進させる観点から、「鍼灸」のニーズと重要性は日々増幅しております。また受療者から求められているその職域は、医療分野はもちろんのこと、スポーツ、美容、介護福祉分野にも拡大し、今年開催された東京オリンピック・パラリンピックにおけるトレーナーの活躍、頻発する自然災害現場におけるボランティア活動等でも、「鍼灸師」の先生方の精力的なお姿を日々目にしております。この様に、多方面にわたるご活躍を見るにつけ、「鍼灸業界」の未来は明るいはずだと存じますが、足下の課題も決して少なくはないと危惧されます。養成施設への入学者数はここ最近一割程度で漸減しておりますし、無資格者の横行には歯止めが掛からず、広告の制限に係る議論も停止したままとなっております。さらには新型コロナウイルス感染症の蔓延によって「鍼灸」を取り巻く環境も大きく変わりました。こうした現況を顧みますと、課題解決が急務である「鍼灸業界」において、今こそ「鍼灸師」の先生方をまとめ、受療者の幅広いニーズに合ったサービスを提供できるよう、貴会が業界のリーダーとして業界全体を先導され「鍼灸業界」が大きな飛躍を遂げられることを切に願っております。

当財団は国家試験の実施と登録業務を厚生労働省より事務委託されておりますが、これらに加えて昨年7月に厚生労働省から研修実施機関として登録を受け、本年1月より「はり師、きゅう師及びあん摩マッサージ指圧師施術管理者研修」を実施しております。本研修においては特に教材の作成、講師の派遣について貴会に大変なご協力を賜っており、この機会を通じ改めて御礼申し上げたいと存じます。本研修の目的は「適切に療養費の支給申請が行われる」とともに「質の高い施術が提供される」ことにありますが、本研修の実施を通じて受領委任制度が有効に機能し、施術者・受療者の双方が恩恵を享受するための一助となりますことを信じて止みません。本研修の実施あたっては今後とも引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、本日の創立70周年という輝かしい一つの節目を機に、公益社団法人日本鍼灸師会が益々のご発展をされますこと、ならびに要信義先生をはじめ貴会加盟の諸先生方、及び本日も参集の先生方のご健勝ご活躍を心からご祈念申し上げまして、私のお祝いの言葉といたします。



祝 辞

公益社団法人 東洋療法学校協会
会長 清水 尚道

公益社団法人日本鍼灸師会が創立70周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。また、COVID-19の影響で1年延期とはなりましたが、『70周年記念式典』のご開催と「記念誌」(DVD)のご発行おめでとうございます。

貴会が結成された1950年は、太平洋戦争の終結から5年、日本社会全体がまだ不安定で貧しく、前年に制定された生活保護法の医療扶助取り扱いに鍼灸が入らなかったことが大きい課題であったとお聞きしています。

東京－大阪間の移動に特急で8時間かかった当時、大阪・久本寺で開催された「全国鍼灸懇談会」に各都道府県を代表する先生方が集結され、参議院会館第1会議室で貴会の設立集會が開催されました。翌年には早くも社団法人の認可を受け、同年秋には「日本鍼灸治療学会」を開催され、以来、鍼灸の科学化と鍼灸師の資質向上を目指して臨床学術大会や、全国各地での学術講習会を開催してこられました。また、1965年には「第1回国際鍼灸世界大会」、1977年には「第5回国際鍼灸世界大会」の国内開催に尽力されるなど、諸外国との交流も進めてこられました。

しかし、1961年の国民皆保険施行以来、国民と鍼灸との関係は変わってきました。身近で安価な医療であった鍼灸と保険医療の窓口支払額が逆転し、鍼灸は「ぜいたく品」と見られるようになったのではないのでしょうか？そうした逆風の中でも貴会は志の高い先生方に支えられ、鍼灸師の業権を守り、拡大するため、他団体と手を携えて幅広い活動を展開し、鍼灸業界の歴史に大きく貢献してこられました。

これまでの鍼灸業界の出来事のひとつひとつが、現在の鍼灸師の立場を形作っています。歴史を知ることが、これからの鍼灸・鍼灸師を考えることにつながり、次の世代により良い業界を引き継いで行くこととなるでしょう。先輩方が活動し、記録して下さったことを糧に、我々も次の世代に良い業界の姿を残せるよう頑張ります。

最後になりましたが、日本鍼灸師会の皆様方におかれましては、70周年を迎え、積み重ねられた伝統の上に立って、今後大きく変化する社会の動きに対応した鍼灸の一層の発展のためにご尽力いただきますことをお願いし、貴会のさらなるご発展と、会員の皆様のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

公益社団法人 全日本鍼灸マッサージ師会
会長 伊藤 久夫

公益社団法人日本鍼灸師会創立70周年記念に際し、公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会を代表して、心からお祝いを申し上げます。日鍼会の皆様には、日頃から全鍼師会に対し格段のご指導ご鞭撻を賜り、この場をお借りし衷心より御礼申し上げます。

さて、一昨年来、世界中を震撼させている未曾有の新型コロナウイルス感染症の拡大はワクチン接種が始まり、ようやく収束の兆しがみえてきました。同じ様に百数十年前に猛威を振るったスペイン風邪は5億人が感染し1億人が死亡したと言われていますが、その正体は現在のインフルエンザであり、スペイン風邪同様に新型コロナウイルス感染症も新薬の開発により、一日も早く流行風邪の一種になることを願うものです。

また、コロナ禍で開催された2020東京オリンピック・パラリンピックでは、一流アスリートの勇姿を視聴した多くの国民が感動と勇気を与えられたものと思います。さらには日本国を導く総理総裁が決まり、菅内閣から岸田内閣に代わり、現在衆議院議員選挙の真っ只中です。国民の健康保持増進を担うあはき業界としても、声を大にして意見・要望を訴えなければなりません。そのためにも日頃からご理解を賜る国会議員の選挙運動を積極的に支援することが必要で、一人でも多く当選されることを願っております。

一方で、あはき業界の現状は課題が山積しています。鍼灸師を目指す者の減少、また、漢方・鍼灸がICD-11に認められたものの、国内では医療保険制度へ位置づけされるには程遠い状況です。業界が一丸となってこれらの課題に取り組んでいくことが魅力ある「あはき業界」へとつながり、そこでは日鍼会が70年間培ってきた伝統と文化を後世に伝承することが求められていると思います。

結びに、公益社団法人日本鍼灸師会要信義会長はじめ役員の皆様方には、あはき業界を改革する指導者としてご尽力賜りますようお願い申し上げますとともに、日鍼会の今後一層のご発展を祈念申し上げ、祝辞といたします。



祝 辞

公益社団法人 日本あん摩マッサージ指圧師会
会長 安田 和正

本日、ここに公益社団法人日本鍼灸師会が創立70周年を迎えるにあたりまして、お祝いの言葉を申し述べます。

貴会は、昭和25年に創立。現在に至るまでの期間、伝統ある東洋療法の鍼灸を駆使し、国民の保健衛生を守るべく多大な貢献を果たすと共に寄与されてこられました。国際的（WHO）にも、その貢献度は顕著であります。私ども、公益社団法人日本あん摩マッサージ指圧師会におきましても、伝統ある、あん摩・指圧・マッサージの手技療法として、国民の保健衛生に対し微力ながら日々研鑽いたしております。双方の会におきまして、この伝統ある東洋療法を、日本の、いや世界の保健機構としてお手伝いをさせていただければ幸甚でございます。

今回は、「第16回公益社団法人日本鍼灸師会全国大会in東京」をともに開催するとの由。併せましておめでとうございます。

終わりにあたり、貴会の益々のご発展と、会員の皆様のご多幸ご健勝を衷心より祈念いたしまして、甚だ楚辞ではありますが、お祝いの言葉といたします。

本日は真におめでとうございます。



祝 辞

社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
会長 竹下 義樹

貴会の結成70周年を心からお喜び申し上げます。

わが国においては、鍼灸マッサージが独自の発展を遂げ、国民の健康と病氣治癒に果たしてきた役割は大きく、西洋医学を中心とした医療だけでは国民の期待に応えきれない部分を担ってきたことに、関係者は強い自信と誇りを持つべきだと思います。それだけに、貴会がこの70年間に果たした役割は大きく、貴会を含む業界がそうした歴史と現在における鍼灸マッサージの位置付け、ないし役割を自覚し、業界が一丸となって国民の期待に添うべく鍼灸マッサージの発展を期すことが必要です。

鍼灸マッサージが長年にわたり、健康保険の適用において例外的な位置付けしか受けてこなかったことは、不幸な歴史であって極めて残念なことです。ようやく2018年に受領委任制度がスタートし、健康保険の適用が制度化され、今後国民の鍼灸マッサージに対するアクセスが良くなることを期待しています。それだけに、今後健康保険の受領委任制度がどのように発展し、拡大・安定するかは、鍼灸マッサージの発展にとって極めて重要な課題であると思います。

国は医療費の増大を問題にしますが、国民が健全な生活の質を維持し、就労を中心とする社会参加を継続するためには、そして高齢化が進む中で健康長寿が保障されるためには、医療費の増大は必要不可欠な負担です。問われるのは医療費の内容です。予防医学や健康増進のための保健衛生が充実し、東洋医学の神髄である無病という視点から十分な医療費が確保されれば、自ずと医療費全体の支出も安定し、大きな増額にはならないのではないのでしょうか。したがって、鍼灸マッサージの健康保険の適用がこれまで以上に拡大され、国民にとって必要とされる鍼灸マッサージが的確に提供される体制を整えることも、貴会をはじめとする業界の重要な責務です。

私は、かつて日本において視覚障害者が鍼灸マッサージの発展に大きく貢献してきたことを誇りに思っています。今日では、鍼灸マッサージの分野において、視覚障害者は少数になってしまいましたが、それ自体を決して悲観的に見るべきではないとも思っています。必要なことは、視覚障害を有する鍼灸マッサージ師が、今なお高い知識と技術を身に着け、誇りをもって触診をはじめとする自らの能力を十分に発揮することによって、国民の期待に応えることです。それによって、視覚障害者もまた伝統を引き継ぎ、鍼灸マッサージの発展の一翼を担うことになるのです。

最後に、鍼灸マッサージに関わる全ての関係者が、鍼灸マッサージの健全な発展という目標のもとに一致団結し、貴会がその先頭に立って業界をけん引していただけることに期待し、結成70周年のお祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

公益社団法人 全国病院理学療法協会
会長 平野 五十男

この度、公益社団法人日本鍼灸師会が創立70周年を迎えられましたことに対し、心からお祝いを申し上げます。

貴会は、昭和25年9月に発足して以来、長年にわたり鍼灸師の資質の向上と学術の振興を図ると共に、国民に対して鍼灸医学の啓発活動を推進してまいりました。

鍼灸医学は、2000年以上の歴史がある東洋医学の一端を担う治療法であり、西洋医学では有効な治療法がない分野を中心に、国民の健康と福祉の増進に大きく寄与しております。このように、国民の多くから高い評価を受けている鍼灸治療ではありますが、治療効果の科学的根拠（エビデンス）が示されていないのが実情です。

私の所属する全国病院理学療法協会は、医療機関や介護施設において医師の指示のもとに理学療法に従事しておりますが、診療報酬等の要望活動の場で常にエビデンスの解明を強く求められております。現在では、どの分野においてもエビデンスが求められており、鍼灸医学の「エビデンスの解明」という高いハードルを越えられるよう、関係団体が一丸となり取り組んで行かなければならない大きな課題となっております。

最後に、日本鍼灸師会が今後さらに大きく飛躍されますことと、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、祝辞といたします。



祝 辞

日本理療科教員連盟
会長 工藤 滋

この度、日本鍼灸師会が創立70周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。視覚障害者の理療教育に携わる者を代表して、ひと言お祝いを申し上げます。

貴会は、長年にわたり、鍼灸学術の振興、鍼灸師の社会的地位の向上、国民に対する鍼灸医学の啓発等の活動を積極的に行ってこられました。その中でも、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律の改正を目指す活動には、特に重点を置いて取り組まれました。その主たる目的は、国民の健康と安全の確保、すなわち国民の健康権の保障であり、実現に向けた貴会の積極的で労を惜しまぬ姿勢とリーダーシップには、心から敬意を表します。

こうした活動は、理療業、理療教育の発展を目指す関係団体が協力・協調し合うことで、より高い成果を上げられることから、1980年に現在のあはき等法推進協議会の前身である4者懇談会が発足されました。貴会は理教連とともに、この懇談会の発足時からの構成団体であり、現在7団体となったあはき等法推進協議会においても、引き続き共通の課題解決に向けて活動を共にしてきていただいております。

鍼灸は、江戸時代より視覚障害者の適職として継承・発展してきており、現在も重度視覚障害者の職業別就職件数で半数近くを占める最も重要な職業です。理教連は、視覚障害者を対象とする、鍼灸師、あん摩マッサージ指圧師養成施設の教員からなる組織であるため、さまざまな場面で視覚障害に関する情報の発信と配慮の必要性の啓発に努めてきております。貴会には、これまでも情報提供の際、共に活動する際等、さまざまな場面において、常に視覚障害者に対する深いご理解とご支援をいただいております。大変感謝しております。今後も引き続き、障害のある者と障害のない者がお互いを認め合い、支え合って作り上げて行く共生社会の推進に向けて、従前に増して格別のご配慮をお願い申し上げます。

鍼灸に関しては、国民が安心して安全な施術を受けられるよう、また施術を受ける際の利便性を高め、受療しやすい環境を整えられるよう、一つひとつの課題を解決していく必要がございます。こうした共通の目標実現のため、共に力を合わせて課題解決に取り組んでいきたいと考えております。

結びに、日本鍼灸師会の会員の皆様の方々の益々のご健勝とご活躍、並びに貴会のご発展を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

公益社団法人 全日本鍼灸学会
会長 若山 育郎

公益社団法人日本鍼灸師会の創立70周年、誠におめでとうございます。1950年の創立以来、一貫して鍼灸を通じて国民の健康と福祉に貢献されてきたことに対し、心より敬意を表します。

さて、鍼灸はあらゆる伝統医学的治療のなかで最も国際化している治療法であるということは、言を俟たないと思います。なぜかと言えば、高度な機器や設備が不要で、鍼と艾があればどこでもどんな環境でも治療できるからです。2019年のWHOレポートによると、加盟国のうち113カ国で鍼治療が行われています。

我が国でも、開業鍼灸院はもとより、病院医療、地域医療、疾病予防などの現場でも次第に応用が広がってきています。私ども学会は、そうした鍼灸の発展をサポートするための学術面での成果を、今後も積み重ねていく所存です。

学術面では、個々の症例の経験を積み重ねることは非常に重要ですが、我が国全体の鍼灸臨床を分析し俯瞰できるシステムの構築にも注力したいと考えています。一方で、基礎的な研究の推進にも重きをおく必要があります。

鍼灸における先達の業績と貢献に思いをいたし、新たな時代を貴会とともに作っていきたいと考えています。

末筆ながら、貴会の益々のご繁栄とご発展を祈念いたします。



創立70周年を迎えて

公益社団法人日本鍼灸師会 元会長 相馬悦孝
公益社団法人日本鍼灸師会 元会長 仲野彌和
公益社団法人日本鍼灸師会 前会長 小川卓良
公益社団法人日本鍼灸師会 会長 要信義

司会：公益社団法人日本鍼灸師会 広報普及IT委員会 委員長 児山俊浩
公益社団法人日本鍼灸師会 創立70周年記念事業実行委員会 委員長 大口俊徳

司会 相馬先生は「国民の保健への貢献・奉仕」をテーマにされていましたが、具体的にどのようなことを推進されたのですか？

相馬 何と言っても症例検討会が私の大きな柱だったと思いますね。国民の保健への貢献・奉仕ということは、鍼灸師がいかに医療に取り組むか、医療という使命を担うか、というようなことだと思います。国民から安心して信頼されて臨床に当たれる鍼灸師を作り上げなきゃいけない、またそういう雰囲気を作っていかなきゃいけない、そのような気持ちで取り組んでいました。

司会 仲野先生は普及啓発活動に積極的に取り組まれましたが、日鍼会としてあまり得意としない分野で、どのようなご苦労がありましたか？

仲野 デザイナーやコピーライターなどプロの力も借りて、木更津の干潟の写真を使ったポスター画像を掲示（7作品）を作りましたね。「澱」体から、澱みが消えていく。「乱」体のなかの、乱れが静まっていく。「曇」体の、曇りが晴れていく。「浄」体の環境が、浄化されていく。「蘇」



相馬悦孝 元会長

体が、蘇ってくる。私が、蘇ってくる。「笑」体から、笑いが生まれてくる。「美」体が、内側から美しくなっていく。今見てもいい作品だと思うけど、いくつか広告のコンテストにも入賞しましたよ。今でも治療院に貼ってくれている先生がいます。それ

以外にも、ホームページからダウンロードする普及ポスターなど新しい試みもしましたね。また、広報普及の一環と言えらると思うけれど、厚生労働省に鍼灸師がどういうものか説明するのがたいへんでしたね。ずいぶん顔を出して、いろいろとやりましたよ。

司会 小川先生は日鍼会に「eラーニング」という新しい研修システムを企画・開発されましたが、どのような背景から導入にいたり、今後はどのような発展を期待していますか？

小川 日鍼会もブランドだといわれるけど何がブランドなのかと考えると、日鍼会の会員だったら最低こういうことができる、こういう間違いは犯しません、というのが必要なわけです。それには患者さんに、あなたはこういう状況です、こういうリスクがあります、としっかり伝えられる能力を持たなければいけない。ところが講習会を開くにも地域によってその環境がさまざま。だったら「eラーニング」がいいじゃないかと考えたわけです。そういう意味で「eラーニングを始めた」わけではなくて、やりたいことを実現するその手段が「eラーニングだった」ということになります。著作権の問題とか悩ましいことが多いけれど、まずは基礎となるCFSコースができたので、今後はそれがさらに発展して、日鍼会のブランド化に寄与することを期待しますね。

司会 要先生はまず、理事会体制の見直しを行われましたが、日鍼会の理想的な組織運営についてどのようにお考えですか？

要 前回の19名の理事から今回は理事が15名しかいないので、非常に窮屈な運営をしなければなりません。今までのように、ひとりの委員長がひとつのことをやっていく、という組織では横のつ

ながりを持ってませんでした。理事会自体も年に4回程度、業務執行理事以外はその4回に出て情報をパッと聞いただけで、それでは発言できない理事も多くいました。また、就任間もない理事には発言し辛いという雰囲気もありました。そこで、毎月の業務執行委員会を理事全員参加型にしてWeb会議をやりようと思ったわけです。そうすると常に情報は月に1回ほど入って来るので会務にも参加しやすいただろうと。しかし、いまだに都道府県代表やブロック代表という意識もみられるので、どこから出ようが日鍼会の理事として全国を考えて臨むよう意識を高めていきたいと思います。

司会 皆さんが、会長として大切にしていたこと、または、していることは何ですか？

相馬 組織の団結ですね。それには懇親会などの場も利用してコミュニケーションをはかるのは大切だと思います。忌憚のない意見が聞けるというような環境ができてきます。そして、組織の一番下で一生懸命動いてくれる体制のある会は会員も増えるんです。

仲野 私は、鍼灸医療や日鍼会の事業を各方面に伝えることに努めてきました。厚生労働省や国会議員などには意見もぶつけてきましたけど、いろいろと相談もして業界の発展を常に考えていましたね。

小川 どの組織でもリーダーは同じだと思うけど、自分がどういう目標を持っているのか、いわゆるマニフェストみたいなものをまず明確に示して、その経過を逐次報告していく必要があります。日鍼会に置き換えてみれば、それは会員として知りたいところでもあるので、それを「見える化」するよう努めてきました。やっていることは

全て、自分は今ここまで来ています、ここまで来ていませんよ、ということをはっきり示すようにしてきました。

司会 要先生は、まさに今、現在進行形ですが、いかがですか？

要 私は、いわゆる調和とか協調といわれるものですね。

意見を幅広く聞くと、どうしても集約するのが難しくなってしまうけれど、いろいろな意見があるので全てに耳を傾けて、齟齬が生じないように判断することにはしています。もうひとつは、ボランティア魂のような体質が残っていてそこに頼ってしまうきらいがあるので、そこを改革したいですね。

司会 ここからは皆さんにディスカッションをしていただきたいと思います。まず、現在の鍼灸業界の課題は何だと思いますか？

相馬 宣伝・広告だと思いますね。鍼灸がどんなものか、どういう効果があるのか。そして、どのような患者さんがこれを受けているのか。そんな鍼灸に関わる一部の人だけしか知らない情報を、もっと多くの国民に知らせる必要があると思いますね。

仲野 私は、われわれ鍼灸師自身に原因があると思うんですよ。鍼灸師法ができた時のことを考えると、そもそも国民の声としての高まりが低かったのかもしれない。社会的地位をこれまで以上に確立するには、そこをしっかりと認識したうえで、厚生労働省や国会議員に対してアプローチをしなければいけないと思いますね。われわれを取り囲む関連職種の人たちと一緒に議論し歩めば、必ずや道は開けると思います。

小川 先生方がおっしゃることを具現化するにはエビデンスが絶対必要なので、そのエビデンスを取る覚悟がわれわれにあるか、ということですよ。それには、お金はもちろん、かなりのリソースが必要となります。エビデンスがなければ政治家への働きかけすら意味をなしません。

要 それ以前に、鍼灸師の意識ですよ。われわれ業団が長年かけて築き上げてきたことで、会員の皆さんは等しくその果実を得られるわけだけれど、会費が高いから入らないと言われると返す言葉がない。その意識をどう変えるかというのは難しいですね。エビデンスも必要だと思うけれど、日本の鍼灸は群雄割拠でいろいろなやり方があるところもあるんですよ。目指すところは治療、つまり頂上。でも登り口がいっぱいあっていい反面、統合できない。そこをどう折り合いをつけるかというのは難しい問題ですね。

相馬 確かに、いくつかの鍼灸院へ行ってみるとそれぞれにやり方が違う。共通しているのは、もぐさと鍼を使うところだけと思われることがある



仲野彌和 元会長



小川卓良 前会長

かもしれませんが、もっと共通しているところがあるはずなんです。その共通点をまとめていくということだけでも、大きな作業じゃないかと思えます。たとえば、自然治癒力を使って回復を求めるとか、それぞれの経験のうえに基づいた治療の方法だとか、

その共通項をみつけて国民が納得してくれる情報を発信する必要があるのだと思えます。

小川 まさにそこでエビデンスが求められるのです。自然治癒力だとか免疫力の向上だとか言っても、鍼灸師が勝手に思っているだけで、国民の信頼には値しませんからね。そこから始めなければいけないのです。

相馬 そこまでの期待は、今の鍼灸師のレベルでは難しいですよ。肩が凝った、腰が痛い、施術してもらったら楽になったという話はいくらでもあるので、そこをきちんと整理して、症例報告でもいいんじゃないかと思えますけどね。鍼灸師のレベルアップも必要だとは思いますが、今の鍼灸師をレベルアップするのは難しいので、優秀な人材がこの業界に入ってくれるようになるといいですね。

小川 それは業界が魅力あるものでなければ入って来てくれませんか。もう何十年間も議論されて来ていることですし。東アジアでは、日本を除いて韓国、台湾、中国の鍼灸師は医師と同等かそれ以上ですよ。特に韓国と台湾は西洋医師よりも上ですからね。収入がいいから社会的魅力度も高い。そういう魅力ある職業であれば必然と優秀な人材が入って来る。だから魅力ある職業にするのが第一です。

要 それはもう制度の違いですよ。

小川 もちろんそうですね。たとえば、鍼灸師が漢方薬を扱える薬剤師の資格を持つようにしていく、というのにも必要だと思います。

要 でも今の学力じゃ難しいですよ。そこをどうするかですね。今の若い人たちはお金儲けに魅力を感じるのですよね。分かりやすいのは、美

容鍼とか不妊治療とか。単に流行りに飛びつくのはどうかと思います。40年ぐらい前にも痩身鍼とか流行りましたよね。医療事故がこわくないのかと心配しますね。特に美容鍼にはそういう危惧があります。きちんとやっているところはいいけれど、2～3日だけの講習会や、ともすると聞きかじりだけで施術に採り入れようとする。

仲野 倫理観がないからね、臨床家として一番大事なことが欠けていると思えますよ。同じ業界の人間として恥ずかしい。

要 日本鍼灸師会は倫理から始めないといけないですね。それがここの結論でしょうか。

司会 鍼灸業界の課題はディスカッションしていただきましたけれども、その環境にあって、日本鍼灸師会はこれからどうあるべきでしょうか？

要 流行りすたりに流されないような教育、いわゆる鍼灸術という、確たるものを考える必要があると思えます。

相馬 業界をよくしたいっていう人が集まって来て、みんなで代表者を選ぶというような、そういう組織でないと日鍼会は発展しないと思えますね。ひと様のために働こうとか、鍼灸業界のため日鍼会のために力を貸そうとか、そういう気概のある人がきつというはずですよ。

仲野 質を高めるためには少人数になっても構わない。質のいい集団にした方がいいのではないかと、そういう意見も出ていましたね。

小川 そこは悩ましい問題ですね。

仲野 確かに、「量」がないと動かせるものも動かせないのですからね。

小川 もっと会費を安くして多くの会員を獲得する、という考え方もありますけれどね。

相馬 たくさん集まった方が政治活動はしやすいけれど、各省庁との交渉ともなれば、やはり気の利いた優秀な人材が必要ですね。その辺の折り合いをつけながら進めていく必要がありますね。

司会 では最後に、それぞれにお聞きしますが、皆さんに



要 信義 会長

とって鍼灸とは何でしょうか？そして今後求められる鍼灸師像など鍼灸師に向けてのメッセージをお願いいたします。

相馬 私の生涯をかけた仕事、ということになるんでしょうけどもね。私の鍼灸治療で元気になった、楽になった、良くなったという声がひとりでも多くなるように努力をしてきたつもりです。それがどこまで叶っているのか分かりませんが、自分では自分なりに一生懸命やってきたというところで満足しています。これから求められる鍼灸師像ですか。少なくとも専門学校じゃなくて大学に昇格、あるいは大学を出た人が入って来る専門学校にする。もしくは、鍼灸師の資格を取るには大学を出ていなければいけないとか、そうしてレベルアップが図られることを期待しています。

司会 仲野先生にとって鍼灸とは何でしょうか？

仲野 鍼灸は人間に対する素晴らしいアプローチをしていると思うのです。たとえば薬や注射で感染症を抑え込む現代医療とは違う。現代医療は医療機器が進歩しているから進んでいるように思うだけでね。鍼ともぐさに頼るのも大事だけれども、その周辺にはいろいろなものがありますよ。温める方法だとか、ストレッチや運動をする方法だとか、筋膜に働きかける方法だとかね。そういうものを鍼灸師は嫌がらないで自分のテリトリーに取り込んでいく必要があると思います。

司会 今後求められる鍼灸師像、今の鍼灸師に向けてメッセージをお願いできますでしょうか？

仲野 自分の仕事の周辺のことをもっとしっかりと勉強しなければいけないですね。勉強することは山ほどありますよ。小さくかたまってしまうので、もっと視野を広げていろいろなことを学んでください。

司会 小川先生はいかがですか？

小川 私は医者になろうと思って医学部を目指していたんだけど、工学部へ進んで、結局は親の職業でもある鍼灸師の道に進みました。結果的に私にとって一生の職業になりました。常に一流の鍼灸師になろうと頑張ってきたので、全然悔いはありませんね。患者さんからいろいろ教わりました。こうやれば病気になってしまう、こうやればよくなるとかね。本当に鍼灸の道に進んでよかったと思っていますよ。今後求められる鍼灸師像っていうと、まさに、鍼灸師がプライマリ・ケアを

担うべきと思っています。西洋医学はIPSだとか遺伝子だとか、これからも発展していくでしょう。でも、一次予防がない。それがあるのは鍼灸だけです。病態把握力や鑑別診断力をつけて、鍼灸の周りにある栄養学やスポーツ学やいろいろなことを学ぶ。そしてプライマリ・ケアである第一次医療を担うべきだと僕は思っています。そこでしっかりとエビデンスを取っていけば、21世紀は鍼灸師の世界になると思っているくらいです。

司会 最後に要先生はいかがですか？

要 鍼灸が持つ希望と可能性ですね。鍼灸師も希望を持っているし、患者さんも希望を持っている。自分が変わることもできるし、患者さんを変えることもできる。可能性がいっぱいあるなど。患者さんと接していると、日々進化をしているように思います。今後求められる鍼灸師像は、自分で工夫をしながらいろいろなことをやっていくことですね。私自身は学会や実技講習に参加しても実際には試さないことの方が多い。自分なりにそれを少しずつでも身につけていけば、もっと変われるところもあるんだろうけどね。皆さんには、ぜひ、いろいろ工夫して欲しいと思いますね。医学がどんなに進んでも鍼灸は必要であると思います。むしろ医学が進歩すればするほど。最後に鍼灸師へのメッセージですね。先達の言葉を借りるなら「医は仁ならざるの術」です。「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」これですよ。これで締めくくらせていただきます。

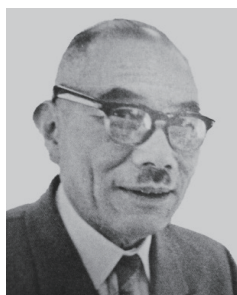
司会 皆さん誠にありがとうございました。



左から、児山広報普及IT委員長、小川前会長、要会長、相馬元会長、仲野元会長、大口創立70周年記念事業実行委員長

2021年11月13日（土）
於、ホテルメトロポリタン（東京都豊島区）

歴代会長



初代会長
樋口鉞之助



第二代会長
相川勝六



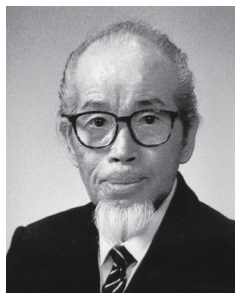
第三代会長
花田 傳



第四代会長
岡部素道



第五代会長
木下晴都



第六代会長
小川晴通



第七代会長
谷口健藏



第八代会長
中村万喜男



第九代会長
井口達也



第十代会長
相馬悦孝



第十一代会長
仲野彌和



第十二代会長
小川卓良



現会長
要 信義

役員名簿

平成23年5月29日

通常総会

平成23年5月29日

役員改選

平成24年6月3日

通常総会

青木理事退任のため補欠選挙

会長		仲野 彌和	三重
副会長・業務執行理事		高橋 清人	埼玉
副会長 業務執行理事	海外情報委員会委員長	小松 秀人	東京
常任理事 業務執行理事	研修事業担当	大湊隆次郎	北海道
	公衆衛生事業担当	長谷川栄一	愛知
	福祉事業担当	大口 俊徳	埼玉
	会員相互扶助事業担当	永島 茂雄	千葉
	法人管理事業担当	奥本 憲司	大阪
理事	研修委員会委員長	稲井 一吉	宮城
	学術委員会委員長	三浦 洋	東京
	健保委員会委員長	中村 聡	静岡
	介護予防委員会委員長	高田 常雄	東京
	広報普及委員会委員長 編集担当	一見 隆彦	三重
	広報普及委員会 副委員長	青木 正雄	東京
	広報普及委員 普及担当	三木 完二	大阪
	広報普及委員 IT委員会委員長	堀口 正剛	大阪
	組織委員会委員長	稲垣 吉一	北海道
	組織委員 保障プラン担当	伊集院 克	東京
	組織委員 青年委員会委員長	吉田 克典	兵庫
	組織委員 組織委員会委員	内田 輝和	岡山
	法人管理委員会委員長	日野 博	神奈川
	法人管理委員	南 治成	大阪
顧問（弁護士）	川上 詩朗	東京	
監事	浜田 暁	大阪	
	井上 慶山	京都	
外部監事（公認会計士）	大西美喜男	大阪	

会長		仲野 彌和	三重
副会長・業務執行理事		高橋 清人	埼玉
副会長 業務執行理事	海外情報委員会委員長	小松 秀人	東京
常任理事 業務執行理事	研修事業担当	大湊隆次郎	北海道
	公衆衛生事業担当	長谷川栄一	愛知
	福祉事業担当	大口 俊徳	埼玉
	会員相互扶助事業担当	永島 茂雄	千葉
	法人管理事業担当	奥本 憲司	大阪
理事	研修委員会委員長	稲井 一吉	宮城
	学術委員会委員長	三浦 洋	東京
	健保委員会委員長	中村 聡	静岡
	介護予防委員会委員長	高田 常雄	東京
	広報普及委員会委員長 編集担当	一見 隆彦	三重
	広報普及委員 普及担当	三木 完二	大阪
	広報普及委員 IT委員会委員長	堀口 正剛	大阪
	組織委員会委員長	稲垣 吉一	北海道
	組織委員 保障プラン担当	伊集院 克	東京
	組織委員 青年委員会委員長	吉田 克典	兵庫
	組織委員 組織委員会委員	内田 輝和	岡山
	法人管理委員会委員長	日野 博	神奈川
	法人管理委員	南 治成	大阪
	顧問（弁護士）	川上 詩朗	東京
監事	浜田 暁	大阪	
	井上 慶山	京都	
外部監事（公認会計士）	大西美喜男	大阪	

平成25年6月2日
平成25年6月2日

通常総会
役員改選

会長		仲野 彌和	三重
副会長・業務執行理事		小松 秀人	東京
		大口 俊徳	埼玉
常任理事 業務執行理事	法人管理事業担当	奥本 憲司	大阪
	研修事業担当 海外情報委員会委員長	三浦 洋	東京
	公衆衛生事業担当	長谷川栄一	愛知
	福祉事業担当	高田 常雄	東京
	会員相互扶助事業担当	永島 茂雄	千葉
	研修事業・会員相互扶助 事業担当	中村 聡	静岡
	公衆衛生事業担当	一見 隆彦	三重
理事	研修委員会委員長	稲井 一吉	宮城
	介護予防委員会委員長	松浦 正人	東京
	健保委員会委員長	要 信義	福岡
	広報普及委員 普及担当	三木 完二	大阪
	広報普及委員 IT委員会委員長	堀口 正剛	大阪
	学術委員会委員長	稲垣 吉一	北海道
	組織委員 保障プラン担当	伊集院 克	東京
	組織委員 青年委員会委員長	内田 輝和	岡山
	広報普及委員会委員長 法人管理委員	日野 博	神奈川
	法人管理委員会委員長	南 治成	大阪
	組織委員会委員長	大湊隆次郎	北海道
	法人管理委員	細田 敬二	山梨
	顧問（弁護士）	川上 詩朗	東京
監事	浜田 暁	大阪	
	井上 慶山	京都	
外部監事（公認会計士）	大西美喜男	大阪	

平成27年6月7日
平成27年6月7日

通常総会
役員改選

会長		仲野 彌和	三重
副会長 業務執行理事		大口 俊徳	埼玉
		南 治成	大阪
常任理事 業務執行理事	法人管理事業担当	細田 敬二	山梨
	研修事業担当 海外情報委員会委員長	三浦 洋	東京
	公衆衛生事業担当	一見 隆彦	三重
	福祉事業担当	松浦 正人	東京
	会員相互扶助事業担当	堀口 正剛	大阪
	研修事業・会員相互扶助 事業担当	中村 聡	静岡
	研修委員会委員長	永島 茂雄	千葉
理事	学術委員会委員長	内田 輝和	岡山
	海外情報委員会委員長	一ノ瀬 宏	東京
	介護予防委員会委員長	高田 常雄	東京
	健保委員会委員長	要 信義	福岡
	広報普及委員 普及担当	安田 政寛	長野
	組織委員会委員長	松岡 武次	大阪
	組織委員 保障プラン担当	伊集院 克	東京
	青年委員会委員長 学術副委員長	森 敏郎	北海道
	広報普及委員会委員長 法人管理委員	日野 博	神奈川
	顧問（会計士）	大西美喜男	大阪
監事	浜田 暁	大阪	
	井上 慶山	京都	
外部監事（弁護士）	川上 詩朗	東京	

※H27.7.7高田辞任

※H29.5.7伊集院辞任

平成29年6月4日

通常総会

平成29年6月4日

役員改選

会長		仲野 彌和	三重
副会長・業務執行理事		大口 俊徳	埼玉
		南 治成	大阪
常任理事 業務執行理事	法人管理事業担当	細田 敬二	山梨
	研修事業担当	小川 卓良	東京
	公衆衛生事業担当	一見 隆彦	三重
	福祉事業担当	松浦 正人	東京
	会員相互扶助事業担当	堀口 正剛	大阪
	研修事業・会員相互扶助事業担当	中村 聡	静岡
		安田 政寛	長野
理事		飯田 孝道	茨城
		一ノ瀬 宏	東京
		要 信義	福岡
		国安 俊成	岡山
		児山 俊浩	愛知
		高田 常雄	東京
		寺川 華奈	愛媛
		永島 茂雄	千葉
		松岡一武次	大阪
		森 敏郎	北海道
監事事		浜田 暁	大阪
		井上 慶山	京都
外部監事（弁護士）		川上 詩朗	東京

※H30.3.16松岡辞任

令和元年6月9日

通常総会

令和元年6月9日

役員改選

会長		小川 卓良	東京
副会長 業務執行理事		中村 聡	静岡
	福祉事業担当	松浦 正人	東京
		大口 俊徳	埼玉
		南 治成	大阪
常任理事 業務執行理事	研修事業担当	永島 茂雄	千葉
	公衆衛生事業担当	児山 俊浩	愛知
	会員相互扶助事業担当	堀口 正剛	大阪
	研修事業・会員相互扶助事業担当	要 信義	福岡
	法人管理事業担当	高田 常雄	東京
	東京オリ・パラ担当	安田 政寛	長野
理事		飯田 孝道	茨城
		内田 輝和	岡山
		国安 俊成	岡山
		幸崎裕次郎	広島
		武内 潔	東京
		寺川 華奈	愛媛
		細田 敬二	山梨
		矢津田善仁	福岡
監事		仲野 彌和	三重
		浜田 暁	大阪
外部監事（弁護士）		川上 詩朗	東京

令和3年6月13日

通常総会

令和3年6月13日

役員改選

会長		要 信義	福岡
副会長 業務執行理事	福祉事業担当	中村 聡	静岡
	公衆衛生事業担当	南 治成	大阪
	研修事業担当	安田 政寛	長野
業務執行理事	法人管理事業担当 国際委員長	寺川 華奈	愛媛
理事	研修委員長	堀口 正剛	大阪
	学術委員長	永島 茂雄	千葉
	地域ケア推進委員長	菅野 幸治	東京
	広報普及IT委員長	児山 俊浩	愛知
	組織委員長	新名 美恵	兵庫
	健保委員長	小林潤一郎	東京
	東京オリ・パラ委員長	高田 常雄	東京
	危機管理委員長	矢津田善仁	福岡
	組織副委員長 法人管理副委員長	武内 潔	東京
	70周年記念準備委員長	大口 俊徳	埼玉
監事		仲野 彌和	三重
		浜田 暁	大阪
外部監事（弁護士）		川上 詩朗	東京

※R3.7.4 臨時総会で承認

委員会一覧表

2022年1月1日

■会長 要 信義 ■副会長 中村 聡・南 治成・安田 政寛

委員会	委員長	副委員長	委員			
研修委員会	堀口 正剛	荒木 善行	飛塚 峻介	加藤 竜司	西村 理恵	今村 頌平
			奥田 一道	木暮 守宏	菊池 友和	前嶋 拓也
学術委員会	永島 茂雄	寺川 華奈	粕谷 大智	渡辺 悠紀	中村 宏孝	野村森太郎 ^{※1}
			平地 治美	村田 守宏		
地域ケア推進委員会	菅野 幸治	近 千明	上條 弘明	日野 智之		
広報普及IT委員会	児山 俊浩	矢津田善仁	牧 正明	岡田 高	廣橋久美子	佐合 基樹
		堀口 正剛	端場真美弥	是元 佑太	瀧本 一	松浦 朱里
国際委員会	寺川 華奈	藤林 初枝	新名 美恵	高倉 成男		
健保委員会	小林潤一郎	平野 健一	瓜生 公一			
組織委員会	新名 美恵	武内 潔	北 虎哲	森下 輝弘		
青年委員会	風間 祐二	新名 美恵	秋元 良公	北 虎哲	是元 佑太	三浦 秀隆
			寺井 久人	佐久間 鴻	端場真美弥	
70周年記念事業実行委員会	大口 俊徳	日野 博	一見 隆彦	今井 幸司	荻原 健太	
東京オリンピック・パラリンピック委員会	高田 常雄	児山 俊浩	井坂 有杏	小峰 拓也	是元 佑太	石川 亮一
			三宅なつえ	丹波 徹二	若杉 昌司	
危機管理委員会	矢津田善仁	是元 佑太	堀口 正剛	今村 頌平	清水 洋二	高木 謙輔
			佐藤 寛崇	君島三佐子		
法人管理委員会	寺川 華奈	武内 潔	永島 茂雄	小林潤一郎	菅野 幸治	

※1 全国大会開催1年前から全国大会終了まで期間限定の学術委員、担当師会実行委員会より推薦、理事会で承認済み。

■ブロック会長

北海道	菅野 徳幸	近 畿	得本 誠
東北	稲井 一吉	中国四国	国澤 光陽
関東信越	河原 保裕	九州	古賀慶之助
東海北陸	定池 寿		

公益社団法人日本鍼灸師会代議員95名

2021年6月13日
代議員選挙管理委員会

北海道選挙区 (5名)	東京都選挙区 (10名)	愛知県選挙区 (4名)	岡山県選挙区 (3名)
加藤 竜司 菅野 徳幸 齊藤 正樹 高橋 哲裕 藤本 定義	秋元 良公 井坂 有杏 井坂 卓司 小口 政博 折原 瑛哲	石井美恵子 長谷川栄一 清水 朋夫 吉崎 和樹	才野 優一 西谷 典人 馬場みずほ
青森県選挙区 (1名)	遠山 茂	三重県選挙区 (2名)	広島県選挙区 (2名)
橋本 博明	仲田 欣司	岡田 賢	光保 和博 山下 桂史
岩手県選挙区 (1名)	藤井 伸康	新谷 有紀	山口県選挙区 (1名)
戸崎 幸治	曲渕 尚子	滋賀県選挙区 (1名)	河野 素道
宮城県選挙区 (1名)	安川 三郎	飯塚 季也	徳島県選挙区 (1名)
稲井 一吉	神奈川県選挙区 (5名)	京都府選挙区 (3名)	篠原 新作
秋田県選挙区 (1名)	草山真紀夫	田島 好明	香川県選挙区 (1名)
矢野 仁	古思 成人	平野 健一 森岡 正和	大塚 安混
山形県選挙区 (1名)	清水 慎司	大阪府選挙区 (7名)	愛媛県選挙区 (2名)
奥山 千晴	秦 宗広	喜多 伸治	宇都宮信博 高橋 正佳
福島県選挙区 (1名)	藤田 洋輔	北川 肇	高知県選挙区 (1名)
三瓶 真一	新潟県選挙区 (1名)	得本 誠	国澤 光陽
茨城県選挙区 (1名)	中澤 義則	富永 礼子	福岡県選挙区 (2名)
大高 達雄	山梨県選挙区 (1名)	永澤 至子	古賀慶之助 坂本 樹弘
栃木県選挙区 (1名)	渡邊 慎司	比村 隆男	佐賀県選挙区 (1名)
高秀 喜幸	長野県選挙区 (3名)	吉村 春生	楊 栄治
群馬県選挙区 (2名)	有賀 大祐	兵庫県選挙区 (3名)	長崎県選挙区 (2名)
木暮 守宏	今村 頌平	小西作太郎	高比良伸哉
田中 一行	大窪 隆人	宮川 浩	中村 陽一
埼玉県選挙区 (4名)	富山県選挙区 (1名)	森口 一也	熊本県選挙区 (1名)
大谷 尚子	宮西 和男	奈良県選挙区 (1名)	高橋 武良
加藤 政明	石川県選挙区 (1名)	石田 善紀	大分県選挙区 (1名)
河原 保裕	定池 寿	和歌山県選挙区 (1名)	杉若 晃紀
山口 智	岐阜県選挙区 (1名)	中野 正得	宮崎県選挙区 (1名)
千葉県選挙区 (3名)	高田 幸枝	福井県選挙区 (1名)	杉田 智俊
中村 宏孝	静岡県選挙区 (3名)	中村 寛	鳥取県選挙区 (1名)
塙 智維	池田 益代	西川 徳彦	鹿児島県選挙区 (2名)
宮山 秀樹	榎田 誠	島根県選挙区 (1名)	妹尾 隆二 和田 洋文
	大橋 教正	松崎 幹夫	沖縄県選挙区 (1名)
			伊禮 隆一

社団法人 日本鍼灸師会

70年のあゆみ

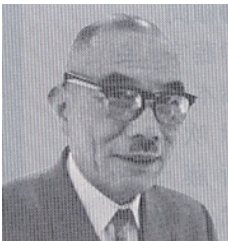
1950～2020

●昭和25年9月17～18日、全国鍼灸懇談会が大阪の久本寺において、24都府県より出席され行われた。この集まりが、日本鍼灸師会の設立準備会となる。



▲昭和27年1月 厚生省後援 第1回学術講習会
(於：厚生省5階講堂)

●昭和25年11月30日に参議院会館第1会議室で、日本鍼灸師会設立総会が開催された。来賓に厚生大臣をはじめ衆参関係議員4名、厚生省2名ご臨席の下、開催された。この席で、初代会長樋口鍼乃助先生が選任された。



▲初代会長 樋口鍼乃助 (昭和25～26年度)

●昭和27年1月26日、厚生省5階講堂にて行われた厚生省後援による第1回学術講習会を始まりとし、学術講習会は本年度も毎月欠かすことなく59期目がスタートしている。



▲二代会長 相川勝六 (元厚生大臣) (昭和27～29年度)

●第2代目の会長は元厚生大臣で在られた相川勝六先生が選任された。

昭和26年3月25日に「日本鍼灸師會々報」を発刊し、昭和28年からは現在と同じ名称である「日本鍼灸新報」となる。



日本鍼灸新報編集
花田伝
昭和28年11月

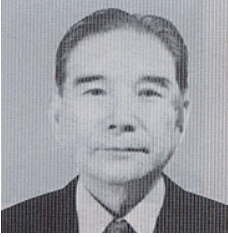


▲日本鍼灸新報



▲三代会長 花田 傳 (昭和30～32年度)

●現在の学校法人花田学園の創始者である花田傳先生が昭和30年度の総会において3代目会長に選任される。



▲四代会長 岡部素道（昭和33～45年度）

●岡部素道先生が昭和33年度の総会において4代目会長として選任される。その後、6期12年もの長期の間会長を務める。

本会及び日本鍼灸治療学会主催による昭和40年10月18～20日に第1回国際鍼灸世界大会が東京の上野会館で行われ、鈴木善幸厚生大臣や武見太郎日本医師会会長、ジャンジレーフランス鍼灸協会会長など多くの来賓のご臨席の下、盛大に挙行された。



昭和40年10月 第1回国際鍼灸世界大会



▲五代会長 木下晴都（昭和46～57年度）

●昭和46年度の総会において第5代会長木下晴都会長が選任された。その後、6期12年長期の間、会長職を務められる。

昭和48年5月に中国から鍼灸医師の訪問団が来日し、同年9月には日本鍼灸師会の青年会員らが中国を訪問する。

昭和50年11月6～18日、第1次日本鍼灸師会訪中団団長は木下会長。医学交流を深め中国医学と経穴の部位を打合せた。昭和53年2月には第2次訪中団を派遣、中村万喜男団長ら総勢25名がこれに参加した。



昭和48年5月 中国・鍼灸医師代表団



昭和50年11月 日中の医学交流

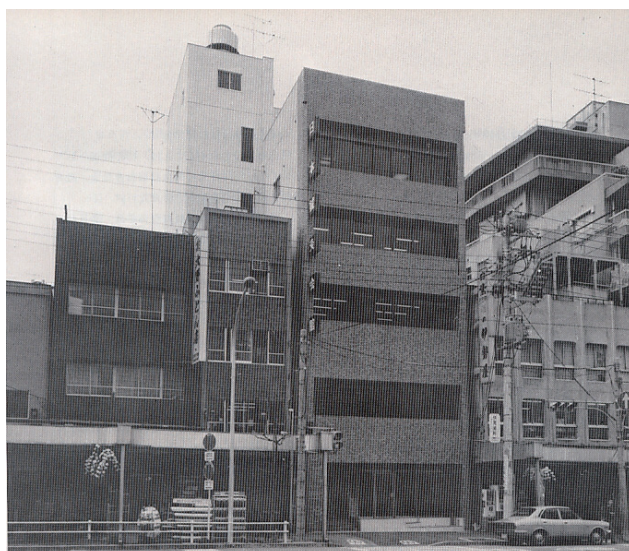
●昭和52年10月22～25日、日本都市センターで第5回国際鍼灸世界大会、第27回日本鍼灸治療学会の共催により、木下会長下、32カ国から350名、参加者総数1600名で盛大に行われた。



昭和52年10月 第5回国際鍼灸世界学会

●東京都豊島区南大塚にある現在の日本鍼灸会館は、昭和53年5月20日に竣工式を行い会館の使用が始まった。

この年に明治鍼灸短期大学が開校する。



昭和53年5月 日本鍼灸会館竣工



昭和53年5月 日本鍼灸会館竣工記念祝賀会

●昭和56年3月開始の「鍼灸臨床研修指導者講習会」の準備委員会が、2年前の54年2月に始まった。「会員の資質の向上と臨床訓練生の育成に対するカリキュラムの基準化」を目的として、各都道府県鍼灸師会の臨床指導者の養成のため発足させた。そして今年度で30回目を迎えようとしている。



昭和54年2月 鍼灸臨床研修指導者講習会準備委員会

●昭和54年6月には北京で鍼灸・鍼麻醉学術討論会が行われ、本会からは木下晴都会長が代表に選ばれ出席した。



昭和54年6月 鍼灸・鍼麻醉学術討論会（於：北京）

●日本鍼灸師会の唯一の姉妹団体である日本鍼灸治療学会は、昭和55年に日本鍼灸医学会と合同し、その年の4月「社団法人全日本鍼灸学会」に生まれ変わり新たな出発をした。

昭和27年1月より毎月欠かさず行ってきた学術講習会が30周年を迎え記念式典を行う。



昭和55年10月 第30回日本鍼灸治療学会学術大会



昭和56年12月 学術講習会30周年記念式典

●昭和56年3月21日にWHO西太平洋地域事務局長中嶋宏博士と会合、経絡経穴の国際統一を協議した。これを機に第一次経穴委員会がスタートした。



昭和56年3月 WHO中嶋博士と経穴委員

●昭和58年度の総会において、第6代会長として小川晴通先生が選任され、平成元年度まで会長を務めた。
昭和60年5月13日、椿山荘において社団法人日本鍼灸師会創立35周年記念式典が多くの来賓の下、

盛大に開催。その中で医療事業功労者として45名に厚生労働大臣表彰が授与された。



▲六代会長 小川晴通（昭和58～平成元年度）



昭和60年5月 創立35周年 医療事業功労者

●昭和62年11月22～26日北京において、世界鍼灸学会連合会（WFAS）の設立総会があり、第1回世界鍼灸学術大会が開催された。



昭和62年11月 世界鍼灸学会連合会
第1回世界鍼灸学術大会

●倫理綱領の制定

自らを慎み、人を思いやり、私欲に走らず、自然の道に従う、学術の研鑽と同時に高い倫理観を具えることこそ鍼灸の進歩発展につながるものであり、鍼灸師の社会的信頼性を高めることにつながる。その意味でこの倫理綱領を制定したことは意義深いものである。本会では、医療の一端を担う鍼灸師として当然守るべきモラルを確立するため

に、昭和62年4月に「日本鍼灸師会倫理綱領」を定めた。



昭和62年4月 倫理綱領

●平成2年度の総会において、第7代目会長として谷口健藏先生が選任され、平成4年度まで会長を務める。



▲七代会長 谷口健藏（平成2～4年度）

●昭和63年5月31日にあはき法217号が大幅に改正され、都道府県知事免許であった鍼灸師などの資質向上を図るため、厚生大臣指定講習会が開催された。平成2年11月から平成6年まで行われ、総計23,893名が講習を修了した。



平成2年11月 厚生大臣指定講習会が開始



平成2年4月 第一次経穴委員会 最後の総会

●平成2年5月14日椿山荘において社団法人日本鍼灸師会創立40周年記念式典が盛大に行われた。



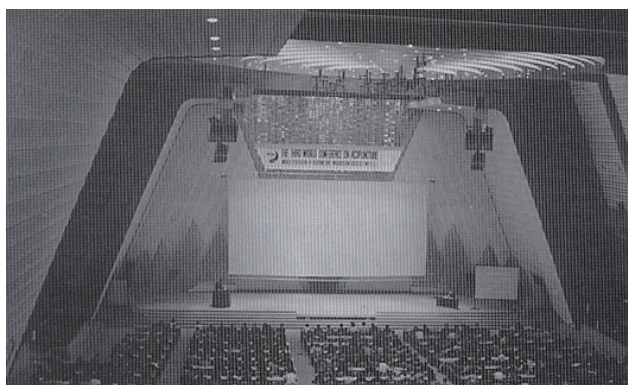
平成2年5月 創立40周年記念式典

●平成5年度の総会において、第8代目会長として中村万喜男先生が会長となる。



▲八代会長 中村万喜男（平成5～9年度）

●平成5年11月20日 第3回WFAS世界鍼灸学術大会が京都の国際会議場で行われる。



平成5年11月20日 第3回WFAS世界鍼灸学術大会（京都）

●平成10年度の総会において第9代会長として井口達也先生が選任され、平成14年まで務める。



▲九代会長 井口達也（平成10～14年度）

●平成12年1月20日、保険取扱いを推進するため、日本鍼灸師会と全日本鍼灸マッサージ師会の2団体で日本保険鍼灸師会連合会が設立された。



平成12年1月 日本保険鍼灸師会連合会設立総会

●平成12年5月29日、赤坂プリンスホテルにおいて多数の来賓、関係者を招いて創立50周年の記念式典が盛大に開催された。



平成12年5月 創立50周年記念式典



平成12年5月 創立50周年記念式典 受賞者の方々

●平成13年10月7～8日、福岡県福岡市の明治生命ホールで第3回臨床学術大会が開催された。



平成13年10月 第3回臨床学術大会

●平成14年5月24日、日本鍼灸師会、全日本鍼灸マッサージ師会、日本あん摩マッサージ指圧師会、日本盲人会連合の4団体で保険を推進するために結成された鍼灸マッサージ保険推進協議会が、ご

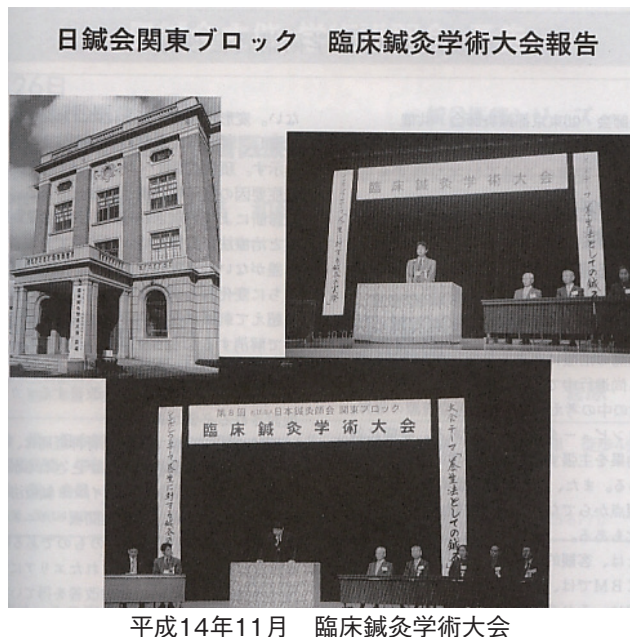
理解ある国会議員の協力の下、療養費の期間・回数制限の撤廃に漕ぎ着けた。



●平成14年7月28日、期間・回数制限の撤廃に伴う説明会として、東京都豊島区のメトロポリタンプラザにおいて、日本鍼灸師会、全日本鍼灸マッサージ師会の2団体で全国合同保険部長会議を開催した。



●全国の各ブロックにおいても臨床鍼灸学会大会が盛んに開催されている。



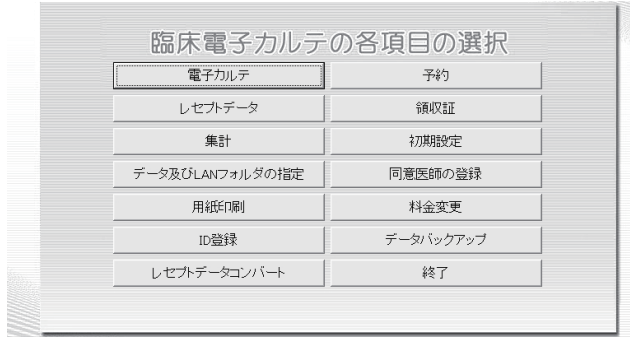
●平成15年10月12～13日に金沢市文化ホールにおいて開催された第4回臨床学術大会を最後に現在の日本鍼灸師会全国大会に引き継がれた。



●平成15年2月9日相馬悦孝会長が藍綬褒章受章を拝受され、お祝いがなされた。また平成21年には、旭日単光章の栄に浴された。

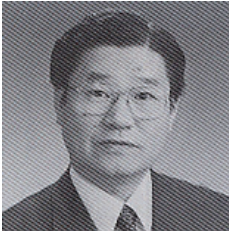


●平成15年12月には、療養費支給申請書作成対応電子カルテDKシステムが販売を開始。視力障害者のことも考え、音声入力対応ソフトとなっている。現在、広報局が担当している。



平成15年12月
レセプト対応電子カルテDKシステムの販売開始

●平成15年度の総会により、第10代目会長として相馬悦孝先生が選任される。



▲第十代会長 相馬悦孝（平成15年度～22年度）

●平成16年1月組織局の組織部において、入会案内用パンフレット（漫画版）を作成した。

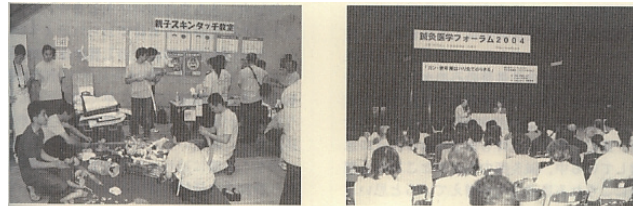


平成16年1月 入会案内一新

●平成16年6月13日、千葉県幕張メッセにおいて行われた全日本鍼灸学会全国大会において、日本鍼灸師会による鍼灸医学フォーラム2004を開催した。



鍼灸医学フォーラム 2004 開催される
平成16年6月 鍼灸医学フォーラム2004開催
全日本鍼灸学会in千葉において（於：幕張メッセ）



平成16年6月 鍼灸医学フォーラム2004開催

●平成16年8月28～29日に四国リハビリテーション学院とユープラザうたづにおいて、第41回日本鍼灸師会全国青年部集会in香川大会が開催された。この大会を最後に、全国集会としての単独開催は終了し、平成17年からは日本鍼灸師会全国大会に引き継がれている。



開会式風景（壇上中央・横山実行委員長）
平成16年8月 第41回日青全国集会

●平成16年10月29～31日、オーストラリアのゴールド・コーストにおいて世界鍼灸学会連合会、第6回世界鍼灸学術大会が開催された。



平成16年10月29-31日 世界鍼灸学会連合会
第6回世界鍼灸学術大会in Gold Coast Australia

●平成17年5月15日に創立55周年記念式典がサンシャインシティプリンスホテルにて行われる。



開式の辞（井上度山副会長）



日鍼会会長表彰受賞者代表 山中亮助氏（右）



厚労大臣祝辞を代読する中垣厚労省医政局医事課長

平成17年5月 創立55周年記念式典

●平成17年10月9～10日に静岡県浜松市のオークラクトシティホテル浜松において、第1回日本鍼灸師会全国大会が開催された。今後この大会は第5回臨床学術大会、第42回日青全国集會、第25期鍼灸臨床研修会を集約して行うこととなった。

第1回 第5回臨床学術大会
第42回日青全国集會
第25期鍼灸臨床研修会

社団法人 日本鍼灸師会 全国大会

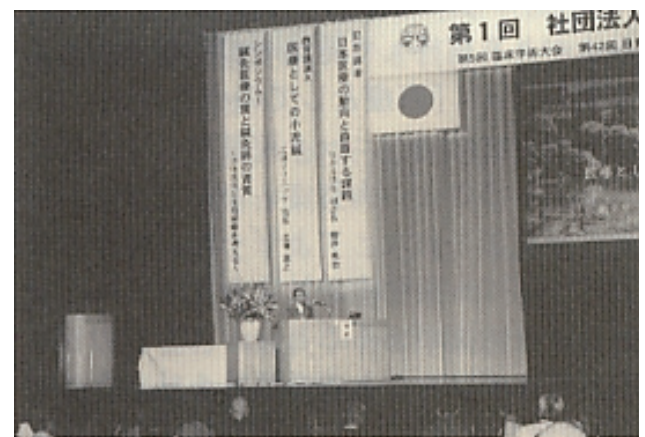
大会テーマ
「今、求められる鍼灸医療
～広めよう! 信頼と鍼灸効果～」

会 期
平成17年10月8日(土)～9日(日)
「第25期鍼灸臨床研修会」
平成17年10月9日(日)～10日(月・祝日)
「第1回社団法人日本鍼灸師会全国大会」

会 場
オークラクトシティホテル浜松
〒430-7790 浜松市板橋町111-2 ☎053-459-0111
アクトシティ浜松
〒430-7790 浜松市板橋町111-1 ☎053-461-1112

主催 社団法人 日本鍼灸師会
共催 静岡県鍼灸師会

平成17年10月 第1回日本鍼灸師会全国大会

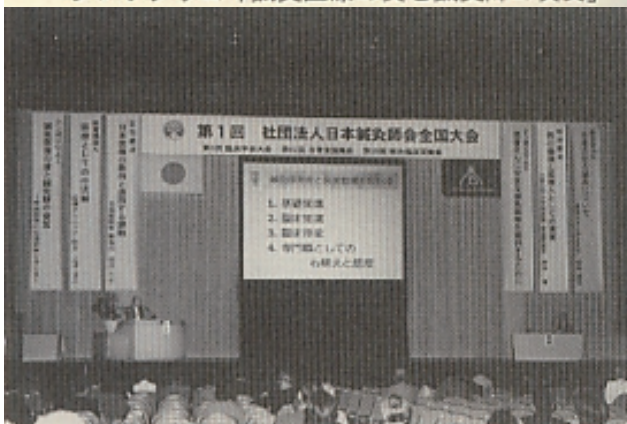


医療としての小児鍼（広瀬滋之広瀬クリニック院長）

平成17年10月 第1回日本鍼灸師会全国大会



シンポジウム「鍼灸医療の質と鍼灸師の資質」



医の倫理と医療人としての資質〈津田 司三重大学大学院教授

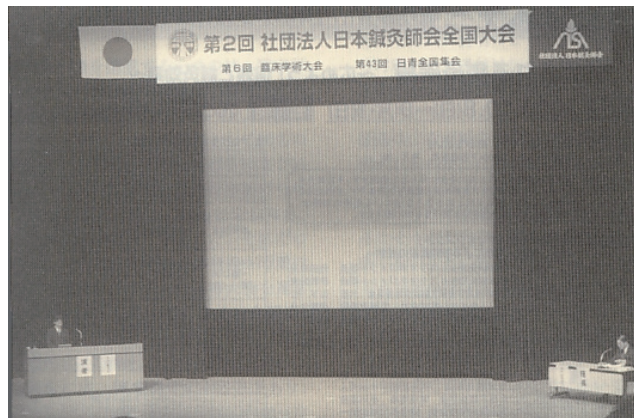
平成17年10月 第1回日本鍼灸師会全国大会

●平成17年12月3日に日本医師会館において、国民医療推進協議会、日本医師会、東京都医師会の主催による国民皆保険制度を守る国民集会が開催される。



平成17年12月 国民皆保険制度を守る国民集会

●平成18年10月8～9日東京都北区の北とぴあにおいて第2回日本鍼灸師会全国大会が盛大に開催された。



教育講演「がんになってもあわてない」講演中の諏訪中央病院緩和ケア科主任医長 平方 眞氏(と
と庵長の相馬樹孝会長

平成18年10月 第2回日本鍼灸師会全国大会

●平成19年11月20日、京都の国際会議場において、「外国での鍼灸による膝関節症の治療効果について」の国際シンポジウムin京都が開催される。



平成19年11月 国際シンポジウムin京都

●平成18年から始まった介護予防運動指導員養成講座も現在では約700名の養成が終了し、受講者により各地で地域支援事業としての高齢者の筋力向上トレーニングを実施している。



懇親会終了後に恒例の記念撮影



マットを使った演習でひと汗かきました

平成19年 高齢者の筋力向上トレーニング指導者研修会
介護予防運動指導員養成講座in三重

●平成19年10月6～7日、大阪市のホテルグランヴィア大阪において、第3回日本鍼灸師会全国大会in大阪が開催された。

テーマは「今、求められる鍼灸医療～広めよう！
信頼と鍼灸効果～」であった。



平成19年10月 第3回日本鍼灸師会全国大会



開会式で挨拶をのべる相馬会長

平成19年10月 第3回日本鍼灸師会全国大会

●平成19年7月に日本鍼灸師会、全日本鍼灸学会、東洋療法学校協会、全日本鍼灸マッサージ師会の4団体による、鍼灸の受療者を拡大するための研究・研修・普及啓発を行う「鍼灸医療推進研究会」が当初5ヶ年の予定で発足した。



鍼灸医療推進研究会会場の様子

平成19年7月 鍼灸医療推進研究会

●平成21年10月11～12日、東京都千代田区のホテルメトロポリタンエドモントにおいて、第5回日本鍼灸師会全国大会が行われた。



平成21年10月 第5回日本鍼灸師会全国大会



開会の辞をのべる相馬大会会頭

平成21年10月 第5回日本鍼灸師会全国大会

●第5回全国大会では、俳優で歌手の倍賞千恵子さんと順天堂大学大学院のアンチ・エイジングの研究で有名な白澤教授が健康トークの都民公開講座を行った。



白澤教授と倍賞千恵子さんの健康トーク

平成21年10月 第5回日本鍼灸師会全国大会

●事務局が担当している「鍼灸臨床研修会」は来年で30回を迎える。



左から仙台、東京、大阪での一般口演風景

●(社)日本鍼灸師会の「鍼灸臨床研修会」は来年30回を迎えます

●平成22年10月10～11日、京都テルサにて第6回日本鍼灸師会全国大会in京都が開催された。テーマは「鍼灸が効く!だから治せる～伝統医療の真価を発揮して～」であった。

平成22年10月 第6回日本鍼灸師会全国大会



開会の辞をのべる相馬大会会頭

●平成22年（2010年）に創立60周年を迎え、同年5月16日にホテルグランパシフィック LE DAIBAで創立記念式典・公開講座・緊急特別講演・祝賀会が開催された。



創立60周年記念式典

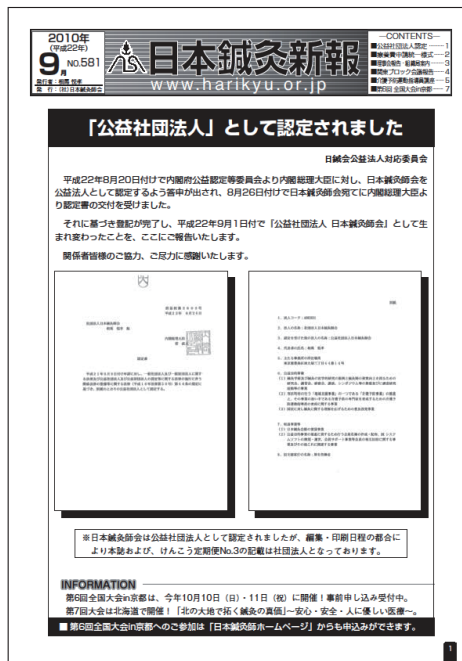


市民公開講座「元気の源は日本型の食生活から」
講師：料理研究家 清水信子氏



緊急特別講演「鍼灸に期待するもの」
講師：ジャーナリスト
国際医療福祉大学大学院教授 黒岩祐治氏

●平成22年（2010年）8月26日に公益社団法人として認定される。同年9月発行の日本鍼灸新報No.581で全国の会員に周知し、翌年5月の平成23年度定時代議員総会（会員数6,257名）では代議員数125名が出席して、公益社団法人として初の総会を東京ステーションコンファレンス・サピアタワーで開催された。



日本鍼灸新報No.581

●平成23年（2011年）2月27日に日本鍼灸会館で、平成22年度臨時時代議員総会が開催された。



平成22年度臨時時代議員総会

●平成23年度（2011年度）定時代議員総会で役員改選が行われ、理事会で仲野彌和氏が新会長に就任した。



挨拶を述べる相馬会長



東日本大震災の現状報告と義援金等支援に対し感謝を述べる宮城、岩手、福島、茨城、千葉の各県鍼灸師会会長



▲十一代会長 仲野彌和（平成23年～30年度）

2011年 6月
No.590
www.nihonkyu.com

日本鍼灸新報

CONTENTS 理事役員挨拶……………1 ■ 2011年総会報告……………2 ■ 総会報告第一集……………3 ■ 総会報告第二集……………4 ■ 総会報告第三集……………5 ■ 総会報告第四集……………6 ■ 総会報告第五集……………7 ■ 総会報告第六集……………8 ■ 総会報告第七集……………9 ■ 総会報告第八集……………10 ■ 総会報告第九集……………11 ■ 総会報告第十集……………12 ■ 総会報告第十一集……………13 ■ 総会報告第十二集……………14 ■ 総会報告第十三集……………15 ■ 総会報告第十四集……………16 ■ 総会報告第十五集……………17 ■ 総会報告第十六集……………18 ■ 総会報告第十七集……………19 ■ 総会報告第十八集……………20 ■ 総会報告第十九集……………21 ■ 総会報告第二十集……………22 ■ 総会報告第二十一集……………23 ■ 総会報告第二十二集……………24 ■ 総会報告第二十三集……………25 ■ 総会報告第二十四集……………26 ■ 総会報告第二十五集……………27 ■ 総会報告第二十六集……………28 ■ 総会報告第二十七集……………29 ■ 総会報告第二十八集……………30 ■ 総会報告第二十九集……………31 ■ 総会報告第三十集……………32 ■ 総会報告第三十一集……………33 ■ 総会報告第三十二集……………34 ■ 総会報告第三十三集……………35 ■ 総会報告第三十四集……………36 ■ 総会報告第三十五集……………37 ■ 総会報告第三十六集……………38 ■ 総会報告第三十七集……………39 ■ 総会報告第三十八集……………40 ■ 総会報告第三十九集……………41 ■ 総会報告第四十集……………42 ■ 総会報告第四十一集……………43 ■ 総会報告第四十二集……………44 ■ 総会報告第四十三集……………45 ■ 総会報告第四十四集……………46 ■ 総会報告第四十五集……………47 ■ 総会報告第四十六集……………48 ■ 総会報告第四十七集……………49 ■ 総会報告第四十八集……………50 ■ 総会報告第四十九集……………51 ■ 総会報告第五十集……………52 ■ 総会報告第五十一集……………53 ■ 総会報告第五十二集……………54 ■ 総会報告第五十三集……………55 ■ 総会報告第五十四集……………56 ■ 総会報告第五十五集……………57 ■ 総会報告第五十六集……………58 ■ 総会報告第五十七集……………59 ■ 総会報告第五十八集……………60 ■ 総会報告第五十九集……………61 ■ 総会報告第六十集……………62 ■ 総会報告第六十一集……………63 ■ 総会報告第六十二集……………64 ■ 総会報告第六十三集……………65 ■ 総会報告第六十四集……………66 ■ 総会報告第六十五集……………67 ■ 総会報告第六十六集……………68 ■ 総会報告第六十七集……………69 ■ 総会報告第六十八集……………70 ■ 総会報告第六十九集……………71 ■ 総会報告第七十集……………72 ■ 総会報告第七十一集……………73 ■ 総会報告第七十二集……………74 ■ 総会報告第七十三集……………75 ■ 総会報告第七十四集……………76 ■ 総会報告第七十五集……………77 ■ 総会報告第七十六集……………78 ■ 総会報告第七十七集……………79 ■ 総会報告第七十八集……………80 ■ 総会報告第七十九集……………81 ■ 総会報告第八十集……………82 ■ 総会報告第八十一集……………83 ■ 総会報告第八十二集……………84 ■ 総会報告第八十三集……………85 ■ 総会報告第八十四集……………86 ■ 総会報告第八十五集……………87 ■ 総会報告第八十六集……………88 ■ 総会報告第八十七集……………89 ■ 総会報告第八十八集……………90 ■ 総会報告第八十九集……………91 ■ 総会報告第九十集……………92 ■ 総会報告第九十一集……………93 ■ 総会報告第九十二集……………94 ■ 総会報告第九十三集……………95 ■ 総会報告第九十四集……………96 ■ 総会報告第九十五集……………97 ■ 総会報告第九十六集……………98 ■ 総会報告第九十七集……………99 ■ 総会報告第九十八集……………100 ■ 総会報告第九十九集……………101 ■ 総会報告第一百集……………102

志と絆

公益社団法人日本鍼灸師会
会長 仲野 彌和

このたび、定時代議員総会で行われた選挙で21人の理事が選任され、その理事による選挙で会長に選ばれた相馬前会長と選任された前理事および監事に敬意を表し、歴史と伝統ある日本鍼灸師会の発展を期すことのないよう、職務を努めてまいります。

3月に起こった未曾有の大震災に遭遇された皆さまにお見舞い申し上げます。日本鍼灸師会は全国都道府県支部会を通じて、継続した支援活動を働きと止め、少しでも皆さまの助けになればと思っております。

今回の人事では、幸いにも組織・公益事業等に精通された高橋清人理事、また、学術・資質向上関連を長年進めてこられた小松秀人理事に副会長として助言をいただき、別項で紹介する常任理事、理事、監事の皆さまとともに事業を進めることとなります。

就任挨拶にあたり、私のテーマとして「志と絆」を掲げます。志を掲げることは鍼灸師の集まりの輪を広げるとともに公益事業を主体に役員一丸となり、国民に「医療としての鍼灸の大切な役割と自然治療力を引出す新しい日本型医療の創生」を訴え、普及啓発活動を推進させることが重要課題になるのでは無いでしょうか。

その実践者である鍼灸師は、国家資格とはい

身分法に目的集約が求められ、鍼灸師としての教育を受けたこの資格で何が出来るかを考えますと、高橋はしごの資格のある多くの方を育てていくことが必要です。

質の良い日本型医療の確立のためには、関係団体の協力を得て教育を急がねばなりません。少なくとも医療を担う教育は、高卒3年程度は国民のニーズに応えることが難しく、独立開業権のあるこの仕事を考えますと、4年以上6年は必要でしょう。今しばらくは養成施設のお力をお借りして卒業教育と研修制度を構築し、単位数など一定の条件を満たした方はその質実の可能性があるホームページ上に公表していきます。

今年度は、学術の研鑽記録を軸とした個人登録と、生涯研修を整理するためのソフト開発を進めています。全国大会や各支部の研修会および事業への参加記録と、全日本鍼灸学会などを一元化するなど協力、併せて活用することで、それぞれの組織力の向上に貢献を期します。

学術研修のプログラムも現在進行中のスクリーンメントを始め、過去の専門領域も全国各支部会で全ての鍼灸師を巻き込んで履行していただければ、質実の向上につながる予定です。

鍼灸師は国民にとって必要不可欠であり、予防医学（未病）の安全・安心・経済効果のよい医療と、国民の健康に迅速に適切な日常を提供することが、臨床にあたるすべての鍼灸師の目指すこととなります。

公益社団法人日本鍼灸師会すべての鍼灸師が登録され、健康医学、予防医学のかけがえのない位置づけられ、疾病治療に対応できる鍼灸師の輩出が公益事業の根幹であり、テレビやマスコミに鍼灸師が主人公として登場するなど多くの若者があこがれる職業にすることが私の夢です。

会長職としての指図に感謝を込めてお見舞い申し上げますとともに、皆さまの健康に多幸をお祈り申し上げます。

日本鍼灸新報No.590

●平成23年（2011年）2月13日名古屋国際会議場にて第1回臨床鍼灸スポーツフォーラム（スポーツ鍼灸専門領域指定研修）が開催された。

中京大学大学院教授 湯浅影元先生

41

●平成23年（2011年）12月4日、グランドプリンスホテル新高輪で、全国師会長会議に続き厚生労働省後援学術講習会 60周年記念公開講座「人に優しい鍼灸医療」が開催された。



東北大学医学研究科先進漢方治療医学講座 関 隆志先生

●平成24年度（2012年度）6月3日、定時代議員総会（会員数6,130名/代議員数126名）が、東京ステーションコンファレンス・サピアタワーで開催された。



平成24年度定時代議員総会

●平成25年（2013年）4月29日に新会旗のもと、本会役員一同で記念撮影。



●平成25年（2013年）10月13～14日に、第9回全国大会inおかやまが開催された。



県民公開講座招待講演「宇宙に向けた鍼灸」
講師：元JAXA宇宙飛行士 山崎直子氏

●平成26年度（2014年度）定時代議員総会が開催された。総会后恒例の意見交換会は日本橋で行われ約90名が参加した。



平成26年度定時代議員総会



意見交換会での乾杯風景

●平成27年（2015年）7月30日～8月6日、山口県きらら浜で開催された第23回世界スカウトジャンボリー in山口に鍼灸ブースを出展。世界の少年たちが鍼・灸を体験した。



皇太子殿下から御言葉を賜る



鍼灸ブース

●平成27年（2015年）10月31日～11月1日にパシフィコ横浜にて創立65周年記念式典・第11回全国大会in神奈川が開催された。恒例の懇親会は、東京湾ナイトクルーズ船で行われた。



第11回全国大会in神奈川 開会式

●平成28年（2016年）1月10～11日にJICA東京で、第5回JIMTEF災害医療研修会が開催された。本会はJIMTEF医療関連職種団体協議会のメンバーに名を連ね、現在まで理学療法士に次ぐ394名のはり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師が受講している。



災害時への備え～国際医療技術財団との連携

●平成28年（2016年）7月3日に花田学園で全国部長会議合同会議が行われ約200名が出席した。合同会議の後は、学術、保険、広報普及、組織・共済、青年の5部門に分かれて各部長会議が行われ、終了後は意見交換会を開催した。



平成28年度全国部長会議合同会議

●平成28年（2016年）3月13日に日本鍼灸会館で、全日本鍼灸学会との役員懇親会が行われた。



●平成28年（2016年）10月9～10日に福岡市のパピヨン24において、第12回全国大会in福岡が開催された。



懇親会で日本医師会会長横倉先生のご挨拶

●平成29年（2017年）3月1日TKPガーデンシティ永田町で、社会保障審議会第13回あはき療養費検討専門委員会が開催された。



第13回あはき療養費検討専門委員会

●平成29年（2017年）11月3～4日に東京都渋谷区のHakuju Hallで、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたスポーツ鍼灸トレーナー研修会が開催され、全国から95名が参加した。



平成29年スポーツ鍼灸トレーナー研修会

●平成23年から30年まで「臨床鍼灸スポーツフォーラム」を毎年開催。第1回から3回までは愛知県で、平成29年（2017年）8月20日には三重県四日市市で開催、翌年埼玉県で開催された第9回が最後のフォーラムとなった。



平成29年第8回臨床鍼灸スポーツフォーラム

●平成29年（2017年）11月5日に東京有明医療大学で、平成29年あはき等法制定70周年記念の集いが開催され、本会会員45名に厚生労働大臣表彰が授与された。



平成29年あはき等法制定70周年記念の集い

●平成30年（2018年）1月18日に鍼灸医学ベトナム国際セミナーにおいて、主催の5団体による「国民の健康増進に寄与することを目指し、鍼灸医療に関する医療技術協力プロジェクトを協力して実践する」とした共同宣言が採択された。



平成30年鍼灸医学ベトナム国際セミナー（ベトナムハノイ J.W.マリOTTホテル）
左から、ベトナム国立鍼灸病院 グエン・バー・クアン院長、国際医療技術財団 小西恵一郎理事長、日本鍼灸師会 仲野彌和会長

●平成30年（2018年）6月10日に笹川記念会館（東京都港区）で、平成30年度定時代議員総会が開催された。



平成30年度定時代議員総会

●昭和53年（木下晴都会長の代）に竣工記念式典を行って以来40年間、日本鍼灸師会の活動の拠点としてその歴史を見つめてきた日本鍼灸会館も老朽化し、また、JR大塚駅南側の再開発によって建て替えが決定。平成30年（2018年）、会館で実施する最後の理事会の前日（8月25日）に「お別れ会」を行った。



日本鍼灸会館お別れ会



会館お別れ会当日は大塚地区の夏祭りがあり、会館の玄関に面する大通りは交通規制がかかり、浴衣姿の参加者や屋台が何十軒も出てたいへんな賑わい



会館お別れ会の翌日 会館で最後の理事会

●平成30年（2018年）10月27～28日に、第14回全国大会in沖縄が開催された。



閉会式後、大会運営の中心となった沖縄県鍼灸師会の皆さんと日鍼会役員・委員での記念撮影
前列左から5人目が沖縄県鍼灸師会 久場良男会長、その右が日鍼会 仲野彌和会長

●令和元年（2019年）6月9日に定時代議員総会が開催され、4期8年務めた仲野彌和氏が会長を退任し新監事に就任。総会後の理事会で新会長に小川卓良氏が就任した。定時代議員総会後には日本鍼灸師連盟との合同意見交換会を行った。



平成31年度/令和元年度定時代議員総会



総会後の理事会で新会長に就任し、日本鍼灸師連盟との合同意見交換会で挨拶を述べる小川卓良氏（左）と、総会で新監事に就任した前会長の仲野弥和氏（右）



▲十二代会長 小川卓良（令和元年～2年度）

●令和元年（2019年）11月23～25日に、第15回全国大会in静岡が開催された。

第15回 公益社団法人日本鍼灸師会
全国大会 in 静岡

鍼灸の可能性を探る
鍼灸の恩恵を全てのの人に

2019年(令和元年)
11/23±24日

会場 **ホテルコンコルド浜松**
静岡県浜松市中区元城町109-10 TEL.053-487-0990

参加費 会員 10,000円(税込12,000円) 非会員13,000円(税込15,000円)
学生 3,000円(税込3,600円) 聴講学生 2,000円(税込2,400円)

申込先 日本鍼灸師連盟 TEL.060-525-2911 事務局 054-262-0000
会費納入先 日本鍼灸師会 TEL.053-487-0990 事務局 053-487-0990

11/24日 県民公開講座
9:00-10:25 講演会 10:45-11:45 懇話会
講師 菅方 眞光先生 島崎 道博先生
「研っていくと どの向きをみるか」
「研っていくと どの向きをみるか」



初日の懇親会でのスナップ



閉会式後、大会運営の中心となった静岡県鍼灸師会の皆さんと日鍼会役員・委員での記念撮影
後列左から6人目が静岡県鍼灸師会 大橋会長、前列左から7人目が日鍼会 小川会長

●平成30年（2018年）に第1回・第2回講座を開催したCFS研修講座、第3回CFS研修講座の第1回目の実技研修が第15回全国大会in静岡の初日に開催された。



変わる研修制度～第3回医療連携研修講座（クリニカルファンデーションシステム [CFS] 第1回実技研修）
講師は日鍼会 小川卓良会長

●令和2～3年（2020～2021年）は新型コロナウイルス感染症によって世界中が感染対策に追われ、感染者数が少ない日本でも前例のない大きな影響を受けた。その対策やさまざまなスタイルの変化に対応するために膨大なエネルギーを注いだ年となったが、事業を進めるうえでもさまざまな変化がみられた。

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会の年に創立70周年を迎える予定で準備を進めていたが、オリンピック・パラリンピックが1年延期となった。本会70周年記念式典も令和3年度へ1年延期する決定をし、創立記念事業はそこから再始動することとなった。

定時代議員総会は会場とオンラインのハイブリッド開催、理事会及び各委員会はほぼオンライン開催、1か所のブロック会議と全国青年部長会議もWeb開催となった。また予定していた創立70周年記念式典及び第16回全国大会については令和3年へ1年繰り下げ開催を決定。特殊な環境下での事業推進は難しいものであったが、新しいスタイルを築くために奔走した年となった。



令和2年度定時代議員総会

●令和3年（2021年）度定時代議員総会で役員改選。
新会長に要 信義氏が就任し新体制でスタートした。



▲十三代会長 要 信義（令和3年度～現在に至る）

代表理事 要 信義	常任幹事 副会長 中村 聡	常任執行幹事 副会長 高 公成
常任幹事 副会長 安田 茂興	常任幹事 副会長 (法人副幹事) 中川 雅典	常任幹事 副会長 堀口 立樹
常任幹事 副会長 (学術) 水島 茂隆	常任幹事 副会長 (地域ケア・法人) 豊野 幸治	常任幹事 副会長 (広報・IT) 元山 敏浩
常任幹事 副会長 (国際・国際) 野名 英典	常任幹事 副会長 (研究・学術) 小林 眞一郎	常任幹事 副会長 (東洋・リハビリ) 黒田 智雄
常任幹事 副会長 (広報・学術) 矢野田 善仁	常任幹事 副会長 (国際・法人) 藤内 謙	常任幹事 副会長 (OEC/国際連携) 大川 俊徳
監事 佐野 康昭	監事 津田 隆	外部監事 山本 誠樹 (徳島大学名誉)

日本鍼灸新報No.678

●日本鍼灸師会の新事務所は、令和4年（2022年）の完成に向け建築が進められている。建物名は「シティハウス南大塚レジデンス」(14階建て)と決定。2階には、日本鍼灸師会事務所・日本鍼灸師会会長室・会議室・東京都鍼灸師会事務所（賃借入居予定）の4区画と、男女トイレ・廊下などの共有区画でレイアウトされる。



日本鍼灸師会 70周年によせて

研修委員会 委員長 堀口 正剛



このたび、日本鍼灸師会創立70周年を迎えることができましたのは、関係各位および、日本鍼灸師会の役員諸先輩方、さらには各都道府県鍼灸師会の役員はじめ会員皆様のご支援とご厚誼の賜物と深く感謝し、お礼申し上げます。これを機に役員一同、初心に戻り、一層の努力をしていく所存です。今後ともなにとぞ、ご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、数え70歳は「古希」となり、その典拠を改めて調べてみました。唐代の詩人、杜甫の「曲江」という漢詩、「朝回日日典春衣 毎日江頭尽醉歸 酒債尋常行處有 人生七十古來稀 穿花蛺蝶深深見 點水蜻蛉款款飛 傳語風光共流轉 暫時相賞莫相違」で、現代語訳は「毎日朝廷の仕事が終わると春着を質屋に入れ、その金で曲江のほとりで酩酊するまで飲んで、帰ってくる。飲み代のツケはほうぼうにあるが、かまうものか。どうせ七十歳まで生きられることは稀なのだ。花の蜜を吸うアゲハチョウが花々の奥深くに見え、トンボは水に尾を点々と触れながらゆるやかに飛んでいく。この素晴らしい景色に対し、言いたい。すべて自然は移り変わっていく。だからほんのしばらくでもいい。お互いに賞して、背きあうことがないようにしよう。」となります。

はたして、祝事の語源として相応なのかという素朴な疑問も感じますが、業界が年々右肩下がりの現状を鑑み、超V字回復のターニングポイントとなるような施策をおもんばかるに、「相賞莫相違 お互いに賞して、背きあうことがないようにしよう。」という最後の詩句がとても暗示的であると感じております。小異を捨てて大同に就き、多くの国民から支持される業種・業界とする時期であると推察いたします。

それでは、過去を振り返り、輝ける未来構築のために何をなすべきかを研修事業という側面から検証させていただきます。

前回の65周年からを振り返り、当時の総会資料を参照しますと、研修事業は東洋療法試験財団の生涯研修とリスクマネジメントやスポーツ障害等をテーマとした「専門領域研修」と「鍼灸臨床研修事業」（いわゆる、臨床研）が2つの大きな柱となっていました。以降、平成29年に臨床研休止を前提とした「医療連携研修講座」が開始され、平成31年に臨床研は休止となり、eラーニング研修制度（以下、NELS）の準備委員会が設置されました。令和2年よりNELSコンテンツの配信が始まると同時に、「専門領域研修」と「鍼灸臨床研修事業」ともNELS研修へとシフトし、臨床基礎コースと生涯研修コースのコンテンツが配信されました。令和3年現在は、NELSを推進された小川前会長および実施委員の退任と新規コンテンツ作成休止に伴い、新メンバーによる研修委員会において大幅な見直し作業のもと、若手や女性の視点を多く採用するとともに国民目線も取り入れ、国民から信頼される、安心・安全な鍼灸師・鍼灸術に貢献できるコンテンツまた経営に役立つ・“食える鍼灸師”を育てるコンテンツを検討中です。

将来的には、リニューアルされた新学術研修単位管理システム（NGK）と密に連携させ、管理機能改善により、都道府県鍼灸師会学術部長の業務軽減につなげ、試験財団への申請に関してもWebベースで行えるよう模索中です。これらの実現により、日鍼会Webサイトや鍼灸ネット（hariq.net）に会員の研修情報をリンクさせ、信頼できる鍼灸師・鍼灸院の目安となるような情報発信も可能となります。

次に、研修委員会だけでなく広い視野から検証いたしますと、社会保障費が逼迫し、療養費払いに大きく依存しなくても成り立つ業界を目指す時期、つまり地域包括ケアの主要メンバーとなれるよう未病・予防医学をコンセプトに、施術ばかりでなくセルフケアや養生指導を取り入れて、地

域の健康に関する、よろず相談所的なサロン形式での生き残りを図ることも肝要かと存じます。東洋医学ブームを喚起し、多くの国民に関心を持っていただくことが必要です。何より、我々の営業形態と近いことからよく比較される、理容師・美容師の方々とお客様の会話で最も頻度の高いもののひとつが、食事・食品・サプリ含め健康に関することだそうです。

東洋医学には、元々「未病」という予防医学の概念が含まれており、鍼灸施術のみならず、体質に応じた養生・セルフケア指導を盛り込んでいけば、超高齢社会における地域社会健康寿命延伸のエース・担い手となる可能性大ではありません

か！これを実現していくには、研修委員会だけでなく、他の委員会と横断的な協力が必要となります。まずは、NELSコンテンツとして採用し、会員皆様のご意見を拝聴しながらより良いものに作り上げていきたいと思っておりますので、ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

最後に、アフターコロナの時代は、今までの常識が過去のものとなり、全く新しい価値観が生じている可能性大です。諸先輩方が守ってこられたこの業界を次世代にしっかりとつなぐことが我々の責務です。それを肝に据えて活動してまいります。大きな変革になると推察いたしますが、輝かしい未来に向けて進んでまいります。

研修事業の軌跡と将来展望



学術委員会 委員長 永島 茂雄

昭和25年（1950年）に設立した日本鍼灸師会は、令和2年（2020年）で創立70周年を迎えました。これもひとえに、諸先輩方の努力と都道府県師会の皆様にご支援いただいた賜物であり、心よりお礼申し上げます。創立70周年記念式典は同時開催予定であった第16回全国大会東京大会が延期となりましたが、令和3年（2021年）10月に開催することになりました。

さて、65周年からの6年間を振り返ると、全国大会は平成17年に第1回静岡大会が開催されて以来、65周年記念式典と同時開催の第12回神奈川大会、翌年は「大大阪フェス」と名付けられた第13回大阪大会、台風を懸念しつつの第14回沖縄大会、令和元年を迎えた年に再び静岡県で第15回全国大会が開催されました。この大会はそもそも全国青年部集会和臨床学術大会が統合されたもので、大会開催のたびに青年部諸君（現青年委員会）も結集して支えてきました。今後も若手鍼灸師の活動に期待しております。

本会の研修事業は全国大会の他に、学術講習会・鍼灸臨床研修会（臨床研）・専門領域研修制

度があります。学術講習会は規程を改定、開催準備金を増額いたしました。臨床研では基本的な診察法とマンツーマンによる徒手検査の実技指導、全国大会における症例発表にいたるまで丁寧に指導してきました。専門領域研修制度は「鍼灸リスクマネジメント」研修の更新と「スポーツ傷害」再研修を掲げ、都道府県師会へ実施依頼と受講終了者へ修了証を発行いたしました。しかし、これらの事業は終了あるいは一時中止とし、「医療連携」をテーマに新たな研修会を実施してきました。さらに、座学においては全国一律化を目指し、「いつでもどこでも学べる研修」をコンセプトに日鍼会eラーニング研修システム（NELS）実施を計画、令和2年（2020年）5月から研修コンテンツ（動画・PDF・確認テスト）を毎月リリースいたしました。このNELSには600名ほどの受講申込みがあり、約3分の1がパソコンやスマートフォンを用いてeラーニング研修を受講されています。令和2年度の成果として、臨床基礎コース（CFS）のStep1とStep2の全てを受講終了された方に対して、デジタル修了証を発行しております。なお、

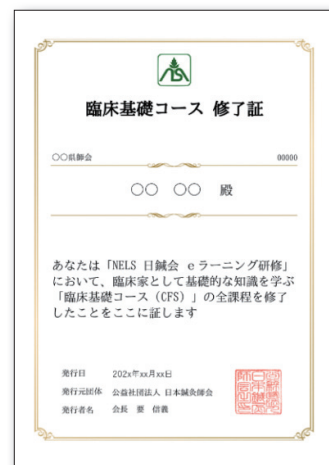
令和3年度は諸事情により研修内容を見直し、研修委員会において新たな枠組みを作成中、近々にリリース予定です。これを機に全会員の受講促進につないでいきたいと考えております。

*NELSの詳細は研修委員長のコメントをご覧ください。

【受講者の声】

- ・長時間の動画視聴は苦手であったが、NELSの動画は短編（15分程度）なので視聴しやすい。（50代・長野）
- ・基礎医学というのはつまらない。改めて見直してもつまらないが、初学者だけでなくベテランにも大事なことだ。（50代・千葉）
- ・学生の臨床実習前に、学生に観てもらいたい必要なことがまとまっている。（40代・三重）
（あくまでも個人の感想です）

令和3年（2021年）8月に全国学術部長会議をWeb開催いたしました。都道府県師会の各学術担当者との情報交換を目的とし、各県師会の学術講習会・東洋療法研修試験財団の生涯研修・全国大会について、また事前アンケート調査の集計結果（下図参照）や新学術研修単位管理システム（NGK）と日鍼会eラーニング研修システム（NELS）などの説明を行い、会議終了後、各学術部長宛てに第1回目の会議内容を動画配信いた

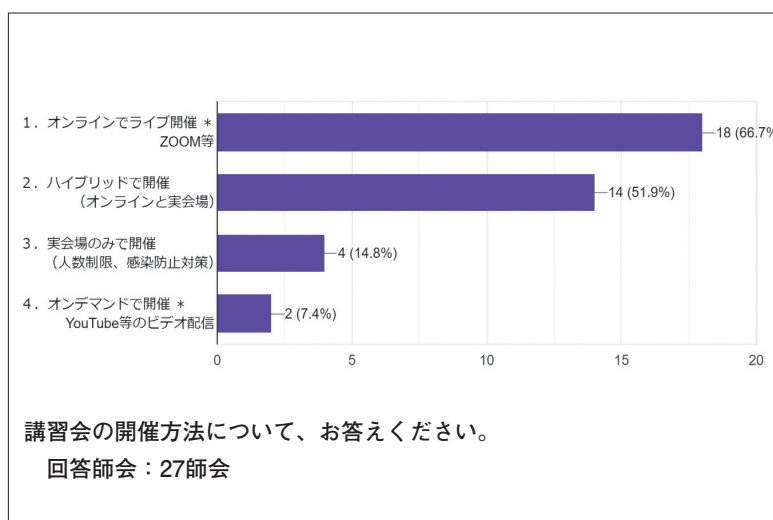
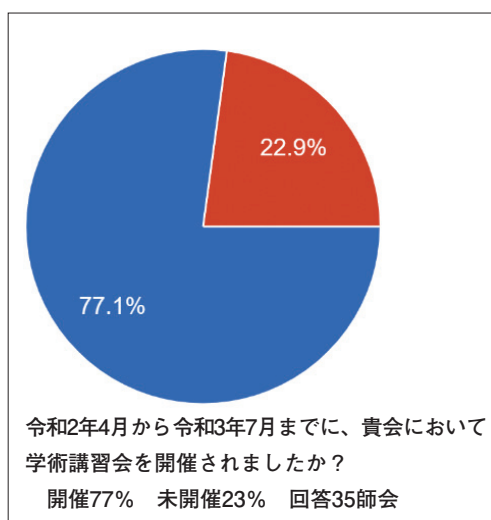


NELS受講案内：https://nels.press/archives/lp/n1

しました。

Web開催による3回の会議で感じたことは、学術研修担当が交代された際の引継ぎ不足、鍼灸新報やメーリングリストなどで発信された情報が伝わりにくいのが現状です。今後も日鍼会研修事業をわかりやすく説明するため、鍼灸新報やメーリングリストをはじめ、Webサイト・メルマガ・SNSなどでも発信してまいります。

会員の皆様におかれましては引き続き、ご支援ご協力のほど、よろしく願いいたします。



日本鍼灸師会創立70周年 記念大会に寄せて



地域ケア推進委員会 委員長 菅野 幸治

日本鍼灸師会創立70周年の記念すべき時に立ち会うことができ、地域ケア推進委員会一同、感謝申し上げます。

60周年から70周年までの活動の振り返りを松浦正人前地域ケア推進委員長よりうかがい、作成しました。

地域ケア推進委員会は、はり師・きゅう師（以下、鍼灸師）の認知度を上げること、他の医療・介護専門職と連携して地域社会で活躍するための情報を鍼灸師に提供すること、そして鍼灸師の活動の場を増やして地域で活躍ができるようにすることを目標としてきました。「地域ケア推進委員会」という名称からわかるように、「ケア」部分の活躍に重点を置いています。高齢社会になるまでは、鍼灸は「キュア」部分で地域に貢献してきましたが、超高齢社会の現在は「キュア」に加えて「ケア」の部分での地域貢献が必要であり、そのニーズは年々増していると認識し活動してきました。

具体的には、地域ケア推進委員会の目指した鍼灸師とは、「生活上の不具合の改善（ADLやQOLの向上）」に関与できる鍼灸師であり、公的保険である介護保険制度で活躍できる鍼灸師とも言えます（キュアの部分は医療保険制度）。

地域ケア推進委員会は、地域で活躍するために必要な鍼灸師の「質の担保」とその質を活かす「活躍の場」の確保のためにさまざまな活動を続けてきました。以下にご紹介するのは現在までの主な活動内容です。

【1】質の担保のための活動

a.介護予防運動指導員養成講座

この講座は、東京都健康長寿医療センター研究所の「介護予防運動指導員」の育成テキストを使用して、介護予防概論・介護予防評価学・介護予防統計学・行動科学・リスクマネジメント・高齢者筋力向上トレーニング・転倒予防・失禁予防・

高齢者の栄養改善活動・口腔機能向上・認知症予防・うつ、閉じこもり予防などの座学・実技の16講義31.5時間の講習を受講するものです。日本鍼灸師会は、この養成講座を行う指定を受けています。日本各地で33回の講座で1,000名以上の鍼灸師が養成講座を修了しており、現在では介護予防に関する専門知識を有する鍼灸師が各地で活躍しています。

介護予防運動指導員として介護保険内での活動が全国各地で展開された報告は、毎年の業務報告に記載されています。また、介護予防運動指導員の「質の担保」を維持・向上するために、全国各地で介護予防運動指導員スキルアップ研修会を開催してきました。

b.機能訓練指導員

介護予防に関する知識と運動指導ができる介護予防運動指導員の各地での活動実績などを基にして、厚生労働省老健局と定期会議をしてきました。この会議では介護保険制度における機能訓練指導員の資格要件に含まれていなかった鍼灸師を「機能訓練指導員」として介護保険内での活動ができるように働きかけてきました。結果、現在はその資格要件に含まれ、機能訓練指導員として介護施設などで活躍する鍼灸師が誕生しました。また、その「質の向上」を目指して、機能訓練指導員の資格要件を持っている同業の団体や他の医療業団（看護師協会など）に参加を呼びかけ、日本機能訓練指導員協会を設立しました。協会として、初級コースとして二日間の研修会を開催（上級コース開催を計画中）しました。提供する「質」の実績から将来的には鍼灸院内で機能訓練指導員ができるようになることも協会設立目的の一つです。

【2】医療・介護専門職と連携のための活動

地域包括ケアシステムでは、はり師・きゅう師は他の医療と同様に職種として認識・記載され

ています。医療・介護・福祉専門職と連携して地域社会で活躍する「場」を得るためには「ケアやキュア」を利用する方々（患者）や、医療・介護・福祉専門職の方々に「鍼灸・鍼灸師」の認知度を高めることが重要と考え、さまざまな場で「鍼灸・鍼灸師」について紹介をしてきました。

令和3年度の地域ケア推進委員会は、副会長：中村聡（静岡）、委員長：菅野幸治（東京）、副委員長：近ちあき（新潟）、委員：上條弘明（長野）、委員：日野智之（福岡）で構成され、先達の目標としてきた「超高齢社会の現代において高齢者対策の『質の担保』が保証され、医療・介護専門職と『連携』して介護・医療保険制度内外で活動する鍼灸師のために」という思いを引き継ぎながら、「鍼灸師を地域医療に参加させ、医療介護関係者と連携できる鍼灸師を育てる。そして、鍼灸施術を医療機関内で展開させる（療養の給付化）、介護保険内の予防給付に鍼灸施術の参入」という新しい目標に向かい動き出します。

道のりはまだまだ長く困難かもしれませんが、大きな目標に向かい一歩ずつ着実に進めていきたいと思えます。そのためには、他の委員会や各都道府県師会との連携・情報交換が必要となります。また、会員からの声を大事にしていきたいと考えています。皆様ご協力のほどよろしく願いいたします。

実際の活動としては昨年度から引き続き、日本機能訓練指導員協会の運営を日本柔道整復師会

と行い、今年度は機能訓練指導員養成講座、ベーシック（初級）に加え、前年度では計画中であったアドバンス（上級）の2講座を開催いたします。日本機能訓練指導員協会の構成団体の拡充をしていくため、各種団体への働きかけを行います。現介護予防運動指導員の有資格者に対しては、サポート情報の提供をおこなっていきます。

私どもの目指す鍼灸施術や鍼灸師についての認知度を高める方法として、医療・介護専門職や行政、そして患者に向けて、ポスターや以下の冊子などの配布を行い、活用していきます。

『高齢者向け筋力アップ運動指導マニュアル』

『健康余命延伸のために 老年症候群対策』

『地域包括ケアシステムと介護予防』

『科学も認める はりのチカラ、はりのチカラ2』

また、各都道府県師会・鍼灸師に向けては、「eラーニングコンテンツ」や「地域ケア推進委員会紹介資料」などを作成し、地域で活躍できる鍼灸師の活動を発信していきます。そして、介護保険事業（介護予防など）の推進関係省庁（主に厚生労働省）や関係団体との協議・折衝を継続していきます。

現在、新型コロナウイルスの影響で、患者、鍼灸師の環境も大きく変化しています。ポストコロナを見据え、地域ケア推進委員会一丸となり、一歩ずつ着実に活動をつづけ、実績を積み上げていきたいと思えます。

日本鍼灸師会の 広報普及について

広報普及 | T委員会 委員長 児山 俊浩



日本鍼灸師会が、1950年に創立してから70周年を迎えることができました。今日まで本会を支えていただいた多くの皆様方のご支援とご厚誼の賜物と、心より感謝を申し上げます。また、世界的な新型コロナウイルス感染拡大のため、創立70周年記念式典が1年延期となりましたが、2021年10月24日に開催することができましたこと、重ね

てお礼を申し上げます。

日本鍼灸師会は、このすばらしい日本の伝統医療である鍼灸を医療として普及し、そして、国民の健康に貢献できる医療人の育成を目指してまいりました。今後も、国民にとって身近な医療として、健康を守る使命を果たしていきたいと考えております。



会報誌 『日本鍼灸新報』679号

さて、広報普及IT委員会としましては、これまで日本の鍼灸の広報および普及啓発に注力してまいりました。日本鍼灸師会の広報普及には長い歴史がありますが、少し振り返ってみますと、1951年3月25日に本会の会報誌として創刊された『日本鍼灸新報』は、1968年1月に100号、1987年1月に300号、2003年12月に500号と発行を重ね、創立70周年記念式典を迎えた2021年10月には679号を発行しました。677号からは、これまでのモノクロ版から、8頁カラー（表紙+7頁）版、かつホームページダウンロード用PDF全頁フルカラー版にリニューアルをしております。『日本鍼灸新報』は、全会員、各都道府県鍼灸師会、国立国会図書館、大学等教育機関、関係諸団体等へお送りしております。また、デージー録音図書CD（『日本鍼灸新報』朗読音声収録）の発行をおこなっております。

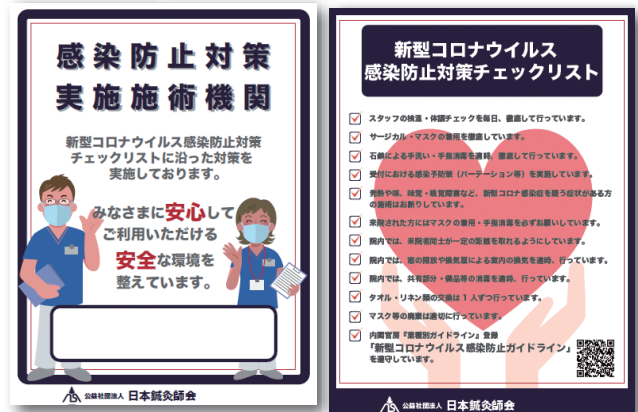
一般の方向けの広報では、『けんこう定期便』の発行をおこない、バレーボール元全日本代表主将米山一朋氏、Moxafrica伊田屋幸子氏、陸上（障がい者スポーツ）選手春田純氏など、さまざま専門分野でご活躍される27名の方々の生の声を取材して、健康な暮らしに役立つ情報をお届けしております。

普及用制作物としては、まず1つ目に、待合室掲示用ポスターの制作ならびに提供をしております。コロナ禍においては「新型コロナウイルス感染予防対策ポスター」「患者様向け新型コロナウイルス感染予防協力お願いポスター」「はり・きゅうで免疫向上ポスター」を制作、また、危機管理委員会とのコラボで、「新型コロナウイルス感染防止対策実施施設機関安心安全ポスター（全



健康な暮らしに役立つ情報『けんこう定期便』

日本鍼灸マッサージ師会連名)」を制作し提供いたしました。



新型コロナウイルス対策関連ポスター

2つ目には、患者様が最寄りの鍼灸院を探すために活用していただくことを目的とした「鍼灸ネットカード」を制作し提供しております。



会員が登録できる鍼灸院検索サイト「鍼灸ネット」につなげる鍼灸ネットカード

3つ目は、普及ポスターをホームページ「会員限定」頁からダウンロード提供しております。さらに、普及活動用ロールアップバナー・タペストリーは、地域ケア推進委員会と合同制作、「ロールアップバナー」は会員へ貸出提供し、「タペストリー」3種は会員へホームページからダウンロード提供しております。



普及活動用ロールアップバナー・タペストリー

4つ目として、地域ケア推進委員会と合同制作した普及冊子の『科学も認める はりのチカラ』『科学も認める はりのチカラ2』『地域包括ケアシステムと介護予防』『健康余年延伸のために老年症候群対策』(改定再版)を販売提供しており、地域医療・介護専門職を含め多職種のかたがたに、そして患者様に鍼灸・鍼灸師の認識を高めていただいております。



オリジナル普及冊子

また一方では、鍼灸の普及活動として、「Care Show Japan 2020統合医療展」で、鍼灸の講演「古くて新しい、そして世界も認めたって本当?!鍼灸って何ができる?」ならびに鍼灸ブースを出展して、2日間で180名(男性96名・女性84名)のかたがたに鍼体験をしていただきました。



Care Show Japan 2020統合医療展で鍼灸の普及活動

そして、最新ニュースや各都道府県師会の研修会・市民講座・市民マラソンをはじめ、関連団体研修会やイベントなどの情報をメールでいち早くお届けするために、メールマガジン登録者(1,837名/2021年11月時点)に対して、定期配信24回(毎月2回二十四節気に配信、2021年11月まで184回配信)と、臨時配信(随時、2021年11月まで53回配信)をしています。



定期・臨時配信でメールマガジンを配信

さらには、Facebookを活用し、テレビ放映・研修会開催・ポスター発行などのお知らせや、健康サポートや東洋医学に関する情報を提供しております。また、2021年3月には、Instagramを新設して、10～20歳代の若い世代(Z世代/18～24歳/ソーシャルネイティブ)に向けて、鍼灸および鍼灸師の仕事の魅力を伝えるために発信を始めました。

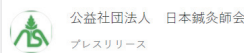


公式Facebook及びInstagram

2020年9月には、国民向けの広報を強化するために、11,000件以上のメディア(TV局・全国紙(全て網羅)・地方紙・専門紙・雑誌・ブログ/Website・ニュースサイト・ラジオ等)へ、活動内容・告知・案内などのプレスリリースを始めました。よりいっそう国民のかたがたが、鍼灸を身近に感じていただけるように進めております。

IT関連では、2020年5月にホームページをリニューアルし、一般向け情報ページを拡大、また、各委員会独自の情報発信が可能な構成に改修しま

した。また、鍼灸ネットの維持・管理・運営、サーバー管理・メンテナンスおよびドメインの維持・管理をおこなっております。そして、2021年1月より新学術研修単位管理システム(NGKシステム)の運用を開始いたしました。これにより、各都道府県鍼灸師会からも研修単位加算申請ができるようになり、会員としては、本会および各都道府県鍼灸師会の研修受講履歴や取得単位の閲覧が可能となりました。



2021年10月15日 13時

10月24・25日に無料の公開講座もある「第16回 公益社団法人 日本鍼灸師会 in 東京」および「日本鍼灸師会 創立70周年記念式典」を会場とオンラインで実施

国民向けのプレスリリース

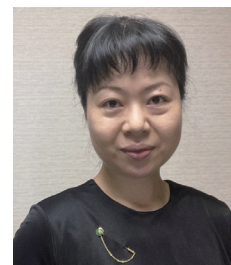


リニューアルしたホームページ

このように、内向きの広報普及のみならず、各方面に向けた広報普及に取り組み、鍼灸関係者だけでなく、医療関係者や行政関係者、そして国民の皆様にご認知いただき、活用していただけるように今後も進めてまいりたいと思います。そして、時代に合わせたツールを活用して、ICT化に対応していきたいとも考えております。鍼灸のすばらしさを多くの方々に簡単に伝えることは難しいこととよくいわれますが、地道にかつ適切に広報普及をおこない、少しでも国民の健康に寄与できることを考え、これからも邁進してまいりたいと考えております。

これからの4年間で日本の 伝統医療のためにできること

国際委員会 委員長 寺川 華奈



国際委員会はもともと「海外情報委員会」と称し、平成28年（2016年）当初は、世界鍼灸学会連合（WFAS：ウファス）学術大会の開催を目指していました。WFASとは、1987年に設立された世界53カ国178の鍼灸関連の学術団体が加盟する団体で、日本で加盟しているのは公益社団法人全日本鍼灸学会と、日本伝統鍼灸学会となります。

しかしながら、WHOによる世界的な国際標準化の流れの中で日本の伝統鍼灸を守るためには、まず、自国以外で日本の鍼灸に関心をもってくれる国との関係を強化し、中国の覇権主義に対応するということが喫緊の課題となりました。

そこで、平成28年（2016年）8月に意見交換を通じ、第2回理事会において、国際交流を目的としたベトナム政府伝統医学局との交流を機関決定しました。その翌年の平成29年（2017年）には、8月にベトナムにおける国際セミナーの実現のための打合せ、9月に国際医療技術財団とベトナムの医療向上及び人材開発協力支援協議などをおこない、平成30年（2018年）1月にベトナム・マリオットホテル鍼灸医学ベトナム国際セミナー「医療の向上に貢献する日本鍼灸」へと結実しました。先立つ11月には「日本鍼灸医療の国際貢献と海外展開への挑戦」をテーマにクラウドファンディングを開始（1月17日まで）し、多くの皆様のご支援をいただきました。その後もベトナム・ハノイ視察及び協議（8月）、ベトナム社会主義共和国独立73周年記念レセプション（8月）への参加などを通じて、ベトナムにおける日本鍼灸の普及を目指してまいりましたが、ベトナム使節団来日を迎え（11月）、ベトナムからの留学生の受け入れ先として明治国際医療大学との関係が成立したものの、新型コロナウイルスの影響を受け、現在、留学生の受け入れ自体が難航しております。

一方、日本を代表して国際会議に参加するJLOM（ジェイロム：日本東洋医学サミット会議）

は組織力を国の援助で補強することが難しい中で、ISO対策やICD-11改定についても、国際化に対応すべく準備をすることもできないまま、今日にいたっております。

国際的な立場では非常に差し迫った状況にありながらも、その問題意識を国内で共有できないというこの状況を打破すべく、国際委員会では国内に向けては①国内における日本の伝統医療の広報・普及を通じて受療率を上げること、そして国際的には②日本には古代中国医学を起源とし、日本人の体質やライフスタイルに合わせてその形を変え対応させてきた伝統医療がある、ということを知ってもらう必要があると考えています。

そこで、これからの4年間で上記に関することを①については「国民目線」を大切にし、国民ひとりひとりのための伝統医療のあり方を考えるシンポジウム、②については海外における伝統医療の調査を通じた、日本の伝統医療の紹介をおこなう所存です。

そのためにはJLOMはもとより、日本における伝統医療の振興を目的とする他団体との関係も大切にし、あはきの中だけに収まることなく、伝統医療の担い手としての仲間作りも進めていく必要があると考えています。そして、皆様にもその仲間に加わっていただきたいと存じます。

日本鍼灸師会70周年によせて

健保委員会 委員長 小林 潤一郎



学術と保険は、業界団体の活動の両輪とされています。日本鍼灸師会健保委員会は、療養費をはじめ、生活保護、労災保険、自賠責保険と多岐にわたり保険関係について担当をしています。全国の鍼灸師会保険部と「全国保険部長メーリングリスト」を活用し、全国に対して情報提供をおこなうとともに、日々寄せられる質問や相談に対して対応をおこなっています。

このたびの創立70周年にあたり、これまでを振り返り、特筆すべき内容について、会員の方々と共有し、今後の展望について述べてみたいと思います。

平成26年7月に生活保護法の改正がおこなわれました。それまでは、はり師・きゅう師は、医療扶助運営要領の規定により施術を担当する者として「登録」をおこなうことになっていました。この法改正により、あん摩マッサージ指圧師及び柔道整復師と同様に、生活保護法の指定施術機関として「指定」を受けて施術をおこなうこととされました。この扱いは、日本鍼灸師会が発足した当時からの要望であったと、当時の要信義健保委員長（現日本鍼灸師会会長）から教えていただきました。60数年の時を経て実現した大きな前進であります。

平成31年1月からは、はり・きゅう、あん摩・マッサージ・指圧療養費に受領委任制度が導入されました。日本鍼灸師会では、「一部負担金でかかれる制度」を導入に向けて、長年にわたり活動をおこなってまいりました。鍼灸マッサージを考える国会議員の会（本稿執筆時で、会長は伊吹文明元衆議院議長、事務局長は衛藤晟一前国務大臣）の議員の方々よりご理解とご指導をいただき、政治＝国民の声として行政に伝わることとなりました。日本鍼灸師会 現監事の仲野彌和先生（元会長）、現会長の要信義先生、現副会長の中村聡先生の並々ならぬ熱意と行動力をもって取り組まれたこと、当時の健保委員会の平野健一先生（京都、

現健保委員会副委員長）、浪岡貞則先生（青森）、片居木茂行先生（埼玉）および小林がワンチームとして結束があったことは、是非お伝えさせていただきたいと存じます。

受領委任制度が開始される前には、保険者によっては代理受領の扱いを認めていたところもありました。ごくまれではありますが、会員の方からは、「代理受領の時のの方が良かった。受領委任になって書類も増え、償還払いになった保険者も増えている。」との意見をいただくことがあります。代理受領は、国の保険制度の中にはなく、民法上の委任を被保険者から受け、被保険者に代わって保険者に請求することを保険者が認めていたものです。療養費の支給は、保険者の判断、裁量によることとされています。過去に認められていた代理受領の扱いがそのまま続くという根拠はなく、受領委任開始前の代理受領下で、はりきゅうの同意書に独自に詳細な項目を追加した保険者も出始めていました。

このような状況のなか、はり師・きゅう師、あん摩・マッサージ・指圧師の施術に受領委任制度が導入されました。我が国は、今後、人口は減少しつつも社会保障費は伸びる時期が暫く続くと思われています。逼迫する保険財政において、制度の中には位置付けられていなかった代理受領のままでは、扱いが非常に厳しくなったであろうと想像します。受領委任導入は、厚生労働省の社会保障審議会医療保険部会あん摩マッサージ指圧、はり・きゅう療養費検討専門委員会（構成メンバーは、公益代表として日本医師会、法学系の大学教授、保険者代表、施術者代表＝日本鍼灸師会も参加、事務局として厚生労働省）において、約2年間17回の議論を経て決まったものです。我が国の医療保険「制度」のひとつに位置付けられたことの意義は大きなものがあり、後世の方から「あの時に制度化したことは良かった」と評価する声

が上がるのではと考えています。

受領委任制度導入の議論のなかで、新設された内容として、医師宛てに「施術報告書」を提出することがあります。これは、同意をいただいた医師に対して、施術者と医師とでコミュニケーションを取ることで、患者にとってより良い施術が受けられることを目的としているものです。現在、必須の扱いではありませんが、やむを得ない事情がない限り記載し、報告することになっています。会員方には、是非記載をお願いしたいと考えています。

平成14年に期間・回数撤廃をなし得て、同31年に受領委任制度の導入にいたりました。会員からの同意書を撤廃してほしい、との要望は根強いものがあると承知しています。ただし、このハードルは非常に高いものがあると考えています。米国においては、上級の看護職としてナース・プラクティショナー（NP）が、臨床医と看護師の間職と位置づけられ一定レベルの診断や治療などを行うことが許されており、全50州にて、NPによる医療行為が認められています。我が国においても、日本看護協会などにより、医療ニーズがピークとなる2040年に向け、米国などのような「ナース・プラクティショナー」の資格を新たに創設するよう政治に対して要望する動きが2020年9月に

あったと報じられています。このように、業務を広げていくには自らを高め、ひとつ上の資格の創設することを目指すという手法が現実にあることを知る必要はあると考えます。

本年8月に開催された日本鍼灸師会の役員勉強会では、中村聡副会長から組織のあり方として、「強いものが残るのではなく、外部環境の変化に対応ができていないものが生き残っているのは歴史が証明している。」とのお話がありました。コロナ禍において、人々の健康への意識が変化しているなか、我々はどうすべきかを考える必要があります。また、マネジメントの父と言われるピーター・ドラッカーは、著書『マネジメント』にて「人が何かを成し遂げるのは、強みによってのみである。弱みはいくら強化しても平凡になることさえ疑わしい。強みに集中し、卓越した成果をあげよ。」と述べています。はり・きゅうの強みとは何か？コロナ禍を経て、養生、未病治の実践もそのひとつと考えます。これをどのように制度に結び付けていくか次の10年の節目に向けて考え、行動していきたいと思えます。

【令和3年度の健保委員会：副会長 中村聡（静岡）、委員長 小林潤一郎（東京）、副委員長 平野健一（京都）、委員 瓜生公一（福岡）】

日本鍼灸師会70周年によせて

組織委員会 委員長 新名 美恵



日本鍼灸師会は、創立70周年を迎えました。70年前といえば、昭和でいうと25年、私の両親が産まれたころです。当時は戦後、まだまだ日本国民が戦争の混乱の最中だったでしょう。そのなかにながら、私たち鍼灸師にとって重要な職業団体を設立された諸先輩方のお力に、ただただ尊敬の念を抱くとともに、これまで日本鍼灸師会を支えてこられた諸先輩役員のご努力と、会員のみなさまのご協力に改めて深く敬意を表します。

さて、私ども組織委員会は会員相互扶助事業に

位置付けられ、おもに会員のみなさまの福利厚生に関することを担当しております。大きな柱は「保障プラン」や「賠償保険」といった会員のみなさまの安心サポートの充実です。堀口正剛前委員長のころには、このサポートについていくつかの進化を成し遂げられました。まずは「保障プラン」ですが、これは少ない掛け金で病気・障害による死亡・高度障害、また希望により入院・手術等の保障をするものです。前委員長は保険会社との頻回の打ち合わせにより民間保険と比較しても見劣

りしないようオプションの充実をされています。そして、「賠償保険」については、完全に全会員への付保を目指し、準備から約5年をかけて現在の進化をなされました。この「賠償保険」は、鍼灸師が業を行う上で医療事故や施術所の施設に原因する事故のための保険で、鍼灸師を医事紛争から守るものです。鍼灸師にとって必要不可欠なアイテムであるため、時間をかけじっくりと会員のみなさまのご意見をいただきながら、これからも進化をさせていかなければならないと考えております。その他、「長期障害所得補償保険」(GLTD)の導入も見落としてはならない成果ではないでしょうか。これは特に若い世代の会員のみなさまにとって良い保険なのですが、まだまだその良さを届けることができていません。これからの課題は「良さを知っていただき、備えていただく」ことになりましょう。

そして、会員制度においては、学生と専任教員、卒後3年までの鍼灸師の方が入会できる「準会員制度」、サポーター会員の「賛助会員制度」、また「休会制度」を新設しました。これら制度新設への取り組みは並大抵のものではなかったと推察いたします。その中でも、「準会員制度」は入会される方にとっては会費が無料でありながら正会員とほぼ同じ特典を享受できるという画期的なもの

です。この「準会員制度」は入会される方だけでなく、各都道府県師会でもご活用いただきたい制度です。これからは各都道府県師会におけるメリットを丁寧にお伝えしご理解いただき、ともにこの新制度を活用した会員拡大をすすめる策を練ることが課題と考えております。

私がこのたび委員長になり、こうして一つひとつのアイテムを確認した際、どれもこれも良いものばかりと気づきました。しかし反面、なかなかみなさまへこの良さが伝わっていないという問題点にも気づきました。せっかく先輩方が時間をかけて導入された各制度です。これからはその制度を丁寧にみなさまにお伝えし、そのメリットを享受していただくことがまずは必要かと考えます。

コロナ禍において、Webでの会議開催が可能となりました。他委員会ではすでに部長会議も開催されておりますが、組織委員会でも全国部長会議を開催し、各都道府県師会との意思疎通を図り、会員のみなさまにとってより良い制度の充実をめざしてまいります。

最後になりましたが、会員のみなさまの、組織委員会の活動へのご理解とご協力に心より感謝いたします。私ども組織委員会は会員のみなさまの忌憚ないご意見を糧にし、これからも日本鍼灸師会の発展に寄与できるよう進んでまいります。

日本鍼灸師会70周年、 歴史と未来を紡ぐ青年委員会

青年委員会 委員長 風間 祐二



今から6年前、平成27年に日青全国集会50回記念事業が開催されました。鍼灸普及活動推進として、鍼灸に興味を持ってもらうため（もしくは未来の鍼灸師を増やすため）小中高生へ鍼灸ケアを行ったことが記憶に新しいかと思えます。この企画がきっかけで鍼灸師を目指し、日鍼会創設から70周年というこの節目に、この度参画されている先生もおられるかもしれません。これもひとえに日本鍼灸師会の諸先輩方、各都道府県鍼灸師会の役員のご支援の賜物であり、歴史を紡いでこれ

た会員すべてのおかげと心より感謝申し上げます。

先輩諸氏は創設から70周年を迎える今日にいたるまで、患者ひとりひとりの笑顔を主軸に、家族・日本社会・全世界に認められる鍼灸師の地位向上、技術発展を目指されてきました。また、その時代ごとの問題や困難を乗り越えることで日本鍼灸師会の発展も支えていただきました。人類の危機という社会変化のなかにいる今、未来をつくるこの会の活動を次世代につないでいくことこそ

が、青年委員における責務であると考えております。

直接顔を合わせる機会が減ったこの2年間、他師会の青年委員との交流会はじめ、学生との懇親会が行えず青年企画の威力が発揮できないことに直面しました。しかしながら、各都道府県師会の青年部長はじめ若手の先生方が率先してWebミーティングの環境を整え、今自分たちにできることを最大限に考え、先輩先生方の役に立とうと奮起いたしました。

事業の収益を上げるだけでなく、会への参画の仕方がわからないというハードルも若い先生方は抱えています。また、学校を卒業するとすぐに開業権が与えられ世の中に放り出されてしまうなどの諸問題にも、歴代の青年委員が学生交流会として、講演企画はじめさまざまなイベントを通じて向き合っていました。さらに、日本鍼灸師会の中で先輩先生と若手先生が交流できるよう、ベテラン鍼灸師の講演会企画とその後の懇親会を設けることで、少しずつ参画することの重要性を学び、双方のつながりを深めてきました。

一方、青年企画である鍼灸ファンを増やす取り組みとして、若手の発想力と推進力でお灸カフェの全国ツアーなどを行ってきました。この企画により鍼灸師を目指すお子さん、日常生活の一部に

鍼灸を取り入れてくださるご家族が全国に増えております。

これらのことを踏まえますと、つまり青年委員会とは、先代の諸先輩方が行ってきた普及活動が形を変え、今の時代に合った流れで鍼灸の普及や若手鍼灸師の育成、鍼灸師同志の団結を図る重要な委員会だということです。70周年という大きな節目において諸先輩方と各都道府県青年部員には、これらを再認識するきっかけとなってほしいと考えております。

アフターコロナの時代に向けて青年委員会は、新しい価値観のなかに変わらない人の想いや伝統を継承し、諸先輩方が紡いでこられたこの業界を若い発想力と推進力で失敗を恐れずに発展させてまいります。そして、子供も社会も全世界をも巻き込むような楽しい企画を創造していきたいと存じます。鍼灸師同志の協力と団結で、新たな問題に直面しようともお互いが支えあえる仲間を作っていくことが我々青年委員会の使命と考え、輝ける鍼灸師になるため精進してまいります。

最後になりましたが、青年OBはじめ各都道府県師会の会員の皆様、青年委員会の活動へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます、青年委員長としての挨拶に代えさせていただきます。

日本鍼灸師会創立70周年 記念大会に寄せて

東京オリンピック・パラリンピック委員会
委員長 高田 常雄



日本鍼灸師会創立70周年に立ち会える榮譽に、委員会委員一同感謝申し上げます。

第30回ロンドン大会の後、2013年にブエノスアイレスでジャック・ロゲIOC会長の『TOKYO（トキオウ）』のひと言から第32回東京大会が決定し、日本中が『オ・モ・テ・ナ・シ』の言葉とともに盛り上がるなか、日本鍼灸師会は翌年の運営方針に「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を支援する」と決定しました。

第6回臨床鍼灸スポーツフォーラム in 長野を皮

切りに各地のスポーツ鍼灸研修が盛んになり、翌年の理事会で「東京オリンピック・パラリンピック委員会」が発足しました。まず、委員会の目的は名前の通り東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への鍼灸の採用でした。また、それに続く国際大会への参加や、今後日本各地で行われるスポーツイベントへ各地の鍼灸師会が胸を張って選手のコンディショニングやケア活動することなどを目標に活動を開始しました。当時はまだ、日本鍼灸師会以外の団体は東京オリンピッ

ク・パラリンピック委員会が結成されていない状況でしたが、「全日本鍼灸学会」、「全日本鍼灸マッサージ師会」、「東洋療法学校協会」に働きかけ、4団体が協力して東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で「鍼灸・マッサージ」を選手のコンディショニングやケア活動に採用してもらえるように活動することを協議・決定し調印しました。

第一に、立ち上がったばかりのJOCや東京都へ働きかけ、過去のオリンピック・パラリンピックでは採用が見送られた選手村総合診療所へのスタッフ採用を目指しました。第二に、世界から来日する観客や報道機関へ鍼灸の体験ブースを設けること。第三にロンドンのオリンピック・パラリンピック競技大会より行われた開催国の伝統文化の紹介で日本鍼灸を採り上げてもらうこと。第四に、各国オリンピックたちの事前キャンプにも鍼灸師が参加できるように働きかけかけること、これらを共通の目標として4団体で決定しました。立ち上げ当初より4団体で何度もJOCへうかがい、担当者話しを聞いてはいただけるものの、良い返答はなかなかもらえず厳しい状況が続きました。



そのなか、日本鍼灸師会の独自の活動として経済産業省へアプローチしながら、さまざまなオリパライベントへ参加できるよう働きかけを行い、スポーツ庁へ鍼灸のスポーツ現場での活躍・実績などのプレゼンテーションや、自民党の伝統文化会へは「鍼灸は日本の伝統文化」だとアピールしてきました。文化庁では、今は亡き宮川典子文部科学大臣政務官から協力を得て、政務官室で「鍼灸のスポーツへの貢献と、鍼灸は伝統文化である」を多くの官僚を前にプレゼンテーションさせていただきました。他に、各国大使館へのアプローチも検討しましたが、こちらは意外とハードルが高く実現にはいたりませんでした。さまざまなアプ

ローチを繰り返すうちにJOCから連絡があり、霞が関のJOC本部から呼びかけがあり、井上恵嗣大会準備運営室第一局長、宮本哲也大会準備運営第一局医療サービス部長から4団体へ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への参加協力を正式に要請されました。嬉しさと驚きのなか、日本鍼灸師会では選手村総合診療所においてコンディショニングサポートできるスポーツ鍼灸師のリーダー育成研修が急務となり、東京都において3日間の『スポーツ鍼灸トレーナー研修会』、長野県では2日間の実地研修を開催しました。この研修内容は今後のスポーツ鍼灸研修の原型として引き継がれ、各地のスポーツイベントでの鍼灸師の活躍につながるものと感じています。さらにパラリンピック専門の筑波大学宮本俊和教授のもとへ足を運び、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会での目標と、今後のスポーツ鍼灸のあり方を検討し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会終了後のIOC・JOCのパブリックコメントに「選手の施術に鍼灸が採用され、実行した」の一言を取り付けることとしました。



東京2020大会の前哨戦として、東京オリンピック・パラリンピック委員会ではラグビーワールドカップ大会と平行して行われた世界国会議員ラグビーワールドカップ2019に参加し、10か国の選手に鍼灸コンディショニングサポートを行いました。大盛況で各国の議員や帯同医師からも鍼灸に対し大きな賞賛と拍手を浴び、取材・SNS等で世界へケア活動の様子が拡散されました。

新型コロナウイルスの影響で世界中が混沌とするなか、東京2020オリンピック・パラリンピックの選手村総合診療所のスタッフ募集が行われ、研修もオンラインで行うなど随時対応に追われましたが、11名の鍼灸師がスタッフに選抜されました。

一年遅れでなんとか開催された東京2020大会でしたが、鍼灸師が大いに活躍したことは我々にとって非常に貴重な財産となりました。今後予定されているワールドマスターズゲームズ2021関西（大会日程は再延期）や2030札幌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会（仮）等のさまざまなイベントで、オリ・パラ選手村総合診療所に参加された先生方が、スポーツ鍼灸の新たな未来を切り開いてくださることを期待しています。また、当委員会で作成した国際大会用の診療カルテや問診

票等は、少なからず今後の活動に役立つレガシーとなりました。東京オリンピック・パラリンピック競技大会参加という大きな目標は終焉しましたが、鍼灸師が公式に選手村総合診療所で活躍できたという事実は、今後大いに意味を持つ日がくると思います。

日本鍼灸師会創立70周年記念大会において、東京2020大会のご報告ができたことを幸いに思います。

危機管理委員会の役割 ～これまで、そしてこれから～

危機管理委員会 委員長 矢津田 善仁



令和2年、公益社団法人日本鍼灸師会は創立70周年を迎えました。

私と日鍼会の出会いは、30年ほど前（！）、出身校である行岡鍼灸専門学校在学中に大阪府鍼灸師会が開催した日鍼会についての説明会があり、「開業したら日鍼会に入会しよう」と漠然と思ったのが最初でした。入会後は直接日鍼会の事業に携わることはなかったのですが、平成25年に「第33回鍼灸臨床研修会」へ参加したことを機に、鍼灸師会の活動の必要性や鍼灸師のあり方について意識するようになりました。

さて、危機管理委員会は、日鍼会の中では新しい委員会のひとつかと思えます。本委員会はJIMTEF（国際医療技術財団）災害医療研修が開始されたことを受けて、平成26年度に災害医療対策委員会として承認、設置されました。翌年には、危機対策委員会と改称され、その後、現在の危機管理委員会に再度名称変更されました。

私自身は、災害医療対策委員会設置が決定した翌27年度、初代委員長の堀口正剛先生が九州ブロック担当委員を探していたところ、当時福岡県師会の会長をしていた現日鍼会会長の要信義先生に推薦していただき、委員として委嘱されました。令和元年度からは日鍼会理事となり、堀口前委員長から委員長職を引き継ぎ、現在にいたります。

委員を引き受けた当時の私は、災害医療というものに興味はあるものの、それがどういうものかまるで知識がなく、鍼灸師がその中でどういう立ち位置であればよいのか手探りの状態でしたが、同年度に、JIMTEF災害医療研修ベーシックコース、アドバンスコースと受講することができ、災害が発生した際に他の医療系団体がどのように対応しているかをわずかながらも知ることができました。同時に、言うなれば医療システムの外側にいる我々が、災害発生時に急性期フェーズの多職種連携の中でどのような役割を果たせるかは未知数であり、手探りという状態は変わらず、これからの活動を通じて確立していく必要性を感じていました。



熊本赤十字病院DMAT拠点本部ミーティング

そして翌年度、平成28年4月14日および16日に熊本県を中心に「平成28年熊本地震」が発生しました。発災後すぐに堀口委員長に連絡を取り、日鍼会として先遣隊を派遣するためのさまざまな協議を行いました。その後、熊本県師会と協議し、19日に現地入りすることを決定しました。現地入りするにあたり、実際にどこを訪問すればよいのか皆目見当がつかず、JIMTEF災害医療研修でお世話になった国立病院災害医療センターの小早川義貴先生にメールで相談したところ、熊本赤十字病院DMAT拠点本部で行われているミーティングに参加することを勧められ、我々鍼灸師のチームが参加することを事前に連絡してくださいました。まさに研修（と懇親会）で培った「顔の見える関係」が役立つことになりました。現地入り当日、地元鍼灸師会の若手であった日野智之先生（現在、日鍼会地域ケア推進委員会委員として活躍中）を伴い、熊本県師会の数名の先生方と拠点本部ミーティングに参加しました。そのあと、本部長の勧めで熊本市西区を巡回する神奈川県DMATチームに帯同し、西区役所で九州看護福祉大学の田口太郎准教授と合流。担当保健師の方に相談し、隣接する西部公民館のまちづくりルームに拠点施術所を開設しました。

この災害では、県庁救護調整本部で初めて鍼灸マッサージ師合同チームとして救護班登録を行い、熊本市・宇城市・益城町・西原村などで長期の支援活動になりました。すべてが成功したとは言いがたいですが、熊本県師会と九州看護福祉大学講師チーム協力のもと、他の医療チームと連携することができた初めての例となりました。その時お世話になったすべての「同志」に感謝したいと思います。

この熊本地震での活動を皮切りに、平成29年九州北部豪雨、平成30年7月豪雨、令和元年台風19号、昨年の令和2年7月豪雨と、毎年のように災害が起こり、危機管理委員会も忙しい日々が続いています。そして昨年からのコロナ禍です。私自身、危機管理委員会＝災害医療対策委員会と考えていたのですが、他に対応する部署がなく、なし崩し的に（笑）新型コロナウイルス感染症の情報収集、衛生材料の斡旋、院内感染対策文書の作成、ガイドラインの作成、厚生労働省その他行政機関との協議等の本委員会で行なっており、災害医療研修等はコロナ禍の影響で開催できずにヒマになるかと思いきや、文書作成等に追い回される日々と

なっています。

このコロナ禍は社会生活全般を大きく変化させ、我々の仕事である鍼灸業そのものにも大きな影響を及ぼし、災害支援活動のあり方についても大きな影を落としています。実は昨年度、DMAT本部からの依頼で、クラスターが発生した病院に対し職員の健康支援活動を行う機会が数回ありました。PPEを装着し感染の恐怖と戦いながら医療業務を行うことは想像以上のストレスで、なかには、施術中に泣き出してしまいう看護師の方もいるほど、相当に気を張りつめた状態で業務をこなしているようでした。そもそも災害支援と我々の鍼灸施術は相性がよく、医薬品が届いていない状況でも施術が可能であり、さまざまな愁訴に対応でき、タッチングケアという側面から被災者の心のケアにもつながると考えていますが、コロナ禍はまさに「災害」であり、「心のケア」に対する我々の役目について再認識させられました。

我々鍼灸団体の活動は公益法人である以上、広報普及という側面を持ちます。災害支援活動は医療系団体としての義務であるだけでなく、よく理解されていない我々の施術を紹介する場でもあり、最終的には一般の方々への認知度を高めることにつなげていくことを目標としています。元々、危機管理委員会では若手委員が活躍する傾向があるのですが、令和3年度から新たな委員が3名加わりました。withコロナからafterコロナへの次の10年、委員一同「コロナ禍においても有用な鍼灸」を広めるため、臆せず活発に活動をし続け、災害時を含めさまざまな場面での「鍼灸の有用性」をアピールしていきたいと思っています。



呉市安浦まちづくりセンター避難所

日本の鍼灸を支える業団として



法人管理委員会 委員長 寺川 華奈

はじめに

従来の総務局と財務局が、平成22年9月1日の公益法人への移行を機に、法人管理事業として含まれることになりました。そのため本事業には、日常業務については事務局との連携を図りながら、法人の管理・運営に関する①諸会議運営に関すること②関係官庁ならびに諸団体との協調・交流③関係官庁等との定期協議④各師会等の式典・慶弔⑤表彰⑥公益法人としての内部規程の整備、その他にも公益目的に該当しない事業や、今後、公益目的事業の一つとして含まれる可能性があるものの、未だ委員会活動として事業の全体が決まらないような個別の事業もここに含まれません。伝統医学の基本概念である五行説で言えば、五行の一つでもあり、各要素の中に含まれ、次の季節に移行する時期（土用）とも関係する「土」に例えられるように思います。

この度の70周年を記念し、ここで平成27年度（2015年度）から令和3年（2021年）8月末現在までを皆様と振り返りながら、その時々の特徴やトピックに触れてみたいと思います。

1.平成27年度（2015年度）

1) 答申

2014年設置の法改正対策準備室（小川卓良室長、日本鍼灸師連盟 法改正戦略室長を兼任）では、引き続き鍼灸師法の設立に向けた準備が進められた（年度内における「定義作成」等のための会議開催数は9回）。癒やし（経済産業省、以下経産省管轄）と治療（厚生労働省、以下厚労省管轄）という鍼灸の両面に注目し、鍼灸と鍼灸師が医療を含めた社会システムの中でどのように活用・活躍できるかについて、その育成システムも含めた概要が本年11月に「答申」としてまとめられ、当時の仲野彌和会長（日本鍼灸師連盟委員長を兼任）に提出。

2) 認定等委員会への報告

介護予防事業における期末現金における整合性の処理をめぐり、6月の臨時理事会にて協議の上、同月報告。また2月、3月にも協議。

3) 各種規程等の整備

職員服務規程、経理規程、全国師会長会運営規程、ブロック会議運営規程、危機管理基本規程、青年コラボ事業実施要綱等の改定。

4) 定款変更

定時代議員総会にて理事定数を「21名以上24名以内」から「18名以上21名以内」に変更。

5) 役員改選

仲野彌和氏が会長に就任（重任）。

6) 各都道府県師会との連携

11月、ブロック長会議、師会長会議を開催。

7) 記念式典

10月、創立65周年式典・懇親会・記念講演を開催。

8) 厚生労働大臣免許保有証の発行に向けて

あはき等法推進協議会における第1回免許保有証（仮称）検討委員会を4月に開催。第2回日の7月には会議名が「第2回厚生労働大臣免許保有証」と定着。

2.平成28年度（2016年度）

1) 経産省との会議

前年度の経産省ヘルスケア産業課との会議が契機となったのか、本年度は経産省ヘルスケア産業課単独で2回（8月、2月）、厚労省も含めた三者会議を1回（5月）開催。4月、経産省発出のニュースリリースに関する打合せを開催。

2) 認定等委員会関連

6月、認定等委員会提出書類等検討会議を開催。

3.平成29年度（2017年度）

1) 会館建て替え

南大塚周辺の再開発計画が進むなか、会館をど

うするかについて審議を重ねた結果、5月の第1回にて会館の有効活用を決議。具体的には、日本鍼灸師会館を一旦手放（売却）し、新たに建設された建物の権利分のスペースを購入（等価交換）するというもの。住友不動産との間で売買契約に関する打合せを7月より開始（以降9月、1月、2月）。3月の第7回理事会にて契約賛同の決議、同月、契約調印式を執行。

2) 認定等委員会

6月、定款・規程等の整理および認定等委員会提出書類の確認作業。

3) 各種規程の整備

5月に諸規程の改定、11月に諸規程の改定、特定個人情報の委託管理を決議。3月、ブロック会議運営規程を改定。

4) あはき等法制定70周年記念の集い

11月、当該記念集会を開催。

5) 全鍼師会との協調

全鍼師会との間での事業の合同開催に向けて、内外ともに積極的に働きかけた（8月、9月、10月、11月）。11月の第5回理事会においても全鍼師会との合同研修を決議、全国大会の合同開催も前向きに着手。

6) 役員改選

仲野彌和氏が会長に就任（重任）。

7) 日本の医療・福祉・介護関連団体意見交換会

4月の世話人会を嚆矢として、意見交換会を全3回開催（4月、7月）。

8) 会費の値上げ

3月、第7回理事会にて、会費値上げに関する方向性に言及。

9) 新しい会員制度

8月、第5回理事会にて、組織委員会が「新しい会員制度」を提案。

10) 公1資産である図書

1月、第6理事会にて書籍処分を決議、3月図書を調査、平成30年7月蔵書整理、令和1年8月倉庫保管資材・書庫・書類の確認、令和2年3月第5回理事会にて書類のデータ化を上程、承認。令和3年6月図書を確認。

4.平成30年度（2018年度）

1) 会館の建て替え

引き続き住友不動産との間での打合せ（工事の工程とその進捗報告）は継続（4月、5月、8月、2月、3月）。一方で会計処理上、必要な手続きを継

続（5月）。8月、第2回理事会にて仮事務所への移転を決議。同月、日本鍼灸会館お別れ会を開催。3月より積和建設との打合せを開始。

2) 認定等委員会

スポーツ鍼灸トレーナー制度の新設に関し10月、変更認定申請に関する打合せを行い、その後数回にわたりメールにてやりとりしたが、最終的に3月の第5理事会にて変更認定の申請は一旦取り下げ、全日学等との合意を前提として再度申請することを決議。

3) 各種規程の整備

11月、第3回理事会にて代議員選挙規則にある合区を廃止し「会員50名以下の師会からは1名選出」と改定。また、新たな特定費用準備金積立を承認。1月、再雇用就業規則の新設を承認。

4) 新しい会員制度

1月の第4回理事会にて休会制度を承認。3月の第5回理事会にて準会員制度の新設について承認。

5) 会費の値上げ

前年度決定した方向性のもと、5月の第1回理事会にて、会費値上げに対し師会への説明をつくすことを決議し、6月の代議員総会にて会員値上げを提案、各ブロック会議、11月の師会長会議における説明を経て、3月の第5回理事会にて会費徴収の見直し案を総会に上程することを決議（6月の代議員総会で否決）。

6) 全会員メールアドレス登録

11月の師会長会議にて、全会員にメールアドレス登録の協力を依頼。令和元年10月、11月に確認作業を開始。令和2年6月に、会員メールアドレスの収集方法について協議。

5.平成31年度・令和元年度（2019年度）

1) 会館の建て替え

新会館の内装に関し積和建設と見積り打合せを開始（4月）、他にも三井不動産、住友不動産とも協議（7月、3月）。

2) 認定等委員会

4月と8月に認定等委員会を訪問、9月に認定等委員会事務局と剰余金の処理方法の打合せ、2月、認定等委員会立入検査。

3) 各種規程の整備

5月の第1回理事会にて①謝金取扱規程の改定②会館立替積立資産の廃止と特定費用準備資金取扱規程の新設③準会員制度導入に伴う定款変更案の承認。③は総会にて承認。8月の第4回理事会にて

①大会運営規程の改定については審議継続②謝金規程の改定・内規新設は承認③準会員規程の改定案は承認④東京オリ・パラ委員会は、スポーツボランティア事業として変更届出することで承認。

4) 新しい会員制度

6月の代議員総会にて、賠償責任保険(全員付保)は師会単位で検討し、12月の師会長会議で回答ということで承認。

5) 役員改選

6月、小川卓良氏が会長に就任(新任)。

6.令和2年度(2020年度)

1) 会館の建て替え

会館完成後の活用に関する協議の中で、8月の第2回理事会にて、新会館有効活用のため専門家とのアドバイザー契約を締結することを決議(8月、9月、10月、11月12月)。また、11月の第3回理事会にて、新会館は賃貸を1階と2階の一部(東鍼会)とし、本会事務所として2階を使用することで承認、11月、東鍼会と新会館家賃の協議。3月、新会館契約書を締結。

2) 各種規程等の整備

8月に委員会におけるオンラインでの審議を充実すべく、Web会議報酬の規程の中で設定、承認。11月の第3回理事会にて役員の報酬に関する内規(新設)の承認。1月の第4回理事会にて各種規程の改定。

3) 会員増のための新しい可能性

1月の第4回理事会にて各種規程の改定、労災保険特別加入の件についての上程、継続審議。

7.令和3年度(2021年度)

1) 会館の建て替え

年度内の引き渡しを予定。現在はアドバイザーを通じテナント募集を行っている。

2) 役員改選

6月に要信義氏が会長に就任(新任)、7月の臨時代議員総会にて川上詩朗氏を外部監事として承認。

まとめ

法人管理にとってこの5年間のほとんどは、会の資産である会館をどうするかが最重要課題のひとつでした。あらゆる場面で適正に対応するために、随時、認定等委員会には相談し進めております。

これから先の5年間は、新しい会館でのスタートとなります。この新しい会館という希望と、本

会を担い立つ若手の登場という期待を抱き、皆様と力強く進んで参りたい所存です。

附. あはき関連団体について

4団体長会議(本会・公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会・公益社団法人日本あん摩マッサージ指圧師会・社会福祉法人日本視覚障害者団体連合)、7社協(前者4団体+公益社団法人東洋療法学校協会・公益社団法人全国病院理学療法協会・日本理療科教員連盟)など、協議する内容によって協議の受けは異なる。

日本鍼灸師会70周年を 迎えて

創立70周年記念事業実行委員会
委員長 大口 俊徳



日本鍼灸師会は先輩諸兄がたいへんなご苦勞をされた末に、昭和25年に設立した日本で唯一の鍼灸師の職能専門団体です。以来、関係諸団体や行政、都道府県師会の会員や業友の多くの方たちのご支援ご協力のもと、令和2年（2020年）に70周年を迎えることができました。

記念式典は、日鍼会を支え発展に貢献された方々に対し、会長より会長表彰を授与、役員功勞や永年功勞のある方に感謝状を贈呈し、また、日ごろお世話になっている国会議員や関係諸団体など多くの方々をお招きして感謝の意を申し述べる、欠かすことのできない重要な事業です。我々70周年記念事業実行委員会は令和元年10月より準備を始め、令和2年12月5日に帝京平成大学池袋キャンパス沖永記念ホールで記念式典を開催、祝賀会はメトロポリタンホテル池袋で行う予定でした。しかし、令和2年初めより新型コロナウイルスの感染拡大が猛威を振う中、同年5月の理事会において記念式典の1年延期が決定されることとなりました。

記念式典は第16回全国大会in東京の開会式直後に行うため、改めて会場の予約から始まり、東京都鍼灸師会の取り計らいで、完成したばかりのとしま区民センター多目的ホールを予約することができました。祝賀会は当初予定したメトロポリタンホテル池袋の450名収容の宴会場を予約し、感染予防対策として収容人数の半数の225名までの祝宴で企画再考となりました。しかし、令和3年になっても新型コロナウイルスの感染が収まるどころか逆に拡大傾向にあったため、祝賀会については会場のキャンセル期限である8月20日に中止を決定しました。

このような状態での記念式典は過去に経験がなく、日鍼会役員も実行委員もさまざまな個所で事前の計画変更が余儀なくされ、皆様にはたいへん

ご迷惑をおかけしました。コロナ禍で多くの事業が困難な状況のなかでしたが、理事会は十分に感染予防に配慮をした上での記念式典開催を決定しました。

記念講演には参議院議員の片山さつき様をお招きして「ポストコロナの我が国の医療はどうあるのが望ましいか」の演題で講演していただくことも決まり、式典当日は感染予防を考え、全国の会員および一般の方が記念講演を視聴し易くするために、新しい試みとしてWeb配信をしました。

70周年の記録としては、11年前の60周年のときは記念誌であったものを、今回は広報普及IT委員会の児山委員長はじめ委員会メンバーの皆さんにDVDの制作をお願いしました。DVDは全国各師会に配布し、そのデータを日鍼会ホームページにも掲載してダウンロードできるようにし、また、記念講演は日鍼会のYouTubeチャンネルでも視聴できるように計画中です。

今回の実行委員会のメンバーの中には60周年、65周年の実行委員経験者が3人いますが、コロナ禍という状況下で、これまで通りとはいかないことに歯がゆさを感じました。

次の75周年記念は4年後です。次の実行委員がどのようなことが起きても対応できるように、記録を整理しておくことも重要な使命と考えております。記念式典終了後に、それらを踏まえた報告書の作成を考えております。

皆様のご協力のもと、記念式典・記念事業を無事終えることができ、多くの皆様からご祝辞を頂戴して身の引き締まる思いです。今後の日本鍼灸師会の発展に努力を続けてまいります。

70周年を迎えた 日本鍼灸師会のこれから

監事 仲野 彌和



日本鍼灸師会が70周年を迎え、更なる飛躍を遂げるために監事として、ひとこと申し上げます。

昭和25年の創立から今日まで、国民の健康と福祉の向上、業界の発展のために鍼灸学術の振興と鍼灸師の社会的地位の向上など、先人の努力がありました。昭和47年（1972年）に入会以来、会員として日本鍼灸師会を約半世紀見つめてきましたが、平成15年からは現在まで役員として18年間会務に携わり、さまざまな問題に対して他の役員とともに全国各鍼灸師会の役員の方々と全国の会員の声を聴きながら、一貫して多くの先人同様に尽力してまいりました。

国民への鍼灸の啓発活動は国外にまで広がってきています。歯止めがかからない少子高齢化ですが、国民的意識が予防的健康志向へと高まるなかで、鍼灸および鍼灸師の果たすべき役割はますます重要となってきています。本会の公益事業は、業界の先導役として周辺医療の関係者と小異を捨て大道につくべく努力を重ねて世論を味方につけ、医療人として活躍できる体制を構築しなければなりません。

現在のコロナ禍のもとでは、細菌学を極めたとされる西洋医学が持つ最先端技術でも対応はいまだ道半ばであります。しかし、養生学を基盤におく東洋医学が、その分野の片隅で「人の生きる基本」として精査し、もっと検討しなければならない医学の分野が存在することが明白になったのではないのでしょうか。今後は、どの分野において

も教育制度の充実を考え、そして、鍼灸医学の研究環境を支援しなければなりません。それは関連学術団体である（公社）全日本鍼灸学会への支援かもしれませんし、協同しての社会への働きかけかもしれません。いずれにしても、現状からさらに発展することが必要です。

鍼灸師の更なる飛躍のための社会的環境は調いつつあります。そのために我々は臨床家として高い倫理観を養い、日々の臨床対応でこの素晴らしい職業の大切さをひもとき、健康づくりの基本を機会あるごとに指導し、導かねばなりません。組織を拡大強化するためには、役員に対して研修制度の充実（ガバナンスおよびコンプライアンス）が求められますので、さまざまな対応ができるように、十分な教育研修の時間を確保することも重要となります。

本会は11年前の平成22年に公益社団法人に認定されましたが、認定当時に10年後はペーパーレスになり、インターネットを駆使した情報発信ができるだろうと予想していました。そして11年がたち未達成の部分も多くありますが、eラーニング研修など順調に進んだものもあります。このような積極的取り組みを着実に進めながら、さらに、社会的要請に応えることができるような組織へと発展させ、少子高齢化社会に、鍼灸治療で健康づくりを実践する人々のために、会員の皆さんがますます飛躍することを期待し、それに対して努力と支援をしたいと思います。

見果てぬ夢

監事 浜田 暁



日本鍼灸師会創立70周年を迎え、こよなく鍼灸を愛する会員のすべての皆さまとともに、喜びを共有したいと思います。

私が鍼灸の道を志したのは、中国の針麻酔が世界を震撼させた余韻が醒めやらぬ昭和58年。鍼灸が医療の表舞台に登場し、科学的解明が叫ばれた時代でした。そしてその呪縛に捕われながら今日にいたります。

戦後日本は、情の文化より知の文化を大切にしてきた傾向があり、知の文化は、20世紀には素晴らしい発展を遂げ物質文化の目覚ましい進展をもたらし、その結果として、科学技術は神業と呼ばれるほど高度になり、私たちの生活を豊かにしました。しかし一方で、私たちのなかにあった謙虚さや感謝や我慢などの精神力を摩耗させ、情や心が忘れられ、論理的に知的にものごとを処理しようとする傾向が強く、情のところで乾いた社会になってしまいました。

また、グローバル化の大波に翻弄されグローバル化は確かに良い面もありましたが、今各国で起こっている反グローバル化にも大きな弊害もあり、トータルで考えると経済や社会にとって福音と呼べるものではなかったようです。コロナ禍でデジタル化は非常に重要な道具、手段となりましたが、リアル世界の重要性も再評価され、すべてが取って代わられるものでもないことも認識されました。

昭和、平成、令和と時代の変化とともに人々の価値観や人生観、仕事や人生に対する目的意識も大きく変わり、我々が日々提供している鍼灸医療についても科学万能ではなく原点に立った、人を診る医療、人に寄り添った医療を実践しなければなりません。変わるべきところは変わり、時代がどう変わろうと絶対に守るべき道筋を明確に認識して、現在の医療の中で果たせる役割を少しでも広げ、新たな発展を遂げたいと夢見ています。

日本鍼灸師会の更なる飛躍へ



外部監事（弁護士） 川上 詩朗

日本鍼灸師会70周年、おめでとうございます。

日本鍼灸師会は、昭和25年創立から今日にいたるまで、国民の健康と福祉の向上のために鍼灸の学術を振興し、会員を含めた鍼灸師の社会的地位の向上、鍼灸業界の発展に一貫して尽されてきました。それにより、国民の鍼灸への理解が広がりとつあります。本会の活動領域も、国内的な分野にとどまらず、国際的分野にまで広がってきています。高齢化が進み、健康への国民的意識の高まりのなかで、鍼灸および鍼灸師の果たすべき役割はますます重要となってきています。

この社会的要請に応えるためには、業界の中心的な役割を担うにふさわしい組織へと、本会をさらに発展させることが必要です。そのためには、会員を増やし組織を拡大強化するとともに、組織のガバナンスおよびコンプライアンスを充実させることが求められています。

本会はこの間、鍼灸業界および本会の将来構想の検討を重ね、準会員制度を新設するなど、本会の魅力を伝えることを通じて、組織拡大へつなげるためのさまざまな努力をしてまいりました。また、ガバナンスおよびコンプライアンスを強化するために、役員に対する研修制度の充実などにも取り組んでいます。このような積極的な取り組みを踏まえたうえで、さらに、現在の社会的要請に応えることができるような組織へと発展させるために、これまで以上の努力が求められているのではないのでしょうか。

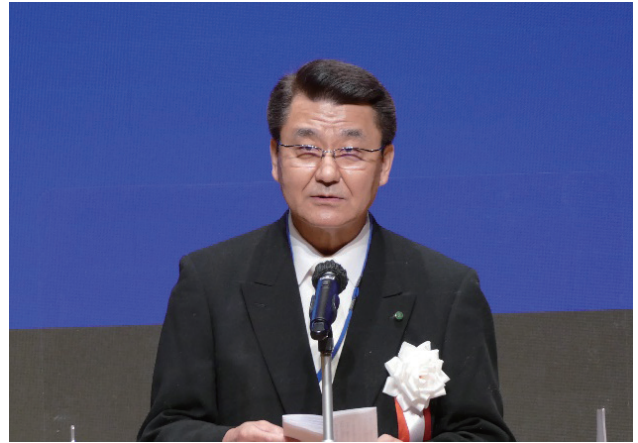
高齢化社会を迎え、健康への関心が高まっており、社会的環境は整いつつあるように思います。あらゆる人々の健康を向上させるための鍼灸を実現するために、本会のさらなる飛躍を期待しています。

写真で綴る 創立70周年記念式典





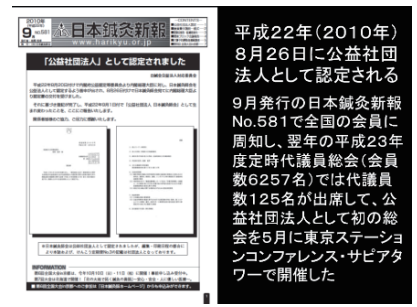
開式の辞 中村副会長



式辞 要会長



スライド「70年の歩み」を解説する
南副会長





東京都知事
小池百合子
小池東京都知事からのビデオメッセージ



後藤茂之厚生労働大臣代理 高宮様



衛藤晟一 参議院議員



古川俊治 参議院議員



大家敏志 参議院議員



自見はなこ 参議院議員



受付スタッフ

お祝い

お届け台紙名 『ハーモニー』
お届け日 2021年10月22日

公益社団法人日本鍼灸師会 会長
要 信義 様

日本鍼灸師会創立七十周年のご祝典をお慶び申し上げます。
平素より、会員の皆様方には大変温かなご支援、ご指導を賜りまして、心から御礼申し上げます。皆様のご努力により、ゆるぎないご盛業にあられますことは、喜ばしい限りと存じます。
皆様の今後益々のご活躍と、貴会のより一層のご発展を心より祈念致しております。

参議院議員 古川俊治



事前ミーティングの様子



東洋療法研修試験財団理事長 奈良信雄様



東洋療法学校協会理事、全日本鍼灸学会副会長 坂本歩様



国際医療技術財団理事長 小西恵一郎様



東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長 布村幸彦様



笹川記念保健協力財団会長 喜多悦子様



日本柔道整復師会副会長 三橋裕之様



日本あん摩マッサージ指圧師会会長 安田和正様



入場者に検温を実施する会場スタッフ



代表で会長表彰を受け、謝辞を述べる浪岡会員



会長感謝状を受け取る古賀会員



司会を務めた土屋実紀さん



式典会場の様子



閉会の辞を述べる安田副会長

創立70周年記念講座
「ポストコロナの我が国の医療はどうあるのが望ましいか」
「医師からみた鍼灸とICD-11」



講師 参議院議員 片山さつき先生



パネリストの仲野監事と南副会長



公開討論の様子



質問に立つ伊藤医師と中村副会長



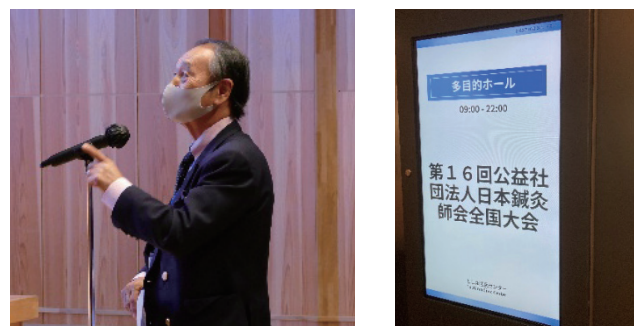
医師からみた鍼灸とICD-11



講師 日本東洋医学会会長 伊藤隆先生



座長を務めた高田・横山会員



質問に立つ長谷川会員

公益社団法人 日本鍼灸師会
創立70周年記念式典 次第

- 司会 土屋 実紀
- 一、開式の辞 副会長 中村 聡
- 一、式 辞 会 長 要 信義
- 一、70年の歩み 副会長 南 治成
- 一、祝 辞
- 東京都知事（ビデオメッセージ） 小池百合子様
衆議院議員 厚生労働大臣 後藤 茂之様
代理 厚生労働省保険局医療課保険医療企画調査室長 高宮 裕介様
参議院議員 鍼灸マッサージを考える国会議員の会事務局長 衛藤 晟一様
公益財団法人 東洋療法研修試験財団理事長 奈良 信雄様
公益社団法人 東洋療法学校協会会長 清水 尚道様
代理 理事 坂本 歩様
公益財団法人 国際医療技術財団理事長 小西恵一郎様
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 副事務総長 布村 幸彦様
公益財団法人 笹川記念保健協力財団会長 喜多 悦子様
公益社団法人 日本柔道整復師会会長 工藤 鉄男様
代理 副会長 三橋 裕之様
公益社団法人 全日本鍼灸学会会長 若山 育郎様
代理 副会長 坂本 歩様
あはき等法推進協議会代表 伊藤 久夫様
代理 公益社団法人日本あん摩マッサージ指圧師会会長 安田 和正様
- 一、来賓紹介
- 一、祝電披露
- 一、表 彰
- 日本鍼灸師会 会長表彰 代表 青森県師会 浪岡 貞則
日本鍼灸師会 会長感謝状 代表 福岡県師会 古賀慶之助
- 一、謝 辞 受賞者代表 浪岡 貞則
- 一、閉式の辞 副会長 安田 政寛

公益社団法人日本鍼灸師会 創立70周年記念講座

「ポストコロナの我が国の医療はどうあるのが望ましいか」

講 師 参議院議員 片山さつき先生

御来賓一覧

御 芳 名 (順不同)

東京都知事 (ビデオメッセージ)	小池百合子 様
前衆議院議員 厚生労働大臣	後藤 茂之 様
ご代理 厚生労働省保険局医療課保険医療企画調査室長	高宮 裕介 様
参議院議員	衛藤 晟一 様
参議院議員	片山さつき 様
参議院議員	古川 俊治 様
参議院議員	大家 敏志 様
参議院議員	自見はなこ 様
厚生労働省保険局医療課保険医療企画調査室長	高宮 裕介 様
公益財団法人東洋療法研修試験財団 理事長	奈良 信雄 様
公益社団法人東洋療法学校協会 会長	清水 尚道 様
ご代理 公益社団法人東洋療法学校協会 理事	坂本 歩 様
公益財団法人国際医療技術財団 理事長	小西恵一郎 様
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 副事務総長	布村 幸彦 様
公益財団法人笹川記念保健協力財団 会長	喜多 悦子 様
公益社団法人日本柔道整復師会 会長	工藤 鉄男 様
ご代理 公益社団法人日本柔道整復師会 副会長	三橋 裕之 様
公益社団法人全日本鍼灸学会 会長	若山 育郎 様
ご代理 公益社団法人全日本鍼灸学会 副会長	坂本 歩 様
あはき等法推進協議会 代表	伊藤 久夫 様
ご代理 公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会 副会長	石川 英樹 様
公益社団法人日本あん摩マッサージ指圧師会 会長	安田 和正 様
社会福祉法人日本視覚障害者団体連合 会長	竹下 義樹 様
公益社団法人全国病院理学療法協会 会長	平野五十男 様
日本理療科教員連盟 会長	工藤 滋 様
一般社団法人東洋はり医学会 会長	谷内 秀鳳 様
ご代理 一般社団法人東洋はり医学会 副会長	中澤 弘 様
一般社団法人日本東洋医学会 会長	伊藤 隆 様
学校法人明治東洋医学院 明治国際医療大学 学長	矢野 忠 様
学校法人赤門宏志学院 赤門鍼灸柔整専門学校 理事長	坂本 正憲 様
ご代理 学校法人赤門宏志学院 赤門鍼灸柔整専門学校 校長	安齋 昌弘 様
学校法人呉竹学園 東京医療専門学校 校長	齊藤 秀樹 様
学校法人常陽学園 東京医療福祉専門学校 校長	殿村 康一 様
学校法人素霊学園 東洋鍼灸専門学校 校長	大浦 宏勝 様
学校法人了徳寺学園 了徳寺学園医療専門学校 理事長	了徳寺健二 様
ご代理 学校法人了徳寺学園 了徳寺学園医療専門学校	木原 和彦 様
学校法人敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校 理事長	小林 光俊 様
ご代理 学校法人敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校	天野 陽介 様
学校法人呉竹学園 呉竹鍼灸柔整専門学校 校長	村上 哲二 様
セイリン株式会社 代表取締役社長	稲葉 巧 様
株式会社山正 代表取締役	押谷 小助 様
三井住友海上火災保険株式会社 営業第一課課長	漆原 進 様
株式会社ウーベル保険事務所 代表取締役	岡崎 慶太 様
オールワイ保険サービス株式会社 代表取締役社長	小宮 和義 様
ご代理 オールワイ保険サービス株式会社 医療保険部長	川井 保典 様

タカチホメディカル株式会社 代表取締役
 株式会社チュウオー 代表取締役
 日進医療器株式会社 代表取締役
 株式会社前田豊吉商店 代表取締役
 株式会社白寿生科学研究所 代表取締役
 ご代理 株式会社白寿生科学研究所 執行役員
 株式会社日本特殊医科 代表取締役
 株式会社キューアイ・マネージ 代表取締役
 株式会社吉田労務コンサルティング 代表
 株式会社F P パートナー

甲斐 新一 様
 今里 秀俊 様
 上島 伸介 様
 中田啓太郎 様
 原 昭邦 様
 榎本 秀寛 様
 松本 良世 様
 石井 宏忠 様
 吉田 孝司 様
 宮永 裕美 様

祝辞・祝電

- ・元衆議院議長 鍼灸マッサージを考える国会議員の会会長
- ・前衆議院議員 前厚生労働大臣
- ・前衆議院議員 元環境大臣
- ・前衆議院議員 政務調査会長
- ・前衆議院議員 東京オリ・バラ担当大臣、ワクチン接種推進担当大臣
- ・前衆議院議員
- ・参議院議員
- ・参議院議員
- ・一般社団法人日本統合医療学会 理事長
- ・学校法人北海道鍼灸専門学校 理事長
- ・学校法人東海医療学園 理事長
- ・学校法人明治東洋医学院 明治東洋医学院専門学校 理事長・校長
- ・三井住友海上火災保険株式会社 取締役社長
- ・大樹生命保険株式会社 公共・広域法人営業部長
- ・アールワイ保険サービス株式会社 代表取締役社長

伊吹 文明 様
 田村 憲久 様
 鴨下 一郎 様
 高市 早苗 様
 堀内 詔子 様
 柴山 昌彦 様
 佐藤まさひさ 様
 古川 俊治 様
 伊藤 壽記 様
 笠井 正晴 様
 杉山 誠一 様
 谷口 和彦 様
 船曳真一郎 様
 大隈光一郎 様
 小宮 和義 様

祝電

創立七十周年記念式典のご盛会を心より
お慶び申し上げます

日頃の皆様方のご尽力に敬意を表します
緊急事態宣言は解除されましたが、長引くコ
ロナ禍で貴会や会員の皆様方におかれまして
も様々なご苦労が絶えないことと存じます
国民の皆様が共生し、安心安全な生活を送る
ことが出来ますよう益々の努力をして参りま
す 貴会におかれましても、尚一層の感銘を
大予防対策に取り組まれ、この老機を乗り越
えていただき益々のご清栄を心よりお祈り申
上げます

令和三年十月二十四日

前厚生労働大臣
田村 憲久

お祝い
お慶び台紙名 「はなやま」
お原行日 二〇二三年一〇月二十四日

公益社団法人日本鍼灸師会
会長 要 信義

創立七十周年おめでとうございます。
貴法人の今までのご功績に敬意を表すとともに、今後のさらなる
ご繁栄をお祈りいたします。


今和三年 十月吉日

一般社団法人日本統合医療学会
理事長 伊藤 香記

祝

日本鍼灸師会創立70周年記念式典の
ご開催を心よりお慶び申し上げます。
創立70周年、誠におめでとう
ございます。鍼灸の発展のために精力的に
活動される貴会に、敬意を表します。
ご参集の皆様のご活躍と、益々のご健康
を祈念しております。

“ヒゲの隊長” こと
参議院議員
佐藤 まさひさ




公益社団法人 日本鍼灸師会が創立70周年を迎えられ
ましたことを、心よりお慶び申し上げます。

永きに亘り、鍼灸を通じて国民の皆様健康維持・
促進にご尽力下さっております会長の要信義先生を
はじめ貴会の皆様へ、感謝と深い敬意を表します。

日本鍼灸師会が、これからも末永く発展されますことを
願いつつ、ご臨席の皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り
申し上げます。

令和3年10月24日

自由民主党政務調査会長
高市 早苗



日本鍼灸師会創立七十周年をお祝い申し上げ
ますと共に、本日の記念式典のご開催を心よりお
慶び申し上げます。

戦後間もなくから現在までの七十年という道の
りにおける関係各位の皆様方の多大なご尽力に表
心より敬意を表します。


人々のライフスタイルや健康への意識が多様化する
中、鍼灸師の先生方に求められる御役割はますます
大きくなるものと存じます。

要 信義 会長様はじめ皆様方のご健勝と活躍と、
貴会さらなるご発展をお祈り申し上げ、御祝の
言葉といたします。

今和三年十月二十四日

東京オリンピックパラリンピック担当大臣
ワケ子 桂 穂 推進担当大臣
内 沼 子

公益社団法人 日本鍼灸師会
会長 要 信義



- 衆議院議員 前厚生労働大臣 田村憲久
- 衆議院議員 自民党政調会長 高市早苗
- 衆議院議員 堀内詔子
- 衆議院議員 元環境大臣 鴨下一郎
- 参議院議員 古川俊治
- 参議院議員 佐藤まさひさ
- 前衆議院議員 柴山昌彦
- 一般社団法人 日本統合医療学会

- 一般社団法人 青森県鍼灸師会
- 一般社団法人 奈良県鍼灸師会
- 学校法人 明治東洋医学院
- 学校法人 東海医療学園
- 北海道鍼灸専門学校
- RY保険サービス株式会社
- 三井住友海上火災保険株式会社
- 大樹生命保険株式会社
- (敬称略・順不同)

公益社団法人日本鍼灸師会70周年記念講演

「ポストコロナの我が国の医療は どうあるのが望ましいか」

参議院議員 片山さつき氏

動画再生 ▶

ハイブリッド
開催

公益社団法人 日本鍼灸師会 70 周年記念講演

「ポストコロナの我が国の医療は どうあるのが望ましいか」



入場無料

令和3年
10/24
(日)

参議院議員

片山さつき

講師 プロフィール

参議院議員 (全国比例区)

自民党総務会長代理、元国務大臣、元総務政務官、元経済産業政務、元自由民主党政調会長代理 (経済産業・環境・国土強靱化・オリンピックパラリンピック担当)、元参議院政務会長代理 (1982年東京大学法学部卒、大蔵省入省。広島国税局海田税務署長 (西日本初の女性税務署長)、国際金融機関長補佐 (G7代表団)、主計局主計官 (女性初) などを経て、2005年第44回衆議院議員総選挙で初当選。2010年、2016年参議院議員選挙 (全国比例区) 当選。第4次安倍改造内閣では内閣府特命担当大臣として入閣し、地方創生、まち・ひと・しごと創生、規制改革、男女共同参画、女性活躍の分野を担当。

会場

としま区民センター 多目的ホール (8階)

〒170-0013 豊島区東池袋 1-20-10

日時

令和3年10月24日 (日)

14:20 ~ 15:50

申込方法

QRコードから申込フォーム入力

または日本鍼灸師会事務局に

①氏名、②住所、③電話番号、④メールアドレス
記載の上 FAX 送信：03-5944-5087



池袋駅東口より徒歩7分

- 37.5℃以上の発熱、体調が優れない方、過去2週間以内に感染拡大している国や地域への訪問履歴がある方の入館はご遠慮ください。
- マスクをご着用ください。また咳エチケットにご留意ください。
- 手指の消毒、手洗いに協力ください。

日本の医療や健康について、これから大切になっていくことをお話いただけます。
Web参加も可能ですので、ぜひ、この機会に多くの皆様のご参加をお待ちしております。



公益社団法人 日本鍼灸師会

〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 2-1-19 双葉ビル 2階
Tel 03-5944-5089

叙勲・褒章受章者一覧（都道府県・受章年度順）

2010～2020年

受章内容	氏名	県・年
旭日小綬章	仲野 彌和	三重・2019
旭日双光章	五十嵐清二	山形・2010
旭日双光章	首藤 傳明	大分・2010
旭日双光章	大藤 武彦	岡山・2011
旭日双光章	那須野次則	長野・2012
旭日双光章	土橋 和明	山梨・2013
旭日双光章	北島 國夫	宮城・2014
旭日双光章	高橋 秀行	福島・2014
旭日双光章	井上 慶山	京都・2014
旭日双光章	安齋 昌弘	福島・2015
旭日双光章	小澤 弘	滋賀・2016
旭日双光章	宇和川州通	長崎・2016
旭日双光章	佐伯 正史	兵庫・2017
旭日双光章	馬場 道敬	福岡・2017
旭日双光章	石破 伸宥	鳥取・2017

受章内容	氏名	県・年
旭日双光章	大和田征男	茨城・2018
旭日双光章	塩澤 好三	長野・2019
旭日单光章	星野 喜一	北海道・2020
旭日单光章	一井 典子	京都・2020
瑞宝单光章	大麻 悦治	香川・2010
藍綬褒章	大湊隆次郎	北海道・2011
藍綬褒章	末永 泰行	福岡・2011
藍綬褒章	浜田 暁	大阪・2012
藍綬褒章	得本 誠	大阪・2018
藍綬褒章	大口 俊徳	埼玉・2020
藍綬褒章	萩野 利赴	和歌山・2020
藍綬褒章	要 信義	福岡・2020
黄綬褒章	細田 稔	山梨・2011
黄綬褒章	安田 庄内	富山・2020

厚労大臣表彰受賞者一覧（都道府県・受賞周年順）

※法制55・60・65は開催なし。

北海道	笠井 行雄 (25)
	萩原 信一 (30)
	加賀 忠蔵 (35)
	畠山四三二 (法制50)
	伊藤 公一 (50)
	稲垣 吉一 (50労)
	星野 喜一 (法制70)
	渡辺 範昭 (法制70)
青森県	亀田多三郎 (25)
	久保田宝顕 (30)
	山口 清規 (35)
	工藤 一郎 (法制40)
	保科 省三 (法制40)
岩手県	三浦 由蔵 (25)
	佐藤 徹 (30)
	石川 文治 (35)
	阿部嘉兵衛 (法制40)
	千葉正三郎 (法制40)
	新里 勤 (50)
井上 正敏 (50労)	
宮城県	小関 明 (25)
	川村 智夫 (30)
	佐藤 吉郎 (35)
	田中 三雅 (法制40)
	熊田 典子 (50)
	稲井 一吉 (法制70)
樋口 秀吉 (法制70)	
秋田県	泉谷 銀蔵 (25)
	山田寅之助 (30)
	本庄 孝助 (35)
	瓜生 喜七 (法制40)
	高橋 龍蔵 (法制40)
櫻木 輝明 (法制50)	
山形県	須貝 吉男 (25)
	阿部大三郎 (30)
	成沢フサ枝 (35)
	秋葉久次郎 (法制40)
	松村 伝治 (法制40)
	白旗 寛幸 (法制50)
	五十嵐清二 (50)
	菅 勝五郎 (50労)
	渡部 秀 (法制70)

福島県	遠藤久太郎 (25)
	高橋 秀次 (35)
	北山 亨 (法制40)
	鈴木 重雄 (法制40)
	斎藤 卯平 (50)
	高橋 秀行 (50労)
	中沢 良平 (法制70)
	木村 薫 (25)
茨城県	大和武左衛門 (30)
	大坪 正路 (法制40)
	小林由太郎 (法制40)
	上山 茂 (法制50)
	山田 祐一 (50)
	大和田征男 (50労)
栃木県	飯田 孝道 (法制70)
	高橋 勝見 (25)
	橋本 義澄 (30)
	石井 守 (法制40)
	鈴木 正一 (法制40)
	福嶋 慎 (法制50)
群馬県	大山 啓司 (50)
	中川 節 (50労)
	田中栄次郎 (25)
	斉藤 一雄 (30)
	山岸 理市 (35)
	大岡もり江 (法制40)
埼玉県	関 米一郎 (法制40)
	植原 重治 (法制50)
	池田伊佐男 (50)
	深田 正一 (25)
	宮岡 栄 (30)
	井上 査 (35)
	北田 一良 (35)
	佐藤謙次郎 (35)
	小峰 弘 (法制40)
	鶴田善次郎 (法制40)
安藤 譲一 (法制50/50労)	
千葉県	斎藤傳兵衛 (50)
	高橋 清人 (50労)
	柴田 浩平 (法制70)
	小俣 浩 (法制70)
石渡 市郎 (25)	

千葉県	梅谷 勤 (30)
	加藤 忍 (35)
	毎田 孝造 (法制40)
	向後 隆 (法制40)
	佐藤 正之 (法制50)
	大村 清孝 (50)
	永島 茂雄 (法制70)
	柴田 泰三 (法制70)
	石川 秀雄 (25)
	木下 晴都 (25)
東京都	芹沢 勝助 (25)
	中村 四郎 (25)
	永井 秋夫 (25)
	奈良 恵三 (25)
	岩根 恩 (30)
	小川 晴 (30)
	川勝 義雄 (30)
	鈴木 達司 (30)
	関根 勝重 (30)
	黒須 幸男 (35)
	阪本 佳二 (35)
	増田 博一 (35)
	安井 弘 (35)
	伊藤 孝 (法制40)
	伊藤 浩 (法制40)
	小野 文恵 (法制40)
	柿沼 政男 (法制40)
	中村万喜男 (法制40)
	成田 隆一 (法制40)
丸野 新 (法制40)	
山下 健 (法制40/50労)	
相馬 悦孝 (法制50/50労)	
泉澤 勝 (法制50)	
武田 信正 (50)	
横井 和弘 (50)	
浦山 久昌 (法制70)	
仲田 欣司 (法制70)	
神奈川県	須藤亀之助 (25)
	福原 良二 (25)
	福岡 仁司 (30)
	山田醇一郎 (30)
植松 治義 (35)	

神奈川県	北原 正美 (法制40)
	増田 次郎 (法制40)
	君嶋 忠勝 (法制50)
	鈴木 康王 (50)
	高橋 賢 (50労)
	伊藤 昌芳 (法制70)
新潟県	坂内松三郎 (30)
	関口 四郎 (35)
	捧 梅次郎 (法制40)
	竹越 繁長 (法制40)
富山県	石井 百雄 (50)
	道村 重春 (25)
	清田 吉春 (30)
	江幡 俊之 (法制40)
	酒井 繁二 (法制40)
	中杉 為雄 (法制50)
	二上 健三 (法制50)
	米谷 政之 (50)
中野 邦雄 (法制70)	
石川県	堺 外喜夫 (25)
	釜田 勉 (30)
	坂本 耕司 (35)
	佐々木已知郎 (法制40)
	元村 政男 (法制40)
	中村 錦右 (50)
	金谷 繁次 (法制70)
福井県	恐神 治一 (25)
	坪内 宗次 (30)
	酒井 清 (35)
	境谷 将 (法制40)
	酒井 俊夫 (法制50)
	平野 樹吉 (法制50)
	牧野 雅照 (50)
	牧野 雅興 (50労)
	山下 義光 (法制70)
吉田 隆一 (法制70)	
山梨県	土橋 文勝 (25)
	勝俣 光康 (30)
	石原 秀永 (法制40)
	小田切正則 (法制40)
	細田 稔 (法制50)
	土橋 和明 (50)
	長谷川俊一郎 (法制70)
藤巻十三夫 (法制70)	
長野県	倉島 宗二 (25)
	横山 伝造 (30)
	丸山 忠 (35)

長野県	市村 藤雄 (法制40)
	大塚 善三 (法制40)
	宮本 龍浩 (法制50)
	那須野次則 (法制50/50労)
	松浦 博一 (50)
	池田 良一 (法制70)
	今村 和久 (法制70)
静岡県	塩澤 好三 (法制70)
	高橋 徳造 (25)
	勝又 操 (30)
	内田 治明 (35)
	萩原善次郎 (法制40)
	水野 正明 (法制40)
	八木 兼次 (法制40)
岐阜県	福地 忍 (法制50)
	鈴木 健一 (50労)
	中村 聡 (法制70)
	大野 武雄 (30)
	小塩 正美 (35)
	木下 弘 (法制40)
	中島 文市 (法制40)
愛知県	原 一 (法制50)
	本田 芳朗 (50)
	所 集次 (25)
	井垣 博夫 (30/50労)
	小島 福松 (30)
	長崎 照義 (30)
	山田 吉彦 (30)
	水野豊次郎 (35)
	児玉 日義 (法制40)
	筒井 眞 (法制40)
三重県	早崎 正則 (法制40)
	岩田 明 (法制50)
	佐埜 明正 (法制50)
	横井 司 (法制50)
	熊崎 勝馬 (50)
	富田 明義 (50)
	大矢 勝行 (法制70)
	長谷川栄一 (法制70)
	本居 利通 (25)
	大西 繁蔵 (30)
三重県	仲野弥太郎 (30)
	新谷 実 (35)
	森谷 三次 (法制40)
	渡辺 長久 (法制40)
	福岡 保延 (法制50/50労)
三重県	三田 尚年 (法制50)

三重県	近藤 清 (50)
	天野 治 (法制70)
	竹田 博文 (法制70)
滋賀県	小沢 音石 (25)
	水谷 巖 (法制40)
	堂前 茂 (法制40)
	峰岡 克己 (法制50/50労)
	山元 正美 (50)
京都府	関野 光雄 (25)
	廣田 茂一 (30)
	大塚 良治 (35)
	玉中 修二 (法制40)
	中山 直隆 (法制40)
	西崎 清 (法制40)
	駒形 恵輔 (50)
大阪府	渋谷 修 (50労)
	小田原良博 (25)
	清水 千里 (25)
	花谷 正男 (25)
	山脇 静 (25)
	佐野 秋夫 (30)
	谷口 健藏 (30)
	三木 健次 (30)
	森 秀太郎 (30)
	米山 博久 (30)
	合田 康平 (35)
	竹田 文也 (35)
	吉村 幸男 (35)
	荒川 嘉裕 (法制40/50労)
	伊原 義雄 (法制40)
	辰巳 影好 (法制40)
	林 実 (法制40)
山崎 純男 (法制40)	
八田 勲 (法制50)	
小笹 文子 (法制50/50労)	
武田 秀孝 (法制50)	
伊藤 捷三 (50)	
酒見 博 (50)	
兵庫県	織部 虎雄 (25)
	鳥居 久雄 (30)
	八田 正一 (30)
	恵美 直芳 (30)
	森本 淳一 (30)
	岸 徳太郎 (35)
兵庫県	阿分 利温 (法制40)
	吉田 卓次 (法制40)
	岸田 有弘 (50労)

兵庫県	恵美公二郎 (法制70)
奈良県	山本 嘉一 (25)
	雨森 峯男 (30)
	福本賢太郎 (35)
	佐々木弘記 (法制40)
	橋村 友安 (法制40)
	笹岡 吉一 (法制50/50労)
	中畷 教子 (50)
和歌山県	坂東幸太郎 (25)
	藤井忠三郎 (30)
	亀田 勇 (法制40)
	見座 三郎 (法制40)
	萩野 利赴 (法制70)
鳥取県	吉岡 金市 (25)
	西川 波彦 (30)
	石破 克理 (35)
	小椋 富重 (法制40)
	野島 静 (法制40)
	岡 行輝 (法制50/50労)
	門下 幸治 (50)
石破 伸宥 (法制70)	
島根県	渡辺 進 (25)
	渡部 敏雄 (30)
	下垣 和夫 (法制40)
	辻野 徳博 (法制40)
	三成 勝正 (法制50)
釜田 正美 (50)	
岡山県	杉原 雅師 (25)
	向井 壽男 (30)
	田中 恒雄 (35)
	田宮 久 (法制40)
	森本 正利 (法制40)
	國安 厚臣 (法制50)
	恩地 昭子 (50)
	大藤 武彦 (50労)
	内田 輝和 (法制70)
中原 眞行 (法制70)	
広島県	大村 一雄 (25)
	丸木 広雄 (30)
	田原 強 (35)
	時本 忠 (法制40)
	伊狩 道隆 (法制50)
宝諸 克次 (50)	
山口県	広石 留男 (25)
	山辺 薫 (30)
	中村 正夫 (35)
岡崎 三郎 (法制40)	

山口県	田村 秀夫 (法制40)
	高石 春男 (法制50)
	河野 紘 (法制70)
徳島県	植田 孫市 (25)
	杉浦 重昂 (30)
	中野 正己 (35)
	井上 鶴夫 (法制40)
	小川 正道 (法制40/50労)
	山内 福重 (法制50)
	高橋 照一 (50)
	清谷 博 (法制70)
香川県	榎 学 (法制70)
	山下 節代 (法制40)
	石田 雄士 (50労)
愛媛県	佐々木 勝 (法制70)
	真鍋 立夫 (法制70)
	植木 香 (30)
	越智 新一 (35)
	菅 正起 (法制40)
	池田 啓二 (法制50)
	越智 睦美 (50)
	板谷 静一 (50労)
高知県	石蔵 正男 (法制70)
	宇都宮信博 (法制70)
	河淵亀代栄 (25)
	小川治郎八 (30)
	雨森 弘光 (35)
福岡県	上地 豊作 (法制40)
	山中 一 (法制50)
	瀬戸島孝夫 (50)
	磯田 孝雄 (50労)
	蘭 新六 (25)
	唐川 岩造 (30)
	田中 金吾 (30)
	西村 政之 (35)
佐賀県	青 元一 (法制40)
	龍岡 巖 (法制40)
	古野 浩三 (法制50)
	田島 時治 (法制50)
	坂本 法観 (50労)
長崎県	松崎 新作 (25)
	東田 福一 (30)
	本吉 逸雄 (35)
国井 淳 (法制40)	
八並 清 (法制40)	
塚原 久夫 (25)	
黒田 文夫 (30)	

長崎県	松尾 實 (35)
	東 松男 (法制40)
	林 茂 (法制40)
	中島 保 (法制50)
	相川 久 (50)
	濱口 昭二 (50労)
	山口 薫 (法制70)
熊本県	大村 順済 (25)
	太田 授一 (30)
	丸山 衛 (35)
	尾田 保 (法制40)
	篠原 豊 (法制40)
大分県	中村 憲雄 (法制40)
	池田 節雄 (法制50)
	橋本善治郎 (法制70)
	池永 八郎 (25)
	三原 亀雄 (35)
	長野 潔 (法制40)
	内田 春光 (法制50)
宮崎県	鍵小野 昌 (法制50)
	首藤 傳明 (50)
	安部 清一 (50労)
	谷口 豊隆 (25)
	柴田 宗三 (30)
鹿児島県	新屋太九郎 (35)
	杉尾 新造 (法制40)
	原田 幸春 (法制40/50労)
	小牧 政吉 (法制50)
	中原 嘉彦 (50)
	小原 盛英 (25)
	窪田 淳 (30)
	北園 英蔵 (30)
沖縄県	田中 道芳 (35)
	内野 勝己 (法制40)
	前之園和昭 (法制50)
	久木田隼人 (法制50)
	仮谷 理孝 (50)
児玉 琢也 (50労)	
登川 明孝 (30)	
久場 良男 (法制70)	

日本鍼灸師会会長表彰者名簿

都道府県	氏名
北海道	森 正弘
北海道	洲崎 理
青森	高見 博之
青森	浪岡 貞則
青森	橋本 博明
青森	安井 要蔵
群馬	秋森 徹二
群馬	上村 正樹
群馬	須藤 健康
群馬	高橋 和夫
群馬	武田 知之
群馬	中津川敏雄
千葉	倉田 信

都道府県	氏名
東京	井坂 卓司
東京	黒河内和明
東京	小宮 秀樹
東京	藤井 伸康
東京	増田 眞彦
東京	山田 宏
神奈川	清水 慎司
神奈川	日野 博
神奈川	森下 元
新潟	遠藤 幸男
新潟	関 冲
新潟	濱田 宏幸
石川	前山 文子

都道府県	氏名
石川	光井 峰生
福井	中村 寛
長野	小野 強次
長野	山崎 米昭
静岡	小田 明弘
静岡	中小路正敬
愛知	池田 達
愛知	林 尚臣
愛知	牧 正明
三重	仲家 栄一
和歌山	中 美博
岡山	藤原 秀雄
岡山	星 智加子

都道府県	氏名
広島	濱本 達男
広島	山崎 正隆
徳島	恒石 真
徳島	西口 雅章
徳島	森本 恒男
愛媛	越智 富夫
愛媛	黒川 淳二
愛媛	高橋 正佳
沖縄	當山 雄彦
沖縄	宮嶋 裕司

日本鍼灸師会会長感謝状（役員功労）贈呈者名簿

都道府県	氏名
北海道	菅野 徳幸
北海道	野戸 厚志
北海道	長谷川治郎
北海道	森 敏郎
青森	赤坂 史樹
宮城	稲田 稔
宮城	賀川 秀眞
群馬	池田 教克
群馬	内田 伸一
群馬	岡田 和行
群馬	川名 高夫
群馬	富澤 昌樹
群馬	廣崎 智之
群馬	横尾 幸宏
埼玉	大塚 仁

都道府県	氏名
埼玉	長谷川賢司
埼玉	村上 悟
千葉	竹之下信一
千葉	中村 宏孝
千葉	埴 美三子
神奈川	喜多見俊子
富山	川上 憲作
富山	高野 喜和
富山	吉田 敬
石川	上野誠一郎
長野	工藤 恒
長野	高原 義勝
長野	宮川 昭典
長野	横矢 直之
岐阜	大坪 昌治

都道府県	氏名
岐阜	小椋 賢二
岐阜	高田 幸枝
静岡	稲穂きよみ
静岡	大橋 教正
愛知	廣畑 守
愛知	村田 守宏
愛知	山田 憲治
京都	山村 薫
兵庫	宮川 浩
岡山	赤枝 壽士
岡山	市村由美子
岡山	山口 大輔
岡山	才野 優一
岡山	福原 隆行
岡山	馬場みずほ

都道府県	氏名
広島	坂井 孝之
広島	丸木 直也
徳島	大上 勝行
徳島	篠原 新作
香川	中曾根 徹
香川	中西 慶
香川	松本 和子
愛媛	中野 誠
福岡	古賀慶之助
福岡	仲嶋 隆史
福岡	山崎 公靖
福岡	矢津田善仁
長崎	池上 功

日本鍼灸師会会長感謝状（永年功勞）贈呈者名簿

都道府県	氏名
北海道	石黒 勉
北海道	大島 勝法
北海道	大野 法子
北海道	岸田 正幸
北海道	近谷 忠儀
北海道	佐藤 大一
北海道	鈴木 俊和
北海道	田中 嘉弘
北海道	谷 史青山
北海道	塚本 正則
北海道	中川 晋
北海道	永原 泰枝
北海道	服部 光幸
北海道	福家 重俊
北海道	辨野 博之
北海道	森 和彦
北海道	吉田 朝嗣
青森	石井 渉
青森	鐘居 正子
青森	亀谷 広典
青森	若松 祥子
宮城	相原 哲
宮城	阿部千代人
宮城	小條 智久
宮城	小金澤良一
宮城	桜井 一明
宮城	引地たえ子
宮城	吉岡 章
宮城	吉田 保
山形	井上ほなみ
茨城	秋山 欣一
茨城	後藤 啓文
茨城	広瀬 健一
茨城	松岡 純子

都道府県	氏名
群馬	白田 豊
群馬	澤崎 誠剛
群馬	竹下 謙
群馬	富澤 雅博
群馬	野村 及一
群馬	長谷川光雄
群馬	山村 宣章
埼玉	石川 晶久
埼玉	岩田 祐兒
埼玉	河合 明夫
埼玉	齋藤 忠正
埼玉	宮川 浩也
千葉	五十嵐辰雄
千葉	石垣 忍
千葉	石田とく子
千葉	石田 裕
千葉	海老原行雄
千葉	遠藤 茂美
千葉	角野 瑩子
千葉	込谷 茂代
千葉	菅原 実
千葉	大學 慈聖
千葉	村井 増巳
千葉	安井 壽和
東京	新井 三信
東京	安藤 福子
東京	石井 顯宏
東京	石井 良昭
東京	伊藤 浩明
東京	大野 忠利
東京	岡部さきえ
東京	片山 正行
東京	金子 雄二
東京	金丸 猛夫

都道府県	氏名
東京	河村 行弘
東京	國重 良子
東京	元 栄美
東京	小坂井英行
東京	小林 達哉
東京	小林 秀年
東京	小松 秀人
東京	沢田 寛
東京	鈴木 克彰
東京	鈴木 靖雄
東京	高橋 勉
東京	長岡 栄子
東京	新国 豊
東京	畑 彰浩
東京	花島 孝夫
東京	林 久嗣
東京	廣瀬 八朗
東京	広橋 清行
東京	藤井 徳治
東京	前田 憲幸
東京	松浦 容子
東京	松村 茂
東京	宮城 敏洋
東京	元吉 正幸
東京	森田 容子
東京	山内 善弘
東京	山本 勝
東京	吉川 正守
東京	吉濱イヨ子
神奈川	松原 次良
新潟	原 恒二
石川	宇野 幸治
石川	錦川 孝彦
石川	宮野健二郎

都道府県	氏名
石川	村田 淳一
長野	新井 賀子
長野	荒井 信雄
長野	有賀 満
長野	安藤千恵子
長野	安藤 典夫
長野	石曾根一雄
長野	伊藤 和夫
長野	遠藤 邦夫
長野	大西 竜巳
長野	奥村 幸志
長野	春日 康造
長野	上條 直樹
長野	郷津 好正
長野	関 俊幸
長野	千葉みどり
長野	永登 隆信
長野	平林 伸男
長野	福島たつひさ
長野	古田 明
長野	堀込 雅彦
長野	吉池 弘明
岐阜	大嶋 春道
岐阜	土屋 克巳
岐阜	細中 奏住
愛知	長岡 亨
三重	柴田 佳幸
三重	高畑 和弘
三重	坪田 信司
三重	山崎 俊博
京都	井上 智司
京都	上杉 倅
京都	菊池 暁子
京都	妹尾 真澄

都道府県	氏名
京都	谷口 弘
京都	田村佐多子
京都	鳥部 佳男
京都	中村 一徳
京都	櫃ノ上向陽美
京都	南野 哲郎
兵庫	梶 重夫
兵庫	小西 幹夫
兵庫	島本 高維
兵庫	田中 房代
兵庫	玉川 徹
兵庫	松下 好伸
兵庫	山本 貴子
岡山	尾家 忠士
岡山	大町 成人
岡山	大町 晴夫
岡山	川野由倫子
岡山	倉林 譲
岡山	定廣 隆司
岡山	鈴木 理博
岡山	武田 章
岡山	手島 敬

都道府県	氏名
岡山	時實 宏
岡山	仲 仁志
岡山	難波 行孝
岡山	西 研造
岡山	野上 直樹
岡山	服部 正
岡山	福原 肇
岡山	福森 和明
岡山	藤岡 良平
岡山	本田 泰弘
岡山	松浦 浩市
岡山	水島 孝一
岡山	山本 利一
岡山	横井 幸子
岡山	吉武 清志
広島	牛尾 雄二
広島	崎山 隆晴
広島	佐藤 郁雄
広島	東屋 隆三
広島	藤本 晃
広島	細島 敏夫
広島	前田 博美

都道府県	氏名
広島	松浦 浩明
広島	村岡 信弘
広島	安国 雅信
広島	矢野 長子
徳島	山口 敦子
愛媛	朝倉 正義
愛媛	池内 公昭
愛媛	池田 正一
愛媛	大原 聖司
愛媛	越智 茂
愛媛	菅 敏雄
愛媛	栗谷川好一
愛媛	近藤 隆夫
愛媛	佐伯 修三
愛媛	坂上 藤正
愛媛	芝田 光志
愛媛	清水 文郎
愛媛	城本 聡
愛媛	高橋 功
愛媛	坪田 剛
愛媛	日浅 俊治
愛媛	日野 義勝

都道府県	氏名
愛媛	藤井 千恵
愛媛	藤原 一知
愛媛	星野 通康
愛媛	溝田 光治
愛媛	宮川 繁清
愛媛	村上 陽一
愛媛	森松 紀彦
愛媛	山首 秀行
愛媛	吉金 孝幸
愛媛	吉田 幸継
愛媛	吉武 哲男
愛媛	渡部 一雄
長崎	伊藤 俊一
長崎	大津 照久
長崎	大野 治義
長崎	音成 安彦
長崎	川上 恵治
長崎	古賀 信一
長崎	白川 広
長崎	濱口 昌三
長崎	松尾 卓事
長崎	吉田 和江

全国師会と師会長一覧

2021年1月1日現在

北海道師会長	稲垣 吉一	青森県師会長	橋本 博明
岩手県師会長	戸崎 幸治	宮城県師会長	稲井 一吉
秋田県師会長	菊池 直人	山形県師会長	奥山 千晴
福島県師会長	三瓶 真一	茨城県師会長	大高 達雄
栃木県師会長	高秀 善幸	群馬県師会長	田中 一行
埼玉県師会長	河原 保裕	千葉県師会長	倉田 信
東京都師会長	高田 常雄	神奈川県師会長	清水 慎司
新潟県師会長	中澤 義則	富山県師会長	宮西 和男
石川県師会長	定池 寿	福井県師会長	中村 寛
山梨県師会長	深澤 栄一	長野県師会長	安田 政寛
岐阜県師会長	藤吉 徳孝	静岡県師会長	大橋 教正
愛知県師会長	長谷川栄一	愛知県師会長	吉崎 和樹
三重県師会長	一見 隆彦	滋賀県師会長	飯塚 季也
京都府師会長	森岡 正和	大阪府師会長	得本 誠
兵庫県師会長	森口 一也	奈良県師会長	石田 善紀
和歌山県師会長	萩野 利赴	鳥取県師会長	西川 徳彦
島根県師会長	奈義良和真	岡山県師会長	内田 輝和
広島県師会長	岡田静治郎	山口県師会長	平瀬 則浩
徳島県師会長	篠原 新作	香川県師会長	佐々木 勝
愛媛県師会長	宇都宮信博	高知県師会長	国澤 光陽
福岡県師会長	古賀慶之助	佐賀県師会長	江口 雅昭
長崎県師会長	諸岡 辰巳	熊本県師会長	高橋 武良
大分県師会長	梅木 龍男	宮崎県師会長	杉田 智俊
鹿児島県師会長	和田 洋文	沖縄県師会長	伊禮 隆一

2022年1月1日（予定）

北海道師会長	菅野 徳幸	青森県師会長	橋本 博明
岩手県師会長	戸崎 幸治	宮城県師会長	稲井 一吉
秋田県師会長	菊池 直人	山形県師会長	奥山 千晴
福島県師会長	三瓶 真一	茨城県師会長	大高 達雄
栃木県師会長	高秀 善幸	群馬県師会長	田中 一行
埼玉県師会長	河原 保裕	千葉県師会長	倉田 信
東京都師会長	高田 常雄	神奈川県師会長	清水 慎司
新潟県師会長	中澤 義則	富山県師会長	宮西 和男
石川県師会長	定池 寿	福井県師会長	中村 寛
山梨県師会長	深澤 栄一	長野県師会長	安田 政寛
岐阜県師会長	藤吉 徳孝	静岡県師会長	大橋 教正
愛知県師会長	長谷川栄一	愛知県師会長	吉崎 和樹
三重県師会長	岡田 賢	滋賀県師会長	飯塚 季也
京都府師会長	森岡 正和	大阪府師会長	得本 誠
兵庫県師会長	森口 一也	奈良県師会長	門野 章
和歌山県師会長	中野 正得	鳥取県師会長	西川 徳彦
島根県師会長	奈義良和真	岡山県師会長	内田 輝和
広島県師会長	岡田静治郎	山口県師会長	河野 素道
徳島県師会長	篠原 新作	香川県師会長	中曾根 徹
愛媛県師会長	永易賢一郎	高知県師会長	国澤 光陽
福岡県師会長	古賀慶之助	佐賀県師会長	江口 雅昭
長崎県師会長	諸岡 辰巳	熊本県師会長	草川 正規
大分県師会長	麻生 洋子	宮崎県師会長	杉田 智俊
鹿児島県師会長	和田 洋文	沖縄県師会長	伊禮 隆一

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

1948年 (昭和23年)

- 1月1日 法律第217号施行 鍼灸師の身分確立
- 7月30日 鍼灸師の療養費による健康保険取扱い一部始まる

1949年 (昭和24年)

- 10月1日 厚生省中央諮問委員会に業界代表を加う

1950年 (昭和25年)

- 1月19日 保発第4号 医療保険の団体契約禁止同意書の添付を支給要件とする
- 9月17～18日 全国鍼灸懇談会 (日鍼会仮結成) 於大阪久本寺
- 11月30日 日本鍼灸師会結成大会 (創立総会) 会長 樋口鍼之助氏 於参議院会館

1951年 (昭和26年)

- 3月25日 日本鍼灸師会会報創刊
- 3月30日 昭和26年度日本鍼灸師会定期総会 於衆議院第一議員会館
- 5月10日 社団法人許可
- 10月20～21日 日本鍼灸治療学会発足 第1回治療学会を開催 於慶応大学

1952年 (昭和27年)

- 1月26日 厚生省後援 日本鍼灸師会主催第1回学術講習会開講
- 3月2日 昭和27年度定期総会 樋口会長から相川勝六会長へ 於参議院会館
- 10月25～26日 第2回日本鍼灸治療学会 於大阪市立労働会館

1953年 (昭和28年)

- 2月27日 ドイツよりヘルベルト・シュミット博士鍼灸の研究で来日
- 3月2日 昭和28年度定期総会 於参議院会館
- 3月17日 省令改正 鍼灸二科の教育年限2年半に決まる
- 4月1日 日本鍼灸師会会報改題 日本鍼灸新報発行 (第1号)
- 10月25～26日 第3回日本鍼灸治療学会 於日本教育会館
- 12月25日 社団法人日本鍼灸師会の門標作成・ポスター配布

1954年 (昭和29年)

- 4月5日 昭和29年度定期総会 於衆議院第一議員会館
- 10月30～31日 第4回日本鍼灸治療学会 於名古屋葉業会館

1955年 (昭和30年)

- 4月4日 昭和30年度定期総会 相川会長から花田傳会長へ 於日本教育会館
- 4月3～5日 第5回日本鍼灸治療学会 於日本教育会館
- 5月14～17日 国際鍼学会パリ大会 ピカソと鍼が話題
- 7月30日 法律改正 31年1月1日から217号に指圧を加える

1956年 (昭和31年)

- 3月10日 日本鍼灸師会立日本中央鍼灸専門学校落成並びに開校記念式典開催
- 3月11日 昭和31年度定期総会 於日本中央鍼灸専門学校
- 8月14日 東大にて鍼灸に科学のメス
- 10月19～20日 第6回日本鍼灸治療学会 於信濃教育会館

1957年 (昭和32年)

- 4月13日 ストレス学説、ハンス・セリエ博士来日
- 4月16日 昭和32年度定期総会 於衆議院会館
- 7月2日 医発609号 静電気の治療は法217号違反
- 10月15～16日 第7回日本鍼灸治療学会 於熊本市鶴屋デパート
- 11月20日 医166号 無免許者に強硬な通達

1958年 (昭和33年)

- 2月25日 日本鍼灸マ保険獲得期成同盟結成
- 4月1日 昭和33年度定期総会 花田会長から岡部素道会長へ 於衆議院会館
- 8月1～17日 養成施設認定規則改正 第1回養成施設教育認定講習会
- 10月18～19日 第8回日本鍼灸治療学会 於大阪中之島中央公会堂
- 12月11日 臨時総会 日本保険鍼灸マ師会結成 於熱海市宝金荘

1959年 (昭和34年)

- 4月1日 明治鍼灸柔整専門学校に鍼灸二科2年半課程誕生
- 4月19日 昭和34年度定期総会 於九段会館
- 6月2日 花田傳氏参院選に出馬 惜敗
- 11月22～23日 伊勢湾台風により第9回日本鍼灸治療学会愛知開催を中止し東京上智大学に変更・開催

1960年 (昭和35年)

- 1月27日 最高裁判決 無資格者HS波治療行為の原判決を破棄し、仙台高裁に差し戻す
- 4月10日 昭和35年度定期総会ならびに10周年記念式典 於神宮橋会館
- 10月22～23日 第10回日本鍼灸治療学会 ヒューボッタ博士講演 於赤坂公会堂

1961年 (昭和36年)

- 2月15日 法217号の広告制限に関し最高裁は合憲と判断
- 4月13日 昭和36年度定期総会 於衆議院第二議員会館
- 5月2日 鍼灸保険取扱いについて内閣示達 全国統一料金 (甲地・乙地) 正式決定
- 9月5日 NHKTV「漢方」放映 大島良雄博士 岡部素道会長他
- 10月14～15日 第11回日本鍼灸治療学会 於富山電気ビル
- 12月16日 キム・ボンハン学説 朝鮮時報に掲載 ボンハン旋風起る

1962年 (昭和37年)

- 4月8日 昭和37年度定期総会 於花田学園
- 10月7日 全国師会会長会議

11月17～18日 第12回日本鍼灸治療学会 於大阪日本生命
中之島ビル

1963年 (昭和38年)

4月14日 昭和38年度定期総会 国際鍼灸学会開催決
る 於花田学園
8月31日 NHK教育TVに「漢方」放映 木下晴都理
事長 間中喜雄博士ほか
10月21日 臨時総会 法改正の件(仮称、鍼灸師法制定
の件) 於衆議院第三議員会館
10月23日 保発36号 鍼灸医療保険診療地域差撤廃
11月9～10日 第13回日本鍼灸治療学会 於兵庫県農業会
館

1964年 (昭和39年)

4月6日 昭和39年度定期総会 於衆議院第一議員会
館
5月9日 岡部会長・木下理事長 欧州と中国へ 鍼灸
事情の視察と国際鍼灸学会参加者の招請に出
発
9月28日 法律改正 あん摩マッサージ指圧師に改正
療術届出済者の終生営業を認む
11月14～15日 第14回日本鍼灸治療学会 於九州大学医学
部

1965年 (昭和40年)

4月4日 昭和40年度定期総会 於衆議院第一議員会
館
4月11日 第1回鍼灸まつりを開催 於浅草伝法院
6月29日 理学療法士(P.T)などスタート
10月18～20日 第1回国際鍼灸学会 第15回日本鍼灸治療学
会と共催 大成功を収める 於文化会館
国際経絡経穴委員会を開催 於東京文化会館

1966年 (昭和41年)

4月4日 昭和41年度定期総会 於衆議院第一議員会
館
6月1日 本会の鍼灸作用機転に関する研究に対し厚生
科学研究補助金が交付される
10月16～17日 第16回日本鍼灸治療学会 於福井県民会館

1967年 (昭和42年)

1月27日 日鍼会・日保会・全鍼連の三者保険小委員会
2月28日 日本鍼灸治療学会誌 学術刊行物に指定
4月6日 昭和42年度定期総会 於衆議院第一議員会
館
9月18日 保発第32号局長通達により鍼灸医療保険取
扱のうち、同意書に代えて診断書でも可
10月27～28日 第17回日本鍼灸治療学会 於静岡市公会堂

1968年 (昭和43年)

1月1日 日本鍼灸新報 100号を迎う
4月2日 むちうち症の鍼灸治療者は90%の効ありと
兵頭大阪医大教授報告
4月4日 昭和43年度定期総会 於衆議院第一議員会
館
9月18日 朝日新聞に東洋医学自動診断機紹介される
11月9～10日 第18回日本鍼灸治療学会 於大阪大学医学
部大講堂

1969年 (昭和44年)

4月8日 昭和44年度定期総会 定款改正など
於衆議院第一議員会館

5月14～18日 第2回国際鍼灸世界学会パリで開催
27ヶ国300余名出席 日本からは57名出席
発表10題
8月1日 東京高等鍼灸学校に鍼灸専科設置
9月14日 全国ブロック長会 於私学会館
10月18～19日 第19回日本鍼灸治療学会 於伊勢公会堂

1970年 (昭和45年)

4月14日 柔道整復師法公布 法217号から柔道整復師
独立
4月23日 昭和45年度定期総会 於衆議院第一議員会
館
9月17日 鍼灸マッサージ議員連盟総会開く
10月23～24日 第20回日本鍼灸治療学会 イタリア ラン
ツァ氏講演 鍼灸の学術研究 青年部発足
於東京文化会館

1971年 (昭和46年)

3月1日 沖縄県に師会誕生 日本縦断成る
4月1日 保発第28号 鍼灸の保険対象疾患は、慢性
期に至らなくとも適応となる 医師の押印は
署名でも可となる
免許証の様式大型になる
4月15日 昭和46年度定期総会 岡部会長から木下晴
都会長へバトンタッチ 於衆議院第一議員会
館
5月 はり麻酔報道全世界が驚嘆
7月15日 三団体協議会で保険対策を協議 於家の光会
館
10月23～24日 第21回日本鍼灸治療学会 於広島見真講堂
10月31日 臨時総会 於東京文化会館
12月12日 本会主催、厚生省後援の学術講習会20周年
を飾る

1972年 (昭和47年)

1月6日 新定款認可
2月28日 保発第22号 鍼灸の療養費に初めて鍼灸独
自の料金算定方式が採用される
初回加算がつく 治療回数が6ヶ月65回に延
長される
1術 200円(初回のみ 350円)
2術 300円(初回のみ 450円)
4月18日 昭和47年度定期総会 於衆議院第一議員会
館
6月1日 会員名簿発行
8月1日 信用保証協会の対象に鍼灸を指定
11月11～12日 第22回日本鍼灸治療学会 於神戸市立御影
公会堂

1973年 (昭和48年)

1月1日 鍼灸の老人医療保険取扱い開始
4月1日 鍼灸治療を生活保護法に適用実現
4月8日 昭和48年度通常総会 相川名誉会長を表彰
於衆議院第一議員会館
6月1日 鍼灸単行法について陳情
8月13日 医療金融公庫の貸付対象実る
9月11日 日鍼会青年ら中華人民共和国を訪問
10月3日 本会元会長 名誉会長 衆議院議員の相川勝
六先生ご逝去
10月20～21日 第23回日本鍼灸治療学会 於信州ロイヤル
ホテル
11月4日 全国保険部長会 大阪 於中小企業センター
11月16日 大正海上火災保険株式会社が申請していた鍼
灸師賠償責任保険を大蔵省が認可

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

1974年 (昭和49年)

- 2月1日 鍼灸師賠償責任保険取扱い開始
- 2月28日 保険発第29号 鍼灸の療養費改正 倍額に
1術 400円 (初回のみ 700円)
2術 600円 (初回のみ 1,900円)
- 4月15日 昭和49年度通常総会 丸茂参議院議員の公約発表、同意書の省略、一般医療と鍼灸治療の併用
知事との団体協定 於衆議院第一議員会館
東洋医学総合研究所竣工
- 4月20日 保険取扱い強化のため全国の師会に組織の確立を傳達
- 8月18日 全国広報普及部長会 於愛知県勤労会館
- 9月23日 経絡・経穴国際協定委員会 於東京文化会館
- 10月18～19日 第24回日本鍼灸治療学会 於いわき市公会堂
- 10月29日 生活保護法による医療扶助一部改正
- 11月1日 保険発第124号 鍼灸の療養費再度改正
1術 550円 (初回のみ 850円)
2術 850円 (初回のみ 1,150円)
- 12月1日 臨時総会 於家の光会館

1975年 (昭和50年)

- 1月13日 新事務所開設 東京都台東区根岸
- 2月16～25日 第4回国際鍼灸世界学会 アメリカ・ネバダで開催、参加17ヶ国 参加者700名、日本より115名出席 発表17題
- 5月17日 社団法人日本鍼灸師会創立25周年記念式典 挙行 厚生大臣・会長表彰 於番町済済会館
- 5月18日 昭和50年度通常総会 於家の光会館
- 7月11日 学校教育法の一部改正 法律第59号 鍼灸学校は専修学校となり高卒者を対象とするものは専門課程となる
- 10月12～13日 第25回日本鍼灸治療学会 於万国博ホール
- 11月6～18日 第1次日鍼会訪中団 団長・木下会長 医学交流を深め中華医学会と経穴の部位を打合せ
- 12月7日 日本保険鍼灸マッサージ師連盟設立総会 会長・木下晴都氏 於薬業会館

1976年 (昭和51年)

- 4月1日 日本学校安全会と本会が鍼灸の適用について交換公文で実施
- 4月30日 保険発第35号 鍼灸の療養費改正
1術 700円 (初回のみ 1,050円)
2術 1,050円 (初回のみ 1,400円)
- 5月5日 日本経穴委員会、8団体出席で運営を協議
- 5月17日 昭和51年度通常総会 会館建設決定 国際学会の開催決定 於衆議院第一議員会館
- 6月 柔道整復師会の非会員が厚生省に行政的不合理を抗議
- 8月8日 全国師会会長会 会館建設 国際学会 福島参議院議員候補の応援
- 10月 日盲連が厚生省に健保の単独協定を陳情
- 10月2～3日 第26回日本鍼灸治療学会 於名古屋市公会堂
- 10月26日 議員連盟 床次会長から安井会長へ
- 12月19日 厚生省後援 学術講習会25周年式典 於家の光会館

1977年 (昭和52年)

- 1月30日 日本保険鍼灸マ師連盟総会 中央委員会に日盲連加わる
- 3月13日 全国師会会長会 組織再編、会館建設 於都市センター
- 5月16日 昭和52年度通常総会 於参議院会館
- 6月12日 会館建設の地鎮祭

- 7月9日 常任理事会においてHB抗原対策としてオートクレーブの普及を決定
- 10月22～25日 第5回国際鍼灸世界大会 第27回日本鍼灸治療学会共催 木下晴都会長 参加32か国 参加者1,600名 (国内1,250名、外国350名) 講演題数130題 於日本都市センター
- 12月26日 日本鍼灸会館上棟式

1978年 (昭和53年)

- 3月1日 保険発第18号 鍼灸の療養費改正
1術 800円 (初回のみ 1,200円)
2術 1,200円 (初回のみ 1,600円)
- 3月31日 日保連総会 於都市センター
- 4月24日 明治鍼灸短期大学の開学式
- 5月20日 日本鍼灸会館竣工式
- 5月21日 昭和53年度通常総会 於日本鍼灸会館
- 10月10日 日本経穴委員会専門委員会
- 10月14～15日 第28回日本鍼灸治療学会 於鹿児島県文化センター
- 11月21日 スモン病の鍼灸治療を認める通達出る 電気針も認められる
- 12月3日 全国師会会長会 於日本鍼灸会館

1979年 (昭和54年)

- 4月30日 日保連総会 於家の光会館
- 5月21日 昭和54年度通常総会 鍼灸とマの共学増反対、類似法人設立の反対
- 6月1～5日 全国針灸針麻術討論会 北京市 木下会長以下13名招かれる
- 6月18～22日 第6回国際鍼灸世界学会 於パリ 参加54か国 1,100名参加 講演124題 日本の参加150名 講演13題 東洋と欧州の学会合併 初代会長に木下晴都氏決定
- 10月12日 療術制度化反対の請願を衆・参両院議長に提出
- 10月27～28日 第29回日本鍼灸治療学会 於松山市民会館
- 11月1～19日 中医研究院 王雪苔団長以下5名の視察団初めて来日、関東・東海・関西を視察講演し医学交流を進める
- 11月18日 全国保険部長、青年部委員会合同会議 於名古屋市
- 12月16日 全国師会会長会 組織強化(会員増強) 参議院選挙対策
- 12月22日 厚生省より健保の団体協定に関し「鍼灸について」の資料提出の第1次内示が出される

1980年 (昭和55年)

- 1月23日 第37回自民党大会において日鍼会は特別感謝状を受ける
- 2月1日 中沢日鍼会事務局長急逝により高藤保之助氏が就任
- 2月3日 日保連全国代表者会議 於家の光会館
- 3月20日 第1回身分制度懇談会 全国東洋医学学校協会
- 3月21日 愛知県鍼灸師会法人許可
- 4月1日 全日本鍼灸学会法人許可
- 4月29日 北海道鍼灸師会法人許可
- 5月9日 療養費の支払いに関する鍼灸の団体協定について厚生省より第2次内示が出される
- 5月11日 昭和55年度通常代議員会 於家の光会館
- 5月12日 昭和55年度通常総会、創立30周年記念式典 厚生大臣・会長表彰 於ホテルパシフィック
- 6月1日 日保連通常総会
- 7月11日 第5回全鍼連法人化問題に関して野呂厚生大臣のもとに3団体で協議 業団再編成の基本路線を決定 理事定数を他団体乗入理事含め29名に改正

7月19～20日 日鍼会青年部の10周年記念（全国集会第18回学術フォーラム 於東京サンシャイン）
 8月9日 群馬県鍼灸師会法人許可
 9月23日 日鍼会臨時代議員会、臨時総会。全鍼連法人化、定款変更等を審議
 10月18～19日 第30回日本鍼灸治療学会開催 次回より全日本鍼灸学会と改称 於大阪市立労働会館

1981年（昭和56年）

1月21日 全鍼連法人化許可
 3月10日 明治鍼灸短期大学で第1回卒業式 卒業者99名
 3月21日 WHO西太平洋地域事務局長中嶋宏氏と会合 経絡経穴の国際統一協議
 4月1日 三重県鍼灸師会法人許可
 4月4日 鳥取県鍼灸師会法人許可
 4月13日 福島県鍼灸師会法人許可
 5月3日 昭和56年度通常代議員会
 5月4日 昭和56年度通常総会 於日本教育会館
 5月23～24日 第31回（合併第1回）社団法人全日本鍼灸学会 於名古屋
 5月31日 日保連通常総会 於日本都市センター
 6月9日 鍼灸マッサージ振興議員連盟の世話人会 鍼灸の療養費改訂の審議 於自民党本部
 6月26日 沖縄県鍼灸師会法人許可
 7月1日 保発第49号 鍼灸の療養費改正
 1術 900円（初回のみ 1,300円）
 2術 1,300円（初回のみ 1,750円）
 7月25～26日 第20回日鍼会青年部全国集会 於ホテルいつくしま（広島）
 7月28日 山形県鍼灸師会法人許可
 8月9日 九州地区合同再編成協議会
 8月10日 中国四国地区合同再編成協議会
 8月25～26日 第2回日中経絡経穴会議 WHOの要請により北京市で開催。木下会長、坂本昭和大教授出席
 9月15日 近畿東海地区合同再編協議会
 9月23日 関東甲信越地区合同再編協議会
 10月10日 東北・北海道地区合同再編協議会
 10月18日 関東ブロック浦和市にて保険指導者連絡協議会
 10月20～24日 第7回国際鍼灸世界学会 コロンボ市バンダラナイケ国際会議場
 11月22～23日 第3回鍼灸臨床研修指導者講習会
 12月13日 本会主催 厚生省後援の学術講習会30周年記念式典
 12月20日 全国師会会長 全国の鍼灸師会の法人化が急務

1982年（昭和57年）

2月11日 日マ会創立総会
 4月1日 宮城・石川両県鍼灸師会法人許可
 5月1日 徳島県鍼灸師会法人許可
 5月4日 広島・山口両県鍼灸師会法人許可
 5月9日 昭和57年度通常代議員会
 5月10日 昭和57年度通常総会 於衆議院議員会館
 5月16日 日保連総会
 6月5～6日 第32回全日本鍼灸学会 於福井市文化会館
 6月17日 富山県鍼灸師会法人許可
 6月30日 新潟県鍼灸師会法人許可
 7月1日 鍼灸の労災保険協定実施
 7月2日 福井県鍼灸師会法人許可
 7月23日 本会顧問丸茂重貞参議院議員ご逝去
 8月17日 老人保健法公布
 9月16～17日 日鍼会中部ブロック会議
 9月30日 岐阜県鍼灸師会法人許可

11月8日 NHKテレビウルトラアイにはり・きゅう番組登場
 12月9日 花田傳元日鍼会会長ご逝去
 12月14～20日 第1回鍼用語標準化に関するWHO西太平洋地域ワーキンググループ会議 於WHOマニラ支局

1983年（昭和58年）

1月28日 鍼灸老人保健医療における再度の同意書添付不要の通達（衛老保第6号）
 2月1日 老人保健法の取扱い実施 3ヶ月後の同意書簡素化する
 3月1日 大分県鍼灸師会法人許可
 4月27日 明治鍼灸大学開校第1回入学式
 5月8～9日 昭和58年度通常代議員会及び総会 木下会長から小川晴通会長へ 於全共連ビル
 5月29日 日保連総会 於薬業健保会館
 6月3～5日 第33回全日本鍼灸学会 於神戸国際会議場
 6月20日 第13回参議院議員選挙 本会推薦大浜方栄氏当選
 7月23～24日 九州ブロック代表者会議
 8月27日 東北ブロック協議会
 9月3～4日 関東ブロック協議会
 10月2日 全国師会会長 宮城県鍼灸師会法人許可
 11月1日 保発第87号 鍼灸の療養費改正 また電気針と電気温灸器を使用した場合の料金が認められる
 1術 900円（初回のみ 1,300円）
 2術 1,300円（初回のみ 1,750円）
 電気針又は電気温灸器使用の場合にあつては
 1術 920円（初回のみ 1,320円）
 2術 1,320円（初回のみ 1,770円）
 1術、2術とも電気針又は電気温灸器を使用した場合は1回につきそれぞれ20円を加算

1984年（昭和59年）

1月26日 自由民主党中曽根総裁より特別感謝状を受ける 第43回自民党大会
 2月26日 全国師会会長会議
 3月25日 健保対策特別委員会を設置
 5月5～6日 昭和59年度通常代議員会及び通常総会 於日本都市センター
 5月28～31日 鍼用語標準化に関するWHO西太平洋地域諮問会議 於東京・笹川記念館
 6月1～3日 第34回全日本鍼灸学会 於京都府会館、明治鍼灸大学他
 6月10日 日保連総会 日保連解散
 6月30日 日鍼会保険部幹事会、指導部会合同会議 於山中温泉
 7月14日 第1回法制特別委員会
 7月31日 日保連精算委員会と団体協議会
 8月7日 第2回中国針灸針麻学術討論会 中国・北京長城飯店
 9月1日 保発第73号 鍼灸の療養費改正
 1術 925円（初回のみ 1,335円）
 2術 1,335円（初回のみ 1,800円）
 電気針又は電気温灸器使用の場合にあつては
 1術 945円（初回のみ 1,355円）
 2術 1,355円（初回のみ 1,820円）
 9月15日 日鍼会中部ブロック会議 於愛知
 10月1日 第1回会員実態調査実施 新健康保険法施行本人1割負担に
 10月14日 関東ブロック協議会 於マロードイン大宮
 11月3～4日 日鍼会近畿ブロック会議
 11月13日 NHK・TVクローズアップ「針の効果をとらえる」放映
 11月25日 全国保険指導者研修会
 12月16日 全国師会会長会議

1985年 (昭和60年)

1月21日 職業別電話帳の鍼灸とマッサージ等の分離掲載に決定

2月21日 鍼灸関係議員懇談会 於自由民主党本部

3月17日 科学万博開催 つくば万博会場。鍼灸、政府テーマ館B棟に展示 (9月16日まで)

3月31日 全国師会長会議

4月1日 基発第241号 (通知) はり・きゅう師等に係わる休業証明料の改定

4月11～18日 第9回国際鍼灸世界学会 カナダ・モントリオール

4月17日 労災はり・きゅう施術特別援護措置の一部改正 基発第22号 (通知) 労災保険のアフターケア2年に

5月12日 昭和60年度通常代議員会 資金カンパを提出して同意書取扱い改善運動を強力に展開することを決定
日保連解散、会費値上げ、役員改選 本会会員の方々へ弔慰金と弔電を (日鍼発10号) 於椿山荘

5月13日 昭和60年度通常総会 社団法人日本鍼灸師会35周年記念式典 於椿山荘

6月1日 保発第57号鍼灸の療養費改正
1術 950円 (初回のみ 1,370円)
2術 1,370円 (初回のみ 1,850円)
電気針又は電気温灸器使用の場合にあっては
1術 970円 (初回のみ 1,390円)
2術 1,390円 (初回のみ 1,870円)

6月7～9日 第35回全日本鍼灸学会 於岡山市プラザホテル

7月16～21日 第2回鍼用語標準化に関するWHO西太平洋地域ワーキンググループ会議 於香港・ホテルプラザ

7月20～21日 全国保険部長研修会 於日本鍼灸会館

7月20日 中部ブロック会議 於松本市

7月20～21日 九州ブロック会議 於宮崎市

7月27日 第4回健保対策特別委員会 於日本鍼灸会館

8月24～25日 北陸ブロック会議 芦原

9月2日 北海道ブロック臨床研伝達講習会 於北大医学部

9月7～8日 東北ブロック会議 松島 於大観荘

9月8日 関東ブロック協議会 於伊香保

9月22～23日 北陸ブロック臨床研伝達講習会 於福井県民ホール

9月22～23日 九州ブロック臨床研伝達講習会 於福岡市保険鍼灸会館

10月5日 科学技術振興調整費による研究成果 証・経穴の科学的実証等に関する研究シンポジウム 於北里ホール

10月21～22日 近畿ブロック臨床研伝達講習会 於大阪鍼灸専門学校

10月26～27日 中国・四国ブロック臨床研伝達講習会 於広島市白鳥会館

11月1～2日 中部ブロック臨床研伝達講習会 於諏訪ハイツ

11月3日 東北ブロック臨床研伝達講習会 於仙台市チサンホテル

11月10日 関東ブロック臨床研伝達講習会 於東京医療学園

11月24日 普及部長及び担当者会議 於日本鍼灸会館

12月16日 全国師会長会議、斎藤先生 同意書改善の見通しについて説明 於日本鍼灸会館

1986年 (昭和61年)

2月7日 AIDSの予防対策の周知徹底を指導 厚生省

2月9日 関東ブロック臨床研伝達講習会 於日本鍼灸会館

2月23日 中国・四国ブロック会議 於広島市白鳥会館

2月23日 近畿ブロック会議 於大阪府鍼灸会館

4月21日 保発第37号 同意書の様式化と老人保健と同様の3ヶ月経過後の同意書の簡素化が実現 施術の円滑な実施を図るためという行政の考え方がはじめて通達の中に明示される (5月1日実施)

4月23～24日 第36回全日本鍼灸学会 於横浜県民ホール

5月11～12日 昭和61年度通常代議員会及び通常総会 衆参両議員選挙応援、理事補欠選挙他 於全共連ビル

6月6日 保発第83号 7月1日から鍼灸の療養費改正
1術 960円 (初回のみ 1,380円)
2術 1,380円 (初回のみ 1,860円)
電気針又は電気温灸器使用の場合にあっては
1術 980円 (初回のみ 1,400円)
2術 1,400円 (初回のみ 1,880円)

7月6日 健保取扱指導者講習会 於日本鍼灸会館

7月19～20日 北陸ブロック会議 魚津市 於金太郎温泉

7月20日 九州ブロック代表者会議 鹿児島市 於中原別荘

8月9日 本会監事 三木健次氏死去 享年70才

9月6～7日 東北ブロック会議 於郡山市磐梯グランドホテル

9月6～7日 関東ブロック会議 横浜市勤労福祉会館

10月1日 はり・きゅうの労災保険給付コンピュータ導入 専用新様式にて実施

11月15～16日 中部ブロック会議

12月7日 全国師会長会議 於日本鍼灸会館

12月14日 本会主催 厚生省後援 学術講習会35周年記念式典 於日本鍼灸会館

1987年 (昭和62年)

2月10日 日鍼会 鍼の滅菌消毒等について全国の師会に指示

2月15日 近畿ブロック健保実務特別研修会

2月26日 厚生省 鍼灸におけるAIDSの感染の予防について

3月10日 明治鍼灸大学第1回卒業式

4月1日 日鍼会倫理綱領制定 日本鍼灸新報 300号

5月10～11日 昭和62年度通常代議員会及び通常総会 於椿山荘

5月20日 鍼灸教育の改善 法律一部改正を陳情

6月5～7日 第37回全日本鍼灸学会学術大会 於福岡電気ホール

6月21日 明治鍼灸大学付属病院 竣工・祝賀会

6月25～30日 第3回鍼用語標準化に関するWHO西太平洋地域ワーキンググループ会議 於ソウル・ロッテホテル

7月4～5日 東北ブロック 健保実務特別研修会

7月18～19日 第24回日鍼会青年部 全国集会 於金沢

8月1～2日 九州ブロック会議 於熊本県玉名市

8月9日 あはき法改正に関する関係団体打合せ経過 中卒は廃止 高卒3年 各団体基本的に合意

8月19日 厚生省、医療機関のB型肝炎感染防止推進について指示

8月30日 関東ブロック会議 東京 於日本鍼灸会館

9月13日 全国保険部長 実務研修会 於日本鍼灸会館

9月25日 腰痛にハりは逆効果か 石田教授に抗議

10月10～12日 第7期鍼灸臨床研修指導者講習会 前期 於日本鍼灸会館

10月18日 全国普及部長会 於日本鍼灸会館

11月1～3日 第7期鍼灸臨床研修指導者講習会 後期 於日本鍼灸会館

11月7～8日 中国・四国ブロック会議 広島 於白鳥会館

11月22～26日 世界鍼灸学会連合会 (WFAS) 設立第1回学術大会開催 於北京

11月23～24日 健保推進指導講師特別研修会議 於金沢
 12月6日 全国師会会長会議 於日本鍼灸会館
 12月16日 業団 法律第217号一部改正に合意
 高卒3年以上 厚生大臣免許へ始動

1988年 (昭和63年)

3月9日 あはぎ法改正で議員懇談会開催 業界7団体統一陳情
 3月27日 保険部指導講師研修会議 於日本鍼灸会館
 5月23日 昭和63年度通常代議員会及び通常総会 於椿山荘
 5月31日 はり師、きゅう師等に関する法律改正(法律第71号) 厚生大臣免許に
 6月3～5日 第38回全日本鍼灸学会学術大会 東京 於日本青年館
 6月6日 保発第75号 7月1日から鍼灸の療養費初回のみ改正
 1術 960円(初回のみ 1,600円)
 2術 1,380円(初回のみ 2,080円)
 電気針又は電気温灸器使用の場合にあつては
 1術 980円(初回のみ 1,620円)
 2術 1,400円(初回のみ 2,080円)
 財団設立の7団体の合意成る(覚え書き締結)
 7月14日 保発第89号 保険発第76号通知によって柔道整復師施術の療養費に個人受領委任を認める
 7月23～24日 北陸ブロック会議 於石川県
 7月24日 近畿ブロック会議 於大阪府
 8月12日 和歌山県鍼灸師会法人化
 8月26日 会員へのB型肝炎の予防接種について各師会に指示
 8月28日 関東ブロック会議 於茨城県古河市民会館
 9月23～25日 第8期鍼灸臨床研修指導者講習会 前期 於日本鍼灸会館
 10月9～11日 第8期鍼灸臨床研修指導者講習会 後期 於日本鍼灸会館
 10月20日 スポーツ傷害キャンペーンポスター配布
 12月3日 全国師会会長会議 於日本鍼灸会館
 12月7日 法律制定40周年を記念、業界功労者厚生大臣表彰 祝辞 厚生大臣、全日本鍼灸学会々長、40年のあゆみ はり・きゅう等の功労者表彰 95名 於東京会館

1989年 (平成元年)

2月13日 厚生省保険局医療課編 療養費支給基準「鍼灸の項」改正
 3月22日 消費税の導入に伴う給付等に関する留意事項について
 5月13～14日 平成元年度通常代議員会及び通常総会 於椿山荘 財団設立、臨床研修、健保促進、福利共済、役員改選
 6月2～4日 第39回全日本鍼灸学会学術大会 於石川・金沢観光会館
 7月1～2日 東北ブロック会議 於宮城県
 7月15～16日 九州ブロック会議 於長崎県
 7月22日 北陸ブロック会議 於福井県
 7月23日 第15回参議院議員選挙 本会推薦 大浜方栄先生当選
 8月5日 平成元年度第1回健保対策特別委員会
 8月20日 全国保険部長会議 東日本
 9月4日 保険発第85号(通知) はり・きゅう等の施術に係わる医師の同意書に代える診断書の改善の通知が出される
 9月9～10日 第26回組織部青年部会全国集会 於岡山
 9月15～17日 第9期鍼灸臨床研修指導者講習会 前期 於日本鍼灸会館
 9月16日 鍼灸健保専門委員会 於大阪市東洋ホテル
 9月17日 全国保険部長会議 西日本 於大阪府鍼灸会館

9月29日 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律の一部を「政省令」・文部省・厚生省令第4号
 9月23日 北海道ブロック会議
 10月3～5日 鍼用語標準化に関するWHO学術会議ジュネーブで開催
 10月8～10日 第9期鍼灸臨床研修指導者講習会 後期 於日本鍼灸会館
 10月21～22日 近畿ブロック会議 於東大阪市
 中部ブロック会議 於犬山市
 日本鍼灸師会共済制度発足
 関東ブロック会議 於千葉県
 全国師会会長会議
 11月1日 東洋療法研修試験財団設立発起人委員会
 11月18日
 12月3日
 12月27日

1990年 (平成2年)

3月28日 東洋療法研修試験財団設立許可
 4月1日 はり師・きゅう師等に関する法律(法律第71号) 施行
 5月13日 平成2年度通常代議員会及び通常総会 小川会長から谷口健藏会長へ 於椿山荘
 5月14日 日本鍼灸師会創立40周年記念式典 会長表彰
 5月23日 保発第47号 6月1日から鍼灸の療養費改正 往療料が認められる
 電気針又は電気温灸器を使用した場合の料金も改正される
 1術 975円(初回のみ 1,600円)
 2術 1,395円(初回のみ 2,080円)
 電気針又は電気温灸器使用の場合にあつては
 1術 1,005円(初回のみ 1,630円)
 2術 1,425円(初回のみ 2,110円)
 往療料 2キロまで1,700円
 6月8～10日 第40回全日本鍼灸学会学術大会 於大阪・吹田文化会館
 8月1日 労災保険施術料金改正 初検料 1,660円
 時間外加算 650円 休日加算 1,730円
 往療料 2キロまで2,040円
 はり又はきゅう1術 2,200円
 はり・きゅう 2術 3,700円
 はり又はきゅうとマッサージを併用した場合 3,700円
 2部位以上の施術は20%加算 電気・光線の器具を使用した場合 550円を加算
 休業証明書書 1件につき 1,000円
 8月25～26日 第27回組織部青年部会全国集会(青年部結成20周年記念大会) 於京都平安会館及び明治鍼灸大学
 9月1日 厚生大臣指定講習会実施要領決まる
 11月3日 厚生大臣指定講習会全国各地でスタート
 11月22日 非A型、非B型肝炎について全国を指導
 12月2日 全国師会会長会議 厚生大臣指定講習会 健保共済制度を討議

1991年 (平成3年)

2月3日 全都道府県に厚生大臣指定講習会実施協議会設置完了
 5月10～11日 平成3年度通常代議員会及び通常総会 於椿山荘
 5月31～6月2日 第41回全日本鍼灸学会学術大会(設立10周年記念大会) 於名古屋・名古屋国際会議場
 7月20～21日 第28回組織部青年部会全国集会 於東京第一ホテル大森
 11月27日 N T T と交渉継続
 12月1日 全国師会会長会議
 12月5～8日 世界鍼灸学会連合会第2回世界鍼灸学術大会 フランス・パリ・ユネスコ宮で開催
 12月8日 厚生省後援学術講習会 40周年記念式典

1992年 (平成4年)

3月6日	地方公務員共済 (全国市町村共済、地方職員共済、警察共済、公立学校共済) の民法上の委任取扱い前進
3月27日	鍼灸等に係る健保料金改定陳情
5月2日	会員名簿発行 (付定款諸規則)
5月9～10日	平成4年度通常代議員会及び通常総会 於椿山荘
5月20日	自民党医療関係団体懇談会で健保取扱いの改善要望
5月22日	保発第57号 6月1日から鍼灸の療養費改正 1術 1,000円 (初回のみ 1,800円) 2術 1,425円 (初回のみ 2,350円) 電気針又は電気温灸器使用の場合にあっては 1術 1,030円 (初回のみ 1,830円) 2術 1,455円 (初回のみ 2,380円) 往療料 2キロまで 1,750円 2キロ増すごとに 800円加算
6月5～7日	第42回全日本鍼灸学会学術大会 於岡山
6月20日	健保対策特別委員会
6月27～28日	東北ブロック会議 第29回組織部青年部会全国集会 於長野
7月5日	学術部長会
7月18～19日	北陸ブロック会議
7月22日	認定スポーツ鍼灸師制度準備委員会
9月1日	労災保険施術料金改正 初検料 1,870円 時間外加算 650円 休日加算 1,870円 往療料 2キロまで2,400円 はり又はきゅう 1術 2,300円 はり・きゅう 2術 3,800円 はり又はきゅうとマッサージを併用した場合 3,800円 2部位以上の施術は20%加算 電気・光線の器具を使用した場合 550円を加算 休業証明書料 1件につき 2,000円
9月5日	関東ブロック会議
9月5～6日	中国・四国ブロック会議 東北ブロック学会
9月20～23日	第12回鍼灸臨床研修指導者講習会開催
9月23日	認定スポーツ鍼灸師制度準備委員会
10月10～11日	中部ブロック会議
10月11日	関東ブロック第1回日本鍼灸師会臨床鍼灸学術大会開催
10月17日	北海道ブロック会議
10月17～18日	近畿ブロック会議
10月22～24日	世界鍼灸学会国際シンポジウム (イタリア)
11月29日	全国師会長会議

1993年 (平成5年)

1月13日	4団体長会議 N T T 問題決裂 日鍼会は独自の交渉へ
2月27～28日	第1回あん摩マッサージ師匠師、はり師・きゅう師国家試験実施
3月21日	専門領域研修制度発足 (スポーツ領域研修)
5月14～15日	平成5年度通常代議員会及び通常総会 谷口会長から中村万喜男会長へ 専門領域研修制度 (スポーツ鍼灸) の実施決定 於椿山荘
6月19日	健保対策特別委員会
6月26～27日	東北ブロック会議
7月17日	九州ブロック会議
7月17～18日	第30回組織部青年部会全国集会 於宮城県仙台市
7月18日	北陸ブロック会議
8月7日	健保対策特別委員会
8月28～29日	中国・四国ブロック会議
9月1日	鍼灸マッサージ師等国民年金基金設立認可

9月12～15日	第13回鍼灸臨床研修指導者講習会
10月5日	関東ブロック会議
10月10～11日	中部ブロック会議
10月16日	北海道ブロック会議
10月16～17日	近畿ブロック会議
10月29日	療養費支給申請書様式改定通知
11月20～24日	第3回世界鍼灸学術大会 於京都国際会議場
12月5日	全国師会長会議

1994年 (平成6年)

3月3日	関係4団体健保療養費改定陳情
5月13～14日	平成6年度通常代議員会及び通常総会 於椿山荘
5月16日	厚生省後援の学術講習会のビデオ頒布を開始
5月20日	保発第50号 6月1日から鍼灸の療養費改正 1術 1,100円 (初回のみ 2,100円) 2術 1,450円 (初回のみ 2,500円) 電気針又は電気温灸器使用の場合にあっては 1術 1,130円 (初回のみ 2,130円) 2術 1,480円 (初回のみ 2,530円) 往療料 2キロまで 1,850円 2キロ増すごとに 800円加算
6月3～5日	全日本鍼灸学会学術大会 於青森
6月18日	健保対策特別委員会
7月9日	九州ブロック会議
7月16～17日	北陸ブロック会議
7月22日	4団体代表者労災施術料金改定陳情
7月30～31日	第31回組織部青年部会全国集会 於大阪市
8月6日	健保対策特別委員会
8月27～28日	中国・四国ブロック会議
9月4日	関東ブロック会議
9月15～18日	第14回鍼灸臨床研修指導者講習会
9月21日	NHK (ニュース7) にて本会の臨床研修指導者講習会の模様を放映
10月1日	労災保険施術料金改正 初検料 2,000円 時間外加算 650円 休日加算 1,870円 往療料 2キロまで2,400円 はり又はきゅう 1術 2,400円 はり・きゅう 2術 3,840円 はり又はきゅうとマッサージを併用した場合 3,840円 2部位以上の施術は20%加算 電気・光線の器具を使用した場合 550円を加算 休業証明書料 1件につき 2,000円
10月5日	医療保険審議会に柔道整復等療養費部会設置 中村会長審議会委員に
10月9～10日	中部ブロック会議
10月15日	北海道ブロック会議
10月15～16日	近畿ブロック会議
11月30日	はり・きゅう治療費 「労災保険支給命じる」 大阪高裁判決 1年限定の通達違法
12月14日	第1回柔道整復等療養費部会開催

1995年 (平成7年)

1月17日	兵庫県南部地震発生 兵庫県師会に救援
2月15日	老人医療に係る一部負担金の改定
2月22日	第2回柔道整復等療養費部会開催
5月14～15日	平成7年度通常代議員会及び通常総会 役員改選 日鍼会鍼灸臨床学術大会開催を決定 於椿山荘
5月15日	日本鍼灸師会45周年記念式典 会長表彰 於椿山荘
6月2日	第3回柔道整復等療養費部会開催
6月2～4日	全日本鍼灸学会学術大会 於広島
7月8～9日	九州ブロック会議
7月15～16日	北陸ブロック会議
7月22～23日	東北ブロック会議

7月31日 生涯研修実施要領決定（東洋療法研修試験財団）
 8月25日 日本鍼灸新報 400号
 8月26～27日 中部ブロック会議
 8月26～27日 第32回組織部青年部会全国集会 青年部九州ブロック会を結成 於鹿児島
 9月2～3日 中国・四国ブロック会議
 9月8日 第4回柔道整復等療養費部会開催 鍼灸については同意書の添付省略受領委任不可の答申
 9月14～17日 第15回鍼灸臨床研修指導者講習会
 10月14日 北海道ブロック会議
 10月14～15日 近畿ブロック会議
 12月2日 常任理事会・ブロック長会議 専門領域研修制度の第2回目として「老年医学」の研修を決定
 12月3日 全国師会長会議
 12月13日 N T T 共済民法上の委任取扱い開始

1996年（平成8年）

2月 厚生省より健保療養費用診断書の様式改正案出される
 2月1日 会員名簿発行（付定款諸規則）
 2月28日 重点事業として青年部への共済制度加入促進を図る
 3月 厚生省より健保療養費用診断書の様式改正案の一部改正案が出される
 3月1日 労災保険取扱いの一部改正 期間延長 評価表添付
 3月7日 関係4団体療養費改定厚生省医療課に陳情
 3月8日 療養費同意書交付料診療報酬点数新設（交付料100点 4月1日から実施）
 4月7日 健保対策特別委員会
 5月17日 代議員会前の理事会で厚生省より出された改正診断書案を否決
 5月17～18日 平成8年度通常代議員会及び通常総会 於椿山荘
 5月24～26日 全日本鍼灸学会学術大会 於京都
 5月24日 保発第64号 6月1日から鍼灸の療養費改正対象疾患に頸椎捻挫後遺症が加えられる 類症疾患の腰痛症等の「等」の字が削除される 頸椎捻挫後遺症の病名が加えられた新しい同意書、診断書の様式に改正される
 1術 1,150円（初回のみ 2,150円）
 2術 1,480円（初回のみ 2,530円）
 電気温灸器使用の場合にあっては
 1術 1,180円（初回のみ 2,180円）
 2術 1,510円（初回のみ 2,560円）
 往療料 2キロまで 1,900円
 2キロ増すごとに 800円加算
 5月24日 保険発第84号 同意書・診断書に頸椎捻挫後遺症が加えられた新様式が定められる「施術に係る診断書の交付を患者から医師が求められた場合は円滑に交付されるようご指導願いたい」の通知出る
 6月9日 保険部長会開催 腰痛症等の等の字が削られたことの危機感から至急対応するよう執行部に要望
 6月20日 なお、類症疾患とは、頸腕症候群、五十肩、腰痛症及び頸椎捻挫後遺症等の病名であって・・・に訂正通知が出される等が復活した
 7月1日 J T 共済の民法上の委任取扱い開始
 7月6～7日 九州ブロック会議
 7月8日 労災保険療養費支給基準改定要望（労働基準局長）
 7月13～14日 中部ブロック会議
 7月20～21日 北陸ブロック会議
 7月27～28日 東北ブロック会議
 8月1日 J R 共済の民法上の委任取扱い開始

8月3日 健保対策特別委員会
 8月24～25日 第33回組織部青年部会全国集会 於福井
 8月24～25日 中国・四国ブロック会議
 9月1日 労災保険施術料金改正
 初検料 2,100円 時間外加算 650円
 休日加算 1,870円
 往療料 2キロまで2,450円
 はり又はきゅう 1術 2,450円
 はり・きゅう 2術 3,920円
 はり又はきゅうとマッサージを併用した場合 3,920円
 2部位以上の施術は20%加算
 電気・光線の器具を使用した場合 550円を加算
 休業証明書料 1件につき 2,000円
 第16回鍼灸臨床研修指導者講習会
 9月13～16日 世界鍼灸学術大会（米・ニューヨーク）
 9月19～22日 衆議院解散
 9月27日 関東ブロック会議
 9月29日 健保対策特別委員会、法制対策特別委員会
 10月5日 近畿ブロック会議
 10月19～20日 衆議院選挙投票（小選挙区・比例代表並立）
 10月20日 北海道ブロック会議
 10月26日 第1回日本鍼灸師会臨床学術大会 於東京中央区立中央会館
 10月26～27日 全国師会長会議
 12月1日

1997年（平成9年）

1月31日 日鍼会顧問（元会長）木下晴都先生ご逝去
 2月15日 健保対策特別委員会
 2月16日 法制対策特別委員会
 5月1日 学術部 症例報告のしかた 開業鍼灸師の学会発表のために発行
 5月16～17日 平成9年度通常代議員会及び通常総会 役員改選 於椿山荘
 6月1日 組織拡充と強化のためマニュアルを組織部が作成配布
 6月28日 東北ブロック会議
 7月12～13日 九州ブロック会議
 7月20～21日 北陸ブロック会議
 7月25日 鍼灸院の感染性廃棄物の適正処理について会員を指導
 8月2～3日 第34回組織部青年部会全国集会 於広島県福山市
 8月9日 健保対策特別委員会
 8月30～31日 中部ブロック会議
 9月1日 健康保険法改正、本人1割負担から2割負担へ・老人保健法改正 老人の外来月の初めに1,200円から1回ごと500円に変更 但し月4回を限度に 自己負担金引上
 9月12～15日 第17回鍼灸臨床研修指導者講習会
 9月13～14日 中国・四国ブロック会議
 9月21日 臨時常任理事会
 10月5日 関東ブロック会議
 10月18日 近畿ブロック会議
 11月1～3日 世界鍼灸学会創立十周年記念学術大会 北京 於国際会議センター
 11月2日 日鍼会事務局長 斉藤保之助氏ご逝去
 11月6日 毎日新聞に米国国立衛生研究所（NIH）が特定の疾患（症状）に鍼灸が有効であり医療保険でカバーすべきとの合意形成声明を発表したと報道
 11月12日 関係4団体介護保険参入について国会議員に陳情
 11月20日 あはき法制定50周年記念式典、大臣表彰、記念講演、祝宴 於東京 ホテル浦島

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

12月1日 保険発第150号厚生省保険局医療課長通知
通知に示された対象疾患に対して保険局より
同意書を受けて施術を受けた場合は本要件を
満たしているものとして療養費の支給対象と
して差し支えないこと
12月7日 全国師会長会議

1998年 (平成10年)

1月14日 関係4団体介護保険サービス対象に鍼灸等参
入要望
1月20日 介護保険ケアマネジャー受験対象者に鍼灸師
参入決定
2月7日 冬季オリンピック長野大会開会 大会役員選
手等に鍼灸ボランティア活動実施
2月15日 理事会 中村会長辞任発表
3月15日 理事会 7理事辞表提出
4月1日 斉藤事務局長の後任として牟田博次氏が日鍼
会事務局長に就任
4月5日 臨時理事会 荒川副会長会長代行採択
4月12日 臨時代議員会 大多数の理事辞意表明
於日本鍼灸会館
4月20日 平成10年度役員補欠選挙告示
4月29日 臨時理事会
5月31日 平成10年度通常代議員会 於ホテルベルク
ラシック東京
6月1日 平成10年度通常総会 中村会長から井口達
也会長へ 於日本鍼灸会館
6月12日 平成10年度全役員選挙告示
6月12～14日 全日本鍼灸学会学術大会 於岐阜
6月22日 保発第87号 7月1日から鍼灸の療養費改正
1術 1,170円 (初回のみ 2,170円)
2術 1,490円 (初回のみ 2,540円)
電気針又は電気温灸器使用の場合にあっては
1術 1,200円 (初回のみ 2,200円)
2術 1,520円 (初回のみ 2,570円)
往療料 2キロまで 1,900円
2キロ増すごとに 800円加算
6月27日 東北ブロック会議
7月3日 あはき等中央審議会 (学校施設新設承認問題)
7月19日 役員選挙郵送投票、役員決定 中村会長から
井口達也会長へ
8月1日 労災保険施術料金改正
初検料 2,200円 時間外加算 650円
休日加算 1,870円
往療料 2キロまで2,450円
はり又はきゅう 1術 2,470円
はり・きゅう 2術 3,930円
はり又はきゅうとマッサージを併用した場合
3,930円
2部位以上の施術は20%加算
電気・光線の器具を使用した場合 550円を
加算
休業証明書料 1件につき 2,000円
8月27日 柔道整復養成施設不指定処分取消請求事件福
岡地裁判決 原告勝訴
8月29～30日 第35回組織部青年部会全国集会 於山梨
9月2日 前常任理事八田勲先生ご逝去
9月12～15日 第18回鍼灸臨床研修指導者講習会
10月10～11日 第2回日本鍼灸師会臨床学術大会 於大阪
10月17～18日 世界鍼灸学会連合会バルセロナシンポジウム
10月23日 鍼灸マ対策議員連盟発起人会
11月11日 介護保険4団体要望書合意
11月19日 介護保険要望書厚生省に提出
12月6日 全国師会長会議
12月16日 無資格者誇大広告制限で厚生大臣へ要望書提
出
12月22日 鍼灸マ対策議員連盟総会
12月23日 健保対策委員会

1999年 (平成11年)

1月 日本通運健保組合団体会長委任開始
2月9日 無資格マッサージ業者テレビ報映に関係7団
体テレビ朝日に抗議行動
3月14日 理事会 臨時全国師会長会議 介護保険参入
問題について 役員改選告示
3月16日 行革推進本部規制緩和委員会開催
3月25日 保険推進団体協議会保険担当者厚生省と第1
回勉強会
3月29日 あはき法の規定に基づく広告制限の緩和告示
3月30日 規制緩和推進3か年計画閣議決定 業務の独
占見直し等
5月15日 平成11年度通常代議員会 役員選挙
於ホテルベルクラシック東京
5月16日 平成11年度通常総会 於日本鍼灸会館
5月28日 弁護士岸上茂氏訪問、顧問就任要請承諾を得
る
6月6日 健保対策委員会
6月11～13日 全日本鍼灸学会学術大会 於横浜
創立50周年準備委員会
6月26～27日 九州ブロック会議
7月3日 東北ブロック会議
7月6日 会館改修終了、自動警備システム導入
7月17日 北陸ブロック会議
7月24日 日本医事新報に「診療所における鍼灸マッ
サージの開業」記事掲載
7月29日 介護保険基準厚生省通知 介護支援専門員が
作成するケアプランに鍼灸の記載が位置付け
られた
8月2日 井口会長と全鍼師会の藤井会長が、日鍼・全
鍼の2団体で同意書 (診断書) 撤廃運動を推
進すること 日本保険鍼灸師会連合会を設立
することを合意する
8月7日 創立50周年準備委員会
8月9日 あはき師の夢、未来を語る第1回シンポジウ
ム開催
8月19日 同意書 (診断書) 撤廃について厚生省と第1
回折衝
8月27日 全日本鍼灸学会丹澤会長に認定制度について
質問状送付
8月28日 日本医事新報に前記7月24日の記事訂正文を
掲載
8月28～29日 第36回組織部青年部会全国集会 於横浜
8月29日 創立50周年準備委員会
8月31日 はり・きゅうの同意書 (診断書) 撤廃運動に
ついて各県師会長宛に会長文書発信 日本保
険鍼灸師会連合会への入会手続等協力依頼
9月11～12日 中国・四国ブロック会議
9月12～15日 第19回鍼灸臨床研修指導者講習会
9月19日 関東ブロック会議
9月23日 臨時理事会 同意書 (診断書) 撤廃運動
連合会への対応、創立50周年準備委員会
近畿ブロック会議
9月25～26日 中部ブロック会議
10月10～11日 同意書 (診断書) 撤廃について厚生省と第2
回折衝
10月13日 北海道ブロック会議
10月17日 日本保険鍼灸師会連合会会則決定
10月20日 日本保険鍼灸師会連合会相談役、代表・副代
表、委員、監事決定
10月27日 全日本鍼灸学会丹澤会長より認定制度質問状
に対する回答
10月30日 会員名簿発行 (付定款諸規則)
11月1日 創立50周年準備委員会
11月21日 全国師会長会議
12月5日

2000年 (平成12年)

1月20日 日本保険鍼灸師会連合会総会が自由民主党本部101会議室で開催

1月20日 全日本鍼灸学会と認定制度について合意事項確認 あん摩、マッサージ、指圧、はり、きゅう、柔道整復等審議会開催

2月12日 健保対策委員会

2月13日 創立50周年準備委員会

3月12日 創立50周年準備委員会

3月15日 7団体会長が無資格者養成学校撤廃について厚生省に陳情

4月1日 鍼灸安全性委員会 於京都

4月16日 創立50周年準備委員会

5月14日 鍼灸祭復活 於湯島聖堂

5月18日 4団体会長が自民党関係議員と意見交換、「鍼灸マッサージを考える会」新議員連盟発足 従来の議員連盟解散される

5月22日 会長文書「鍼灸の同意書(診断書)撤廃等の運動の転換について」発信
保発第101号 6月1日から鍼灸の療養費改正
1術 1,200円(初回のみ 2,300円)
2術 1,500円(初回のみ 2,650円)
電気針又は電気温灸器使用の場合にあっては
1術 1,230円(初回のみ 2,330円)
2術 1,530円(初回のみ 2,680円)
往療料 2キロまで 1,900円
2キロ増すごとに 800円加算

5月28日 平成12年度通常代議員会 於ホテルベルクラシック東京

5月29日 平成12年度通常総会 創立50周年記念式典(厚生大臣表彰39人・労働大臣表彰33人・会長表彰267人が受賞) 同祝賀会 於赤坂プリンスホテル

6月1日 4団体会長が労働省労働基準局補償課へ労災保険の施術料算定基準の改定要望書を提出

6月9日 全日本鍼灸学会大会 於神戸

6月14日 財団法人東洋療法研修試験財団理事・評議員会・同財団設立10周年式典・祝賀会

6月24～25日 九州ブロック会議 於別府市 亀の井ホテル

7月1日 労災保険施術料金改正 7月1日以降の施術から改正
初検料 2,250円 時間外加算 650円
休日加算 1,870円
往療料 2キロまで2,450円
はり又はきゅう 1術 2,510円
はり・きゅう 2術 3,940円
はり又はきゅうとマッサージを併用した場合 3,940円
2部位以上の施術は20%加算
電気・光線の器具を使用した場合 550円を加算
休業証明書料 1件につき 2,000円

7月1～2日 東北ブロック会議 於岩手県花巻市・ホテル花巻

7月9日 全国学術部長会議、全国組織部長会議 於日本鍼灸会館

7月16日 東京都鍼灸師会創立50周年記念式典・祝賀会 於丸の内東京会館

7月18日 日鍼会、全鍼師会保険実務者会議、4団体保険推進協議会 於全鍼師会

7月29～30日 北陸ブロック会議 於石川県加賀市 瑠璃光

8月11日 介護保険制度の要介護認定で「自立・要支援」と判定された高齢者、自宅で親族の介護にあたる家族を対称に無料鍼灸治療を始めた 全国初の実施 於埼玉県所沢市保健センター

8月26～27日 青年部全国集会・青年部長会 於福島県郡山市

9月1日 平成12年度全国師会アンケート調査実施

9月3日 全国保険部長会議 於日本鍼灸会館

9月9～10日 中国・四国ブロック会議 於松山市道後 にぎたつ会館

9月14～17日 第20期鍼灸臨床研修指導者講習会

9月23～24日 中部ブロック会議 於長野県南安曇郡三郷村 ファインビュー室山

10月1日 関東ブロック会議 於埼玉県大宮市 大宮ソニックシティ国際会議室
平成12年度会員実態調査実施

10月7日 近畿ブロック会議 於京都府亀岡市湯の花温泉 亀岡ハイツ

10月8～9日 鳥取県鍼灸師会創立25周年記念 於国民宿舎水明荘

10月14日 青森県鍼灸師会創立50周年記念式典 於ホテル青森はまなす

10月15日 緊急理事会 「保険取扱いに関する要望書」案について

10月22日 北海道ブロック会議 於札幌サンプラザホテル

11月5日 全国共済部長会議 於日本鍼灸会館

11月12日 宮城県鍼灸師会創立50周年記念式典 於仙台市 江陽ランドホテル
関東ブロック臨床学術大会 於東京

11月12～15日 世界鍼灸学会連合会(WFAS)第5回世界鍼灸学術大会 於韓国 ソウル市 ホテルロッセワールド
テーマ「鍼灸研究の世界的発揚」 1,100名参加

11月13日 全日本鍼灸マッサージ師会法人化20周年記念式典・祝賀会

12月2日 ブロック会長会議 於日本鍼灸会館 自賠責の日鍼会新基準決る 新基準方式自賠責の料金は「労災料金に準拠した自由診療」を内規とし、請求時には会員専用紙を使用する

12月3日 全国師会会長会議 於日本鍼灸会館

12月10日 香川県鍼灸師会設立25周年、法人設立10周年記念式典・祝賀会 於高松市センチュリーホテル

12月12日 鍼灸マを考える国会議員の会に厚生省の出席、業界4団体会長から要望書が提出された

12月13日 日鍼会と日整師会との懇親会 於池袋サンシャイン60

2001年 (平成13年)

1月30日 財団法人国際医療技術交流財団が保健文化賞を受賞したことの祝賀会

2月17日 経絡治療学会学術総会 於昭和大学

5月12日 平成13年度通常代議員会 役員改選 於ホテルベルクラシック東京

5月13日 平成13年度総会 於日本鍼灸会館

5月20日 三重県鍼灸師会創立40周年記念式典

6月8～10日 全日本鍼灸学会学術大会 於大阪

7月1日 全国学術部長会議 於日本鍼灸会館

7月3日 国民年金基金連合会設立10周年記念式典

7月8日 全国組織部長会議、全国共済部長会議 於日本鍼灸会館

7月25日 東京都鍼灸師会会員 今井絹子氏が上海市の「白玉蘭賞」を受章 衛生局関連での日本人は3人目

7月29日 全国保険部長会議 於日本鍼灸会館
岡田明三経絡治療学会会長就任

8月18日 日本盲人会連合村谷昌弘名誉会長胸像除幕式 保険実務者会議 於全鍼師会館

8月25～26日 日青全国集会 in 京都 青年部30周年記念大会 テーマ「飛び出そう世界へ目指せグローバル鍼灸」 於京都府都ホテル

8月29日 厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省

8月31日 厚労省保険局医療課との協議に保険推進協議会4団体会長が出席 於厚労省

9月1日 平成13年度全国師会アンケート調査実施

9月1～2日 北陸ブロック会議 於福井県芦原 美松

9月8～9日 中国・四国ブロック会議 於山口県徳山市

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

9月13～16日	第21期鍼灸臨床研修指導者講習会 於日本鍼灸会館	3月18日	鍼灸マッサージ保険推進協議会の4団体長が 厚労省医療課へ健保療養費改正陳情書を提出 し要望した
9月15～16日	九州ブロック会議 於宮崎県宮崎シーガイア	3月30日	第17回経絡治療学会関西大会
9月23～24日	中部ブロック会議 於岐阜県岐阜市ホテル パーク	4月6日	日本保険鍼灸師会連合会役員会
9月30日	北海道ブロック会議 於札幌サンブラザホテ ル	4月24日	鍼灸マッサージを考える国会議員の会 4団 体長が出席し、要望書の早期実現化を強く要 望 於自民党本部
10月	ホームページへ全会員鍼灸院の登録開始	4月26日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省
10月1日	平成13年度会員実態調査実施	5月15日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省
10月7～8日	第3回日本鍼灸師会臨床学術大会 テーマ 「鍼灸発展の道をさぐる」、サブテーマ「生活 習慣病と鍼灸」 350名参加 於福岡市明治 生命ホール	5月18日	平成14年度通常代議員会 於ホテルベルク ラシック東京
10月13～14日	近畿ブロック会議 於兵庫県 シーパル須磨	5月19日	平成14年度総会 於日本鍼灸会館
10月14日	関東ブロック会議 於神奈川県 川崎グラン ドホテル	5月20日	あはき等法推進協議会7団体長が厚労省医政 局医事課と東洋療法研修試験財団の件で協議
11月4日	全日本鍼灸学会鍼灸学術団体協議会 佐賀県 鍼灸師会創立70周年記念式典	5月24日	日本鍼灸新報の号外発行 4団体協調で勝ち 取った成果 はり師・きゅう師に係る療養費 の期間・回数制限が撤廃された 保発第0524003号 はり師、きゅう師及びあ ん摩・マッサージ・指圧師の施術に係る療養 費の支給について（通知） 6月1日以降の施 術分から適用 1術の場合 1回につき 1,190円（初回の み 2,300円） 電気針又は電気温灸器を使用した場合 1回 につき 1,220円（初回のみ 2,330円） 2術の場合 1回につき 1,490円（初回の み 2,650円） 電気針又は電気温灸器を使用した場合 1回 につき 1,520円（初回のみ 2,680円） 往 療料 1,875円 片道2キロを超えた場合 2キロ又はその端数を増すごとに、所定料金 に800円を加算 2戸以上の患者に対して引 き続いて往療した場合は当該施術所の所在 地を起点とせず、それぞれ先順位の患者の所在 地を起点とする 支給期間及び支給回数について 個別の症状 を勘案し、従来の支給期間や支給回数の限度 を超えて支給しても差し支えないものとする なお、施術を受ける場合に必要な医師の同意 に係る取扱いについては従前のとおり
11月9日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	5月27日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省
11月10～11日	東北ブロック会議 於江陽グランドホテル	6月7日	全日本鍼灸学会学術大会 於つくば市
11月11日	兵庫県鍼灸師会法人設立50周年記念式典 於ホテルオークラ 茨城県鍼灸師会創立50 周年記念式典	6月23日	奈良県鍼灸師会創立45周年記念式典
11月18日	石川県鍼灸師会創立20周年記念式典 島根県鍼灸師会創立20周年記念式典	6月25日	厚労省補償課専門官に労災保険に関する要望 を行った
11月19日	保険推進協議会 4団体長の出席で「鍼灸マ を考える国会議員の会」に対する協議 於日本鍼灸会館	6月26日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省
11月20日	鍼灸マを考える国会議員の会 鍼灸養成校の あり方について要請、議論	7月7日	全国学術部長会議 於日本鍼灸会館
11月23日	介護保険制度への取り組みについて全鍼師会 と協議	7月14日	山梨県鍼灸師会法人設立20周年記念式典
11月26日	自民党「志帥会21世紀、日本の展望」集会	7月18日	学術部と共済部合同打合せ会議 リスクマ ネージメントについて検討
11月28日	日鍼会・全日本鍼灸学会・東洋療法学校協会 の3団体長と業団が直面している問題及び鍼 灸界の課題についての意見交換・協議	7月28日	日鍼会・全鍼師会合同全国保険部長会議 厚 生労働省保険局医療課療養指導専門官を講師 として開催 於東京都池袋メトロポリタンブ ラザ会議室
11月29日	厚生労働省医政局医事課長・全鍼師会長らと 懇談	8月1日	労災保険施術料金改正 8月1日以降の施術 より 初検料 2,250円 時間外加算 650円 休日加算 1,870円 往療料 2キロまで2,250円 片道2キロを超 えた場合 2キロ又はその端数を増すごと に、所定料金に960円を加算 はり又はきゅう 1術 2,500円 はり・きゅう 2術 3,930円 はり又はきゅうとマッサージを併用した場合 3,930円 2部位以上の施術は20%加算 電気・光線の 器具を使用した場合 550円を加算 休業証明書料 1件につき 2,000円
12月1日	ブロック長会議 於日本鍼灸会館		
12月2日	全国師会長会議 於日本鍼灸会館		
12月7～9日	世界鍼灸学会連合会(WFAS) シンガポ ール国際鍼灸学術シンポジウム テーマ「新世 紀における鍼灸の国際的学術研究、教育およ び臨床治療」 於シンガポール国際会議・展 示センター 今回は9月11日のアメリカを 襲ったテロ事件により、アメリカからの参加 者は1名のみだった		
12月9日	学術講習会50周年記念式典・祝賀会 於ベルクラシック東京		
12月20日	日赤中央血液センター副所長・血液事業部次 長・血液安全課長・技術2係長・企画課担当 官と面談 於日赤本社「献血時の問診票で 過去に鍼灸受療の事実があれば献血対象から 除外する」旨の項目について協議 平成14 年1月1日以降は新しい問診票により実施す るとの報告を受けた 現在は鍼灸受療の有無 は条件になっていない		
12月21日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省		
2002年（平成14年）			
1月10日	4団体長で厚生労働省医療課長・担当官と会 談 於厚労省		
1月30日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省		
2月22日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省		
2月28日	あはき等法推進協議会緊急会議		

8月2日	健康保険の一部負担金改正 3歳～69歳の医療費負担3割統一 平成15年4月1日から施行	6月6～8日	全日本鍼灸学会学術大会香川大会 メインテーマ「国民に愛される鍼灸」サブテーマ「日本発 鍼灸のグローバルスタンダード」於香川県民ホール
8月21日	日本鍼灸師会の「役員選挙規程」が改正された	6月10日	「鍼灸マッサージを考える国会議員の会」総会 鍼灸マッサージを考える国会議員の会に要望書提出 於自民党本部
8月24～25日	第39回日青全国集会在in長崎大会 テーマ「専門領域の探求」サブテーマ「見つめてみよう 日本伝統鍼灸」於長崎ワシントンホテル	6月11日	衆議院江藤隆美議員在職30年と議員生活45周年を祝う会に会長他が出席
8月30日	厚生省保険局医療課と保険実務者協議 於厚生省	6月12日	東洋療法研修試験財団理事会、評議員会 相馬会長が理事、井上副会長が評議員に就任
9月7～8日	九州ブロック会議 於鹿児島県サンロイヤルホテル	6月25日	奥水朝治公認会計士と契約、医療課との保険実務者協議、鍼灸マッサージ保険推進協議会
9月13～16日	第22期鍼灸臨床研修指導者講習会(受講者24名) 於日本鍼灸会館	6月28～29日	東北ブロック会議 於山形県生涯学習センター遊学館
9月15～16日	中国・四国ブロック会議 於香川県高松センチュリーホテル	7月1日	岸上茂顧問弁護士と島谷尚美税理士の後任として、川上詩朗弁護士、奥水朝治公認会計士を迎える
9月22～23日	中部ブロック会議 於静岡県浜松市ホテルコンコルド浜松	7月3日	全国学術部長会議、全国組織部長会議 於日本鍼灸会館
9月27日	厚生省保険局医療課と保険実務者協議 於厚生省	7月4日	経絡治療学会及び懇親会
9月29日	北海道ブロック会議 於札幌市ホテルルーシス	7月5～6日	九州ブロック会議 於沖縄市京都観光ホテル
10月5～6日	近畿ブロック会議 於関西エアポートワシントンホテル	7月7日	沖縄県庁国保・援護課、長寿社会対策室及び社会保険事務局を訪問
10月13日	関東ブロック会議 於千葉京成ホテルミラマール	7月13～16年1月18日	日本医師会 感染性廃棄物安全処理推進者養成講座(7月13日、10月5日、平成16年1月18日の3回)
10月14日	健保対策委員会終了後全鍼師会保険関係役員と合同保険会議 於日本鍼灸会館	7月20～21日	北陸ブロック会議 於新潟県長岡市蓬平温泉「和泉屋」
10月25日	厚生省保険局医療課と保険実務者協議 於厚生省	7月23日	厚生労働省保険局医療課との保険実務者協議
10月26～27日	東北ブロック会議 於郡山市民プラザ	7月27日	厚生労働省保険局医療課との保険実務者協議 厚生労働省老健局介護保険課訪問
11月7～9日	世界鍼灸学会連合会(WFAS) 国際シンポジウム2002年ローマ大会 テーマ「鍼灸に妥当な研究方法の確立に向けて」参加者450名	7月28日	日本看護協会からの要請により「韓国赤十字看護大学教員研修会」を開催 於日本鍼灸会館
11月9日	第30回日本伝統鍼灸学会学術大会	8月3日	平成15年度全国学術部長会議、平成15年度全国組織部長会議 於日本鍼灸会館
11月10日	熊本県鍼灸師会創立50周年記念式典	8月12日	日鍼第33号 保健同人社ホームページの「健康と医療ライブラリー」の「消化器の病気」中「B型肝炎」に鍼灸治療も注意が必要との記載文に対し抗議照会文を出した。
11月16日	筑波技術短期大学学長西条一止先生を囲む勉強会 於日本鍼灸会館	8月21日	日鍼第34号 鍼灸施術を消費税課税対象から除外する要望書提出
11月17日	監事要請による臨時理事会 「①会務運営の正常化について、②理事会決議の順守について」	8月30日	平成15年度全国青年部長会議 於オックスカナルパークホテル富山
11月23～24日	北陸ブロック会議 於富山県富山市呉羽ハイツ	8月30～31日	第40回日青全国集会在in富山 大会テーマ「情報を活かす」サブテーマ「鍼灸を売り込もう!!」於オックスカナルパークホテル富山
11月30日	ブロック会長会議 於日本鍼灸会館	9月1日	平成15年度全国師会アンケート調査実施
12月1日	全国師会会長会議 於日本鍼灸会館	9月7日	平成15年度全国保険部長会議 於東医健保会館
12月18日	本会のホームページがリニューアルオープン	9月11日	厚生労働省、経済産業省、自賠責損害調査センター、NEC・M等と折衝・協議
12月20日	厚生労働省保険局医療課長に保険推進協議会4団体長が、要望書を提出し、協議	9月11～14日	世界鍼灸学会連合会(WFAS) 国際鍼灸シンポジウム2003年オスロ大会 テーマ「鍼灸治療のエビデンス、安全性、適応について」於OsloKongressenterFolketsHusBA,Youngsg
12月21～22日	JACT大会	9月14～15日	中国・四国ブロック会議 於島根県松江市
12月22日	日本理療科教員連盟創立50周年記念式典	9月20～23日	第23期鍼灸臨床研修指導者講習会(総論・基礎・基礎各論・専門各論に分け、鍼灸師の基礎的臨床能力の習得に重点をおく) 於日本鍼灸会館
2003年(平成15年)		9月21日	関東ブロック会議 於茨城県つくば市筑波技術短期大学講堂
2月28日	厚生省保険局医療課と保険実務者協議 於厚生省	9月24日	厚生労働省保険局医療課と保険実務者協議 於厚生省
3月26日	厚生省保険局医療課と保険実務者協議 於厚生省	9月28日	北海道ブロック会議 於札幌サンプラザホテル
3月31日	日本柔道整復師会法人設立50周年記念式典		
4月26日	関西鍼灸大学開学記念式典		
4月29日	大阪府鍼灸師会法人設立40周年記念式典		
5月10日	平成15年度通常代議員会(役員改選) 於サンシャインシティプリンスホテル		
5月11日	平成15年度通常総会 井口会長から相馬悦孝会長へ 於サンシャインシティプリンスホテル		
5月28日	厚生省保険局医療課と保険実務者協議 於厚生省		
5月31日	全国病院理学療法協会創立55周年・法人認可40周年記念式典		

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

10月1日	平成15年度会員実態調査実施	5月15日	平成16年度通常代議員会 理事補欠選挙 於サンシャインシティプリンスホテル
10月4～5日	近畿ブロック会議 於ホテルアバローム紀の 国	5月16日	平成16年度総会 於サンシャインシティプ リンスホテル
10月12～13日	第4回日本鍼灸師会臨床学術大会 テーマ 「鍼灸発展の道を探る」 シンポジウムテーマ 「鍼灸師と鍼灸院の存在価値」 公開実技「こ れからはお灸だ!!」 於石川県 金沢市文化 ホール	6月3日	鍼灸マッサージ保険推進協議会(4団体)は 労災料金の改正を求めた要望書を提出 於厚生労働省 日鍼会は「生活保護の医療扶 助運営における鍼灸の取扱いについての要望 書」を提出 於厚生労働省
10月29日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	6月9日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省
11月2～3日	中部ブロック会議 於山梨県甲府市 湯村温泉	6月11～13日	(社)全日本鍼灸学会学術大会 於幕張メッセ第8展示場・国際会議室
11月24日	日本医師連盟参議院議員選挙候補予定者西島 英利決起大会 於パレスホテル 帝京平成大学東洋医療技術教育課程設立祝賀 会	6月13日	日本鍼灸師会と全日本鍼灸学会共催の「鍼灸 医学フォーラム2004」 於幕張メッセ第8展 示場
11月25日	財団法人東洋療法研修試験財団生涯検討委員 会	6月15日	鍼灸マッサージを考える国会議員の会 於自民党本部
11月26日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	6月16日	あはき法19条請願について協議 衆議院厚 生労働委員会において同請願は審議未了・保 留として打ち切られた 於厚生労働省
11月29日	平成15年度ブロック会長会議 於日本鍼灸会館	6月23日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省
11月30日	IT研修会 於福島市国際メディカルテクノ ロジー専門学校 平成15年度全国師会会長会議 於日本鍼灸会 館	6月26～27日	東北ブロック会議 於秋田県生涯学習センタ ー分館ジョイナス
11月	本会ホームページで学術講習会等の動画配信 開始	6月27日	第二次経穴委員会作業部会
12月	レセプト対応臨床電子カルテ予約注文開始	7月4日	全国保険部長会議 於日本鍼灸会館
12月10日	臨時局長会議(予算会議)開催 平成16年 度予算案について検討 於日本鍼灸会館	7月11日	全国青年部長会議 於日本鍼灸会館
12月23日	保険実務者打合せ会議 於日本鍼灸師会	7月18～19日	北陸ブロック会議 於石川県和倉温泉ホテル たな嘉(18日)、財団法人東洋医学臨床研究 所(19日)
12月24日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	7月25日	第二次経穴委員会作業部会 於日本鍼灸会館
2004年(平成16年)		8月1日	全国学術部長会議、全国組織部長会議、全国 学術部長会議 於日本鍼灸会館
1月	組織局組織部による「入会案内」の新規作成	8月4日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省
1月16日	自民党大会 於新高輪プリンスホテル 損害賠償等請求事件の判決 千葉地裁	8月28～29日	第41回日青全国集会在香川 テーマ「鍼灸癒 しの探求」 サブテーマ「青年に伝えよう四 国の技と心」 於学校法人大麻学園 四国医 療専門学校、オオクラホテル丸亀
2月22日	滋賀県鍼灸師会法人設立30周年記念式典	8月29日	福岡県鍼灸マッサージ師会創立90周年記念 式典
2月24日	2月24日発売の週刊朝日3月5日増大に国家 資格シリーズとして『はり師・きゅう師』の 標題で、はり・きゅうに関すること及び(社) 日本鍼灸師会、各都道府県鍼灸師会の記事広 告が掲載された	9月1日	平成16年度全国師会アンケート調査実施
2月25日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	9月5日	関東ブロック会議 於宇都宮市ホテルニュー イタヤ
3月3日	厚労省医療課との保険実務者協議	9月11～12日	九州ブロック会議 於アークホテル熊本
3月15日～ 17年2月28日	平成16年度第2回感染性廃棄物安全処理推進 者養成講座・医療安全推進者養成講座	9月18～20日	平成16年度の鍼灸臨床研修指導者講習会は 名称を鍼灸臨床研修会と変えての開催 於日本鍼灸会館
3月17日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	9月19～20日	中国・四国ブロック会議 於徳島県サンシャ イン徳島アネックス
3月24日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	9月26日	北海道ブロック会議 於札幌サンプラザホテ ル
4月7日	鍼灸マッサージ保険推進協議会の4団体長が 厚労省保険局医療課を訪問 療養費の改定に ついて陳情	10月1日	平成16年度会員実態調査実施 「はり師、きゅう師及びあん摩・マッサージ・ 指圧師の施術に係る療養費の支給の留意事項 等について」が発出
4月25日	第二次日本経穴委員会が発足 日鍼会は支援 と協力をしていくことになった	10月10～11日	中部ブロック会議 於愛知県鍼灸師会事務所 会議室
5月7日	「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう 師等に関する法律第19条に、はり師、きゅ う師の規定を加える改正を求める請願書」に 対し、反対の要望書を衆議院自民党の全議員 に送付	10月11日	WHO第3回経穴部位国際標準化に関する非 公式諮問会議 於京都
5月12日	平成17年介護保険制度見直しに向けて、鍼 灸師を機能訓練指導員として認めてくれるよ うに、また、鍼灸師による疼痛管理を介護サー ビス内に入れてくれるように要望書を提出 於厚生労働省	10月12日	国民医療推進協議会設立会 於日本医師会
		10月13日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省
			鍼灸マッサージ保険推進協議会・4団体長会 議 於日本鍼灸会館
		10月16～17日	近畿ブロック会議 於橿原ロイヤルホテル
		10月21日	国民医療推進協議会総会 於日本医師会

10月29～31日	第6回WFAS世界鍼灸学術大会 2004年オーストラリア大会 テーマ「現代における鍼と中国医学」 於Gold Coast Convention and Exhibition Centre	7月10日	全国組織部長会議 於日本鍼灸会館 全日本鍼灸学会研修会 於東大鉄門記念館 三重県鍼灸師会館落成式
11月7日	臨時全国保険部長会議が全鍼師会と合同で開催 於東医健保会館	7月15日	災害共済給付における鍼灸の取扱い等について厚労省健康安全部災害共済給付課の説明会 於日本スポーツ振興センター 福祉自治体ユニット・地域ケア政策ネットワーク合同総会 於主婦会館
12月4日	ブロック会長会議 於日本鍼灸会館	7月17～18日	北陸ブロック会議 於福井県芦原市芦原温泉 グランディア芳泉
12月5日	全国師会長会議 於日本鍼灸会館	7月22日	国保中央会との交渉（鍼灸の施術療養費等について支給申請書の証明欄の問題点等） 於全国町村会館
12月12日	第二次経穴委員会作業部会	7月23～24日	中部ブロック会議 於長野県諏訪市高島「RAKOH華乃井ホテル」
12月15日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	7月27日	鍼灸マッサージ保険推進協議会、厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
2005年（平成17年）			
1月	月刊「PHP」誌（B6判）に本会の事業紹介の記事が掲載される	7月31日	全国学術部長会議 於静岡・浜松市フォルテ
1月15～16日	筋力向上トレーニング指導者研修 於日本鍼灸会館・東京都介護予防トレーニングルーム・デイサービス事業所	8月21日	日鍼会と全鍼師会との実務者協議 於日本鍼灸会館
1月22日	医道の日本社会長故戸部宗七郎氏「お別れ会」	8月24日	鍼灸マッサージ保険推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
1月26日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	8月27～28日	関東ブロック会議 於群馬県水上市水上温泉 ホテル聚楽
2月9日	明治鍼灸大学の構造改革特区第6次提案について、日鍼会・全鍼師会・日マ会・日盲連4団体長で構成する鍼灸マ保険推進協議会(相馬悦孝代表)が厚生労働省保険局医療課長に厚労省の対応の確認を行った 第9回構造改革特別区域推進本部が開催され、第6次提案に対する政府の対応方針が決定された NECメディアプロダクツと広報・HPについての協議 於日本鍼灸会館	9月1日	平成17年度全国師会アンケート調査実施
2月23日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	9月7日	介護保険の予防給付の筋力向上指導者に、はり師・きゅう師・あん摩マッサージ指圧師を明記していただくことについて厚労省老人保険局老人保健課長等と協議
3月23日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	9月10～11日	九州ブロック会議 於長崎市ホテル・ニュータンダ 保険局医療課との保険実務者協議 於厚労省
3月26日	経絡治療学会学術大会記念大会	9月14日	中国・四国ブロック会議 於岡山市
3月31日	牟田博次事務局長が退任	9月18～19日	北海道ブロック会議 於札幌市ホテル札幌サンプラザ 日鍼会・全鍼師会会長打合せ会 15年度療養費取扱い推計の伸び率に対する実務者協議の刷り合わせ内容の検討等 於日本鍼灸会館
4月1日	新事務局長に松本治氏が就任	9月25日	国際経穴部位標準化に関する非公式諮問会議 於関西鍼灸大学
4月10日	臨時局長会議 於日本鍼灸会館	9月27～29日	日鍼会普及ポスターの「澱」と「美」が東京駅丸の内側中央付近に掲示(10月4日～10日)された。
4月14日	「日鍼会共済制度」が「日鍼会保障プラン」と名称変更し、新しい特典が加わった	9月28日	鍼灸マッサージ保険推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
4月15日	国民医療推進協議会 於日本医師会	10月1日	平成17年度会員実態調査実施
4月20日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	10月8日	第25期鍼灸臨床研修会 於浜松駅前アクトシティ浜松
4月25日	鍼灸マッサージ保険推進協議会が介護保険制度改正における新予防給付の要望書を厚労省老健局老人保健課長に手渡した	10月9～10日	第1回社団法人日本鍼灸師会全国大会、第5回臨床学術大会、第42回日青全国集會 テーマ「今、求められる鍼灸医療」 サブテーマ「広めよう！信頼と鍼灸効果」 於浜松駅前アクトシティ浜松
5月14日	平成17年度代議員会 役員改選 定款の一部改正 於サンシャインシティプリンスホテル	10月15日	近畿ブロック会議 於滋賀県大津市
5月15日	平成17年度総会、創立55周年記念式典・祝賀会 於サンシャインシティプリンスホテル	10月16日	本会元副理事長、森ノ宮医療学園名譽理事長故森秀太郎先生の「お別れの会」 於大阪市内ザ・リッツカールトン大阪
5月25日	4団体長協議会 於日本鍼灸会館 厚労省医療課との保険実務者協議、社会保護局生活保護課との協議、国土交通省自動車交通課との協議	10月19日	朝日新聞社東京本社生活部記者の取材 於日本鍼灸会館
5月27～31日	WONCA（世界一般医・家庭医学会）2005年アジア太平洋学術会議（5/27～31） 同時開催 第28回日本プライマリ・ケア学会学術集会（5/28～29）、第20回日本家庭医療学会学術集会（同）、第13回日本総合診療医学会学術集会（同） 於国立京都国際会館（京都・宝ヶ池）	10月26日	鍼灸マッサージ保険推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
5月29日	鍼灸祭 於湯島聖堂	10月28日	自民党政務調査会による「平成18年度予算・税制改正に関する会議」が自民党本部で開催され、鍼灸施術料金を消費税対象外とすることなどを要望した
6月10～12日	第54回全日本鍼灸学会学術大会 於福岡	10月29日	第33回日本伝統鍼灸学会学術大会 於江戸川区総合区民ホール・タワー船堀
6月22日	厚労省保険局医療課と保険実務者協議 於厚労省	11月	あはき等法推進協議会が有資格者であることを表すロゴマークを発表 7団体共通のマークとして協議会を構成する各団体では自由に使用できる
6月25～26日	東北ブロック会議 於青森県八戸第2ワシントンホテル		
7月3日	全国保険部長会議、日本保険鍼灸師会連合会委員会 於日本鍼灸会館		

11月3～6日	W F A S 国際シンポジウム2005年リスボン大会 大会テーマ「温故知新」 於リスボン シェラトンホテル	3月24日	参議院予算委員会集中審議で民主党の山根隆治議員が「統合医療の問題」や「受領委任払い制度」など、鍼灸に関する質問をした
11月5日	鳥取県鍼灸師会創立30周年式典	3月29日	鍼灸マッサージ保健推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 韓国大使館員金1等書記官が日本の鍼灸師の現状等調査のため来館
11月8日	国民医療推進協議会 「国民皆保険制度を守るための国民運動」を展開することが決まった 於日本医師会館	4月6日	あはき等法推進協議会の7団体長が揃って、衆議院第1議員会館を訪問 衆議院自民党厚生労働委員会メンバーの45議員に「無免許マッサージ師が国民を守る法改正に関する請願の署名運動」について説明、陳情に回った また、参議院議員会館に阿部正俊議員を訪問し、政治連盟の立ち上げ等について陳情した
11月16日	WHO経穴標準化国際会議日本開催を成功させるための陳情 於厚労省 近畿ブロック会議 於びわこホテル	4月7～9日	医学的鍼と関連技術の国際協議会第12回ワシントン大会、アメリカ鍼灸師学会第18回シンポジウム テーマ「広がりゆく鍼の地平を国際的に讀んで」参加者は約400名 於アメリカ・ワシントンDC
11月20日～18年1月29日	第1回介護予防運動指導員養成講座 於東京 参加者40名	4月9日～6月11日	第6回介護予防運動指導員養成講座 於大阪 参加者40名
11月23日	日鍼会、全鍼師会会長打合せ会 於全鍼師会館	4月12日	参議院議員会館に山根参議院議員（民主党）を訪問 鍼灸単独法の制定に向けた側面的な協力を要請 厚労省医事課を訪問し、定款改正許諾について要請 厚労省老健局老人保健課との協議 於厚労省
11月27日～18年2月5日	第2回介護予防運動指導員養成講座 於大阪 参加者40名 WHO経穴標準化国際会議日本開催を成功させるための協議 日本鍼灸師会、全日本鍼灸学会、東洋療法学校協会、日本理療科教員連盟、日本東洋医学会の5運営団体が参加して開催	4月16日～6月4日	第5回介護予防運動指導員養成講座 於東京 参加者38名
11月30日	鍼灸マッサージ保険推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省	4月19日	介護保険法改正に伴う協議 於東京都老人総合研究所
12月3日	国民皆保険制度を守る国民集会 於日比谷公会堂 平成17年度ブロック会長会議 於日本鍼灸会館	4月26日	定款改正について企画法令担当官から指摘、指導を受け協議 於厚労省医事課 鍼灸マッサージ保険推進協議会の4団体長が厚労省保険局医療課を訪問 「はり師・きゅう師、及びあん摩・マッサージ指圧師に係る療養費の改正」について要望書を提出 鍼灸マッサージ保険推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
12月4日	平成17年度全国師会会長会議 於日本鍼灸会館	5月9日	厚労省医事課企画法令係を訪問し、定款改正について協議
12月6日	日鍼会名称の略称英訳の取り扱いについての打合せ	5月11日	厚労省医事課企画法令係を訪問し、定款改正修正案を提出
12月8日	国会請願及び東洋療法研修試験財団の生涯研修等の検討 於全鍼師会館	5月14日	三重県鍼灸師会創立45周年記念式典
12月21日	4団体長（日鍼会、全鍼師会、日マ会、日盲連）が伊吹文明衆議院議員を訪問 議員連盟の立ち上げ要請	5月16日	日本医師会会長等役員就任パーティー 於帝国ホテル
2006年（平成18年）			
1月23日	朝日新聞東京本社の取材（はり、きゅうについて） 於日本鍼灸会館	5月17日	鍼灸マッサージ保健推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
1月25日	鍼灸マッサージ保険推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省 4団体長（日鍼会、全鍼師会、日マ会、日盲連）会議 於日本鍼灸会館	5月20日	平成18年度通常代議員会（定款変更）、懇親会 於池袋サンシャインシティ文化会館
2月1日	全国健保組合連合会、健保組合連合会東京支部及び東京都国保連合会との協議	5月21日	平成18年度通常総会、同政治連盟総会 於日本鍼灸会館
2月4日	鍼灸需要喚起検討会（後の医療推進研究会） 於日本鍼灸会館	5月23日	第27回鍼灸祭 於湯島聖堂大成殿 保発第1523003号 はり師、きゅう師及びあん摩・マッサージ・指圧師の施術に係る療養費の支給について（通知） 6月1日以降の施術分から適用 1術の場合 1回につき 1,190円（初回のみ 2,330円） 電気針又は電気温灸器を使用した場合 1回につき 1,220円（初回のみ 2,360円） 2術の場合 1回につき 1,490円（初回のみ 2,680円） 電気針又は電気温灸器を使用した場合 1回につき 1,520円（初回のみ 2,710円） 往療料 1,870円 片道2キロを超え8キロまでの場合 2キロ又はその端数を増すごとに、所定金額に800円を加算し、片道8キロを超えた場合については、一律2,400円を加算 片道16キロを超える場合の往療料は往療を必要とする絶対的な理由がある場合以外は認められない
2月11日～4月2日	第3回介護予防運動指導員養成講座 於東京 参加者40名		
2月11日～3月26日	第4回介護予防運動指導員養成講座 於大阪 参加者40名		
2月16日	D Kシステム・ホームページの取り扱い等について N E Cメディアプロダクツと打合せ 於セルリアンタワー		
2月22日	鍼灸マッサージ保健推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省		
3月8日	鍼灸マッサージ保健推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省		
3月11日	H P ・ D Kシステム等について N E Cとの打合せ 於ホテルベルクラシック東京		
3月13日	W H O 経穴標準化非公式諮問会議のレセプション 於フォーレスト本郷		
3月16日	W H O 経穴標準化非公式会議 於東京大学鉄門会館		

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

5月24日	7団体長が議員会館で厚生労働委員会委員の各部屋を訪問 鍼灸マッサージ保健推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省	9月2～3日	九州ブロック会議 於佐賀市佐賀ワシントンホテルプラザ
6月7日	社会援護局保護課と料金改正に伴う通知について協議、厚労省労働基準局労災部補償課と料金改正について協議 於厚労省	9月13日	厚労省保険局医療課と協議、医政局医事課に日本標準産業分類の変更についての要望 於厚労省
6月14日	社会援護局保護課と生活保護取り扱い要領等について協議 於厚労省	9月16日	第26期鍼灸臨床研修会（講師養成講座：16～18日） 於日本鍼灸会館
6月16～18日	自動車交通局保障課と自賠責保険の取り扱い等について協議 於国土交通省	9月17～18日	中国・四国ブロック会議 於高知市高知パシフィックホテル
6月24～25日	第55回全日本鍼灸学会学術大会、全日学諮問委員会、鍼灸医療推進研究会 於金沢市東北ブロック会議 於岩手県盛岡市ホテルニューカリーナ	9月20日	中部ブロック会議 於岐阜県鍼灸マッサージ会館
6月25日	日本刺絡学会学術大会 於船橋市タワーホール船橋	9月23日	平成18年度全国師会アンケート調査実施
6月28日	鍼灸マッサージ保険推進協議会との実務者協議 於厚労省 東洋療法研修試験財団を訪問し、鍼灸医療推進研究会推進の為の事務協力等について要請	9月24日	北海道ブロック会議 於札幌市ホテル札幌サンプラザ
6月29日	三井生命保険（株）他3社と日鍼会保障プランの更新についての打合せ 於日本鍼灸会館	9月27日	北海道鍼灸師会創立60周年記念式典 於ホテル札幌サンプラザ
7月2日	全国学術部長会議 於北とびあ	9月28日	厚労省医療課療養指導専門官等と鍼灸マッサージ師保険推進協議会との実務者協議 於厚労省
7月5日	全国保険部長会議 於日本鍼灸会館	10月2日	任天堂株式会社とDS-TV（仮称）の監修等について協議
7月9日	厚労省労働基準局労災部補償課と労災保険の料金改正について協議 於厚労省	10月8～9日	平成18年度会員実態調査実施
7月11日	全国組織部長会議、全国青年部長会議 於日本鍼灸会館	10月9日	第2回社団法人日本鍼灸師会全国大会、第6回臨床学術大会、第43回青年部全国大会 テーマ「今、求められる鍼灸医療」－広めよう！信頼と鍼灸効果－ 参加者985名 於東京都北区北とびあ
7月15日	鍼灸マッサージを考える国会議員の会・役員会に4団体を代表して伊吹新会長に要望書を手渡した	10月14～15日	平成18年度臨時総会（定款一部改正） 於東京都北区北とびあ
7月21日	日盲連、日マ会共催の三療研修会 於日本盲人福祉センター	10月24日	近畿ブロック会議 於三重県四日市市ザ・プラトンホテル
7月29～30日	鍼灸マッサージ保健推進協議会と厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省	10月26日	4団体（日鍼会、全鍼師会、日マ会、日盲連）長が、柳沢厚生労働大臣を訪問、保険取扱い等について要望提出
8月1日	北陸ブロック会議 於富山県高岡市雨晴温泉「磯はなび」	10月29日	定款の一部改正申請書を厚労省医事課に提出 国民年金基金の打合せ、三井住友海上火災保険（株）及び洋伸エージェンシー（株）と保険事務の取り扱いなどについて打合せ 於日本鍼灸会館
8月8日	労災保険施術料金改正 8月1日以降の施術より 初検料 2,250円 時間外加算 650円 休日加算 1,870円 往療料 2キロまで2,240円 はり又はきゅう 1術 2,500円 はり・きゅう 2術 3,930円 はり又はきゅうとマッサージを併用した場合 3,930円 2部位以上の施術は20%加算 電気・光線の器具を使用した場合 550円を加算 休業証明書料 1件につき 2,000円	10月29日～12月17日	第8回介護予防運動指導員養成講座 於愛知 参加者40名
8月13日	故・橋本龍太郎元総理大臣（当会顧問、議員連盟会長）の内閣・自由民主党合同葬儀 於日本武道館	10月30日	10月29日 茨城県鍼灸師会創立55周年記念式典 於ホテルアルファ・ザ・土浦
8月20～9月24日	日本保険鍼灸師連合会役員会 於全鍼師会館	10月31日	石川県鍼灸師会創立25周年記念式典 於ホテル日航金沢
8月22日	第7回介護予防運動指導員養成講座 於愛知（演習） 参加者38名	11月1日	「営業法の解説」（昭和23年6月初版）を複製発行
8月23日	任天堂株式会社のコテンツの監修と当会の名称使用について協議 於からすま京都ホテル	11月8日	WHO経穴部位国際標準化公式会議 於つくば国際会議場
8月27日	介護施設基準に関するパブリックコメントについて、厚労省老人保健局課長と協議	11月12日	経穴部位国際標準化公式会議のオープニングセレモニーがつくば国際コンベンションセンター、ウェルカムパーティーがつくば山手亭で開催された
8月30日	関東ブロック会議 於埼玉県大宮サンパレス	11月20日	医療課療養指導専門官と鍼灸マッサージ保険推進協議会との実務者協議 於厚労省
8月31日	4団体（日鍼会、全鍼師会、日マ会、日盲連）長が厚労省保険局医療課長の人事異動に伴い、新任の医療課長を表敬訪問	11月20～21日	日本医師連盟の鈴木常務が武見敬三参議院議員の次期選挙立候補者として推薦依頼に来館
9月1日	医療課療養指導専門官等と鍼灸マッサージ保険推進協議会との実務者協議		日本医歯薬出版社と打合せ、（株）オールアバウトプロファイルと打合せ 於日本鍼灸会館
	NECメディアプロダクツ等と同社の会議室において、DKシステムバージョンアップ打合せ会議を開催		兵庫県鍼灸師会設立55周年記念式典 於ホテルオークラ神戸
	平成18年度全国師会アンケート調査実施		あはき等法推進協議会（7者協）は、厚労省に武見敬三厚生労働副大臣を訪問し、参議院議員通常選挙における自民党公認比例代表候補者の武見敬三氏を全面的に支持し、推薦することを決議したと通知し、推薦状を提出
			全日本鍼灸学会国際シンポジウムin京都 テーマ「エビデンスに基づく鍼灸治療の現状」 参加者216名（一般参加者124名、講演・座長32名、来賓60名） 於京都駅前 ばるるプラザ

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

11月24日 東洋療法研修試験財団生涯研修検討委員会が同財団で開催された
 11月24～26日 世界鍼灸学会連合会(WFAS)国際鍼シンポジウム2006開催 於インドネシア・バリサヌール
 11月29日 医療課療養指導専門官と鍼灸マッサージ保険推進協議会との実務者協議 於厚労省 第4回国民医療推進協議会総会 於日本医師会館
 12月1日 阿部正俊参議院議員を訪問、業界諸問題に関するご意見を伺う 於参議院会館
 12月2日 ブロック会長会議 於日本鍼灸会館
 12月3日 全国師会長会議 於日本鍼灸会館
 12月14日 中山太郎衆議院議員と国民投票法案懇談会 於虎ノ門パストラル
 12月15日 医療課療養指導専門官等と鍼灸マッサージ保険推進協議会との実務者協議 於厚労省
 12月27日 医歯薬出版(株)担当者と「鍼灸医療安全ガイドライン」の購入等について協議 於日本鍼灸会館
 東洋療法研修試験財団の役員の任期満了に伴う選任等年末年始の諸案件について話し合う

2007年 (平成19年)

1月 専門領域研修制度に「鍼灸医療リスクマネジメント」を取り組む準備開始 DKシステムのバージョンアップ (Ver 1.93) 保発0524003号通知で義務化された施術録が簡単に打ち出せるようになった「元気度チェック」の用紙を作成 日鍼会ホームページに掲載
 2月12日 臨時近畿ブロック会議 於大阪府鍼灸師会館
 2月21日 医療課療養指導専門官等と鍼灸マッサージ保険推進協議会との実務者協議 於厚労省
 2月28日 労災保険におけるはり、きゅう施術の取り扱いについて労働基準局担当課と協議 於厚労省
 厚労省老健局担当課と協議 於厚労省
 3月28日 医療課療養指導専門官と鍼灸マッサージ保険推進協議会との実務者協議 於厚労省
 4月29日～6月3日 第9回介護予防運動指導員養成講座 於東京参加者40名
 5月18日 国民医療を守る全国大会 於九段会館ホール
 5月19日 平成19年度通常代議員会 任期満了に伴う役員改選 於日本教育会館
 5月20日 平成19年度通常総会 於日本教育会館
 5月30日 医療課療養指導専門官等と鍼灸マッサージ保険推進協議会との実務者協議 於厚労省
 6月1日 DKシステムのバージョンアップ (Ver 2.0)
 6月3日～7月29日 第10回介護予防運動指導員養成講座 於三重 参加者40名
 6月8～9日 第56回全日本鍼灸学会学術大会in岡山大会 於倉敷
 6月23～24日 東北ブロック会議 於宮城県仙台市・秋保グランドホテル
 6月27日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省 国土交通省、厚労省労働基準局、日本損保協会と自動車保険等における鍼灸の取り扱いについて協議
 鍼灸マッサージ保険推進協議会(4団体長)が厚労省保険局医療課長に変形性膝関節症に関する要望書を提出
 6月30日 リスクマネジメント委員会 於日本鍼灸会館
 7月1日 全国学術部長会議 於日本鍼灸会館 森ノ宮医療大学開学式典 於ハイアット・リージェンシーオーサカ
 7月8日 全国組織部長会議、全国青年部長会議、学術局研修実施委員会臨床講師研修会、関東ブロック師会長会議 於日本鍼灸会館 全国保険部長会議 於東医健保会館

7月11日 鍼灸マッサージ保険推進協議会の4団体長が、厚労省医政局指導課長に公益法人の業務拡大について要望
 7月15～16日 北陸ブロック会議 於新潟県長岡市蓬平温泉・和泉屋
 7月16日 新潟県中越沖地震が発生 震度6強の激しい揺れで10人が死亡、約1200人が負傷
 7月25日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
 7月29日 徳島県鍼灸師会設立25周年記念式典
 8月5日 鍼灸師法推進に関する勉強会 於日本鍼灸会館
 8月23日 鍼灸マ保険推進協議会 於全鍼師会館 4団体一致して施術機関登録を試行することになった
 8月29日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
 9月1日 平成19年度全国師会アンケート調査実施
 9月2日 富山県鍼灸マッサージ師会法人結成60周年記念式典
 9月8日 臨時近畿ブロック会議(第3回全国大会準備会議) 於大阪府鍼灸会館
 9月9日 岡山県鍼灸師会法人設立30周年記念式典・祝賀会 於ピュアリティまきび 福井県鍼灸師会法人設立30周年記念式典 於ユアーズホテルフクイ
 9月15～17日 第27期鍼灸臨床研修会 於日本工学院専門学校蒲田校
 9月16～17日 北海道ブロック会議 於札幌サンプラザ 中国・四国ブロック会議 於ハーベストイン米子
 9月23日 荒川嘉裕元日鍼会副会長の通夜
 9月23～24日 中部ブロック会議 於グランドホテル浜松
 9月29～30日 九州ブロック会議 於福岡市ホテルセンチュリーアート
 10月1日 平成19年度会員実態調査実施
 10月6～7日 第3回社団法人日本鍼灸師会全国大会in大阪大会テーマ「今、求められる鍼灸医療」、サブテーマ「広めよう!信頼と鍼灸効果」、第7回臨床学術学会 第44回日青全国集会 同時開催 於ホテルグランヴィア大阪
 10月7日 平成19年度全国師会長会議 於ホテルグランヴィア大阪
 10月17日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
 10月20～22日 WFAS設立20周年記念2007鍼灸国際シンポジウム(中国・北京) テーマ「鍼灸医学のこれまでと、今後の展望」 於北京五洲大酒店
 10月21日 近畿ブロック会議 於京都ホテルオークラ
 10月24日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
 11月9～11日 NIH(米国立衛生研究所)鍼のコンセンサス形成会議10周年記念鍼研究学会(SAR:Society for upuncture Research)年次会議2007 於アメリカ・ボルチモア
 11月17日 ブロック会長会議 於日本鍼灸会館
 11月25日 奈良県鍼灸師会法人設立50周年記念式典 於奈良春日ホテル
 12月2日～20年2月10日 第11回介護予防運動指導員養成講座 於愛知 参加者40名
 12月19日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省

2008年 (平成20年)

1月 鍼灸医療推進研究会作成の「鍼灸ニュースレター」発行 日鍼会ホームページに掲載、ダウンロード可
 1月27日～3月2日 第12回介護予防運動指導員養成講座 於大阪 参加者30名

1月30日	厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省	7月8日	「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律 第7条第1項第1号」における「施術者である旨」の解釈について、施術者の資格名称に含まれる表現として厚生労働大臣免許と表示することが可能となった
2月	ホームページリニューアル、A4サイズのカラポスターを定期的に作成、会員限定でダウンロード検討	7月13日	全国組織部長・共済部長合同会議、全国青年部長会議 於日本鍼灸会館
2月17日～4月5日	第13回介護予防運動指導員養成講座 於東京 参加者40名	7月20～21日	北陸ブロック会議 於石川県鹿荘ロイヤルホテル
2月27日	厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省	7月23日	厚労省保険局医療課と実務者協議 於厚労省
3月10日	NHKアナウンサーの鍼灸治療によるC型肝炎感染発言についての訪問 於NHK放送センター制作室	8月1日	労災保険施術料金改正 8月1日以降の施術より 初検料 2,250円 時間外加算 650円 休日加算 1,870円 往療料 2キロまで2,230円 はり又はきゅう 1術 2,510円 はり・きゅう 2術 3,940円 はり又はきゅうとマッサージを併用した場合 3,940円 2部位以上の施術は20%加算 電気・光線の器具を使用した場合 550円を加算 休業証明書料 1件につき 2,000円
3月17日	NHKアナウンサーの鍼灸治療によるC型肝炎感染発言について口頭謝罪回答 於NHK放送センター制作室	8月3日	関東ブロック会議 於神奈川県横浜市ナビオス横浜
3月21日	NHKアナウンサーのC型肝炎感染発言の謝罪文をNHK放送センター制作室チーフプロデューサーが持参	8月9日	経絡治療学会夏期大学50周年記念パーティー 於東京ドームホテル
3月30日	日本柔道整復師会設立55周年記念式典・祝賀会 於ザ・プリンスパークタワー東京	8月17日	介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於大阪
3月31日	松本治事務局長が退任	8月27日	鍼灸マッサージ医療推進保険実務者協議 於厚労省
4月1日	新事務局長に金子勝男氏が就任	8月30～31日	九州ブロック会議 於大分県 大分市コンベルホール
4月11～13日	アメリカ鍼灸学会第20回シンポジウム 於ワシントンDC	9月1日	平成20年度全国師会アンケート調査実施
4月29日	大阪府鍼灸師会法人設立45周年記念式典 於ホテル阪急インターナショナル	9月8日	日中平和友好条約締結30周年祝賀レセプション 於ホテルニューオータニ
5月17日	平成20年度通常代議員会 於品川プリンスホテルメインタワー	9月13～14日	北海道ブロック会議 於札幌サンプラザ
5月18日	平成20年度通常総会 於品川プリンスホテルメインタワー	9月13～15日	第28期鍼灸臨床研修会 初めて東京・大阪の2会場同時開催
5月24日	全国病院理学療法協会創立60周年、法人認可40周年	9月14～15日	中国・四国ブロック会議 於広島県東広島市湯村ホテル
5月30～31日	第57回(社)全日本鍼灸学会学術大会、 「WHO標準経穴部位英文公式版」発刊記念 セレモニー 於京都国際会議場	10月1日	政府管掌健康保険が全国健康保険協会(協会けんぽ)に移行した 平成20年度会員実態調査実施
6月1日	保発第0526003号 はり師、きゅう師及びあん摩・マッサージ・指圧師の施術に係る療養費の支給について(通知) 6月1日以降の施術分から適用 1術の場合 1回につき 1,195円(初回のみ 2,330円) 電気針又は電気温灸器を使用した場合 1回につき 1,225円(初回のみ 2,360円) 2術の場合 1回につき 1,495円(初回のみ 2,680円) 電気針又は電気温灸器を使用した場合 1回につき 1,525円(初回のみ 2,710円) 往療料 1,860円 片道2キロを超え8キロまでの場合 2キロ又はその端数を増すごとに、所定金額に800円を加算し、片道8キロを超えた場合については、一律2,400円を加算 片道16キロを超える場合の往療料は往療を必要とする絶対的な理由がある場合以外は認められない	10月11～12日	第4回社団法人日本鍼灸師会全国大会in仙台、第8回臨床学術大会、第45回日青全国集會 於仙台市江陽グランドホテル
6月1日	保医発第0526002号 「はり師、きゅう師及びあん摩・マッサージ・指圧師の施術に係る療養費の支給の留意事項等について」の一部改正について 医師の同意(書)に基づく療養費の支給期間の改正	10月22日	厚生労働省保険局医療課と実務者協議 於厚労省
6月5日	天皇即位20年奉祝委員会設立総会 於グランドプリンスホテル赤坂	10月25～26日	近畿ブロック会議 於シーパル須磨
6月11日	厚生労働省労働基準局労災補償部補償課に、鍼灸マッサージ保険推進協議会から、「労災保険に係る鍼灸・マッサージの算定基準の改正について」の要望書を提出	10月30日	全国健康・体力づくり推進フォーラム2008 テーマ「延ばそう健康寿命! めざそう“生涯元気”」 文部科学省主催の健康・体力づくり事業財団のフォーラム 於東京国際フォーラム
6月14日	セイリン創立30周年記念祝賀会 於静岡市	11月2日	公益社団法人認定申請に関する勉強会 於日本鍼灸会館
6月21～22日	東北ブロック会議 於福島県郡山市・ホテル西小野屋	11月7～9日	WHO創立60周年 WHO伝統医学サミット鍼灸フォーラム、WFASサテライト・シンポジウム 「鍼とヒューマン・ヘルス」、「西暦2000年までにすべての人に健康を」という目標を掲げてプライマリ・ヘルスケアを提唱した「アルマ・アタ宣言」から30年目 於北京Jiuhua Spa & Resort
6月29日	全国普及(広報)部長会議、全国保険部長会議 於日本鍼灸会館	11月9日	千葉県鍼灸師会創立60周年、法人設立30周年記念式典・祝賀会 於京成ホテルミラマレ
7月	「サービス産業動向調査」が7月から毎月実施 総務省統計局ホームページを参照	11月11日	関東ブロック会議 於東京グランドホテル
		11月17日	ブロック会長会議 於日本鍼灸会館
		11月19日	東京オリンピック招致決起集會 於グランドプリンスホテル赤坂

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

11月25日	奈良県鍼灸師会設立50周年記念式典 於春日ホテル	7月12日	全国青年部長会議、全国普及・広報部長会議 於日本鍼灸会館
11月26日	鍼灸マッサージ保険推進協議会実務者協議 於厚労省	7月19日	北陸ブロック会議 於福井県芦原温泉ホテル グランディア芳泉
12月	日鍼会ホームページからカレンダーダウン ロード開始 (会員限定)	7月20日	全国組織部長・共済部長合同会議 於日本鍼 灸会館
12月6日	ブロック会長会議 於日本鍼灸会館	7月28日	東洋はり医学会 於ホテルパシフィック東京
12月7日	全国師会長会議 於日本鍼灸会館	7月29日	厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
2009年 (平成21年)			
1月	広報局普及部企画 「A4サイズのカラーポ スター」 日本鍼灸師会ホームページの「会 員限定」からダウンロード開始	8月9日	関東ブロック会議 大会テーマ「鍼灸師法」、 サブテーマ「みんなで考えよう! これからの 鍼灸」 於千葉京成ホテル・ミラマーレ 福島県鍼灸師会創立60周年記念式典・記念 事業 記念講演 (於郡山市民文化センター) のテーマは「不妊症への西洋医学、東洋医学 からのアプローチ」 記念式典 (於郡山ビュ ーホテルアネックス)
1月11日～2月8日	第14回介護予防運動指導員養成講座 於静岡 参加者33名	8月26日	厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
1月28日	鍼灸マッサージ保険推進協議会実務者協議 於厚労省	9月1日	平成21年度全国師会アンケート調査実施
3月	JICAから、2004年3月にニカラグア (マ ナグア県マナグア市) に開校した、南米唯一 の東洋自然医学士を養成する5年制高等教育 機関においての、ボランティア募集案内 業 務内容: 大学3～5年次の学生に対して東洋 医学の臨床各論を中心とした講義、大学の講 師および西洋医学医師に対して東洋医学の理 解を深める啓発・講座の開講、東洋医学講師 の養成、提携校の生徒・教員に対して東洋医 学の指導、地域保健所からの養成によるマ ナグア市民に対しての東洋医学的な予防医療な どの啓発活動、東洋医学のテキスト作成など	9月5～6日	九州ブロック会議 於崎宮崎宮崎市 ホテ ル・マリックス
3月25日	鍼灸マッサージ保険推進協議会実務者協議 於厚労省	9月6日	神奈川県鍼灸師会創立60周年記念式典・祝 賀会 於横浜ベイシェラトン・ホテル&タ ワーズ
3月28日	第24回経絡治療学会学術大会東京大会	9月12～13日	北海道ブロック会議 於札幌サンプラザ
4月22日	厚生労働省保険局医療課との実務者協議 (通算100回目) 於厚労省	9月20～21日	中国・四国ブロック会議 於愛媛県松山市・ 松山国際ホテル
5月3～10日	第15回介護予防運動指導員養成講座 於岐阜 参加者29名	9月20～22日	第29期鍼灸臨床研修会 東京 (日本鍼灸会 館)・大阪 (森ノ宮医療学園) の同時開催 受講者33名参加
5月13日	保険局医療課との実務者協議 (臨時) 於厚 労省 鍼灸マッサージ保険推進協議会の4団 体所属会員に付与した施術者登録番号のファ イルが、厚生労働省保険局医療課を通じて「地 方厚生局医療指導課」、「都道府県民生主管部 (局) 国民健康保険課 (部)」、「都道府県後期 高齢者医療主管課 (部) 後期高齢者医療主管 課 (部)」に加え、「健康保険組合連合会」、「(社) 国民健康保険中央会」、「全国健康保険協会本 部」にも送付されることになった	9月30日	厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
5月16日	平成21年度代議員会 任期満了による役員 改選 会長は相馬悦孝氏、顧問弁護士に川上 詩朗氏、外部監事に大西美喜男氏を承認 於 メトロポリタンプラザ オフィスタワー	10月	リスクマネジメント委員会から鍼灸臨床にお ける地震対策マニュアル発行
5月17日	平成21年度総会 於メトロポリタンプラザ オフィスタワー	10月1日	平成21年度会員実態調査実施
6月	第30回鍼灸祭 於湯島聖堂講堂 「新型インフルエンザ」に関する対応の案内 文を掲載	10月10日	日本鍼灸師会会員限定販売開始 (セイリンオ リジナルカレンダー)
6月12日	第3回 J S A M 鍼灸国際シンポジウム テーマ「腰痛症に対する鍼灸治療効果のエビ デンスの現状」 参加者310名 於大宮ソニックシティホール	10月11～12日	第5回社団法人日本鍼灸師会全国大会in東京 第9回臨床学術大会、第46回日青全国集会 新しいテーマを掲げて東京で2度目の開催! テーマ「鍼灸だから治せる～21世紀の医 療と鍼灸師～」 会員、鍼灸師、学生あわ せて964名参加 於ホテルメトロポリタンエ ドモント
6月13～14日	第58回全日本鍼灸学会埼玉大会 於大宮ソニックシティホール	10月17日	第37回日本伝統鍼灸学会学術大会 (大阪) 於ホテルコスモスクエア国際交流センター
6月24日	保険局医療課との実務者協議 於厚労省	10月24～25日	近畿ブロック会議 於シティプラザ大阪
6月27～28日	東北ブロック会議 於山形県上山市・ホテル ニュー浪漫館	10月31日～12月27日	第17回介護予防運動指導員養成講座 於兵庫 参加者37名
6月28日	学術局作成の学術講習会ビデオ (DVD) が、 内容に関する放送会社、出版社、個人の著 作権ならびに個人情報などの事情により頒布 終了	11月5～7日	2009年WFAS大会 於フランスストラス ブール EUの欧州議会
7月5日	全国保険部長会議 於日本鍼灸会館 全国学術部長会議 於東医健保会館	11月12日	天皇陛下御即位20年をお祝いする国民祭典 祝賀式典 於皇居前広場
		11月21～22日	第13回統合医学会 於東京大学安田講堂
		11月22日	中部ブロック会議 於名古屋市・サイプレス ガーデンホテル
		11月22～ 22年1月11日	第16回介護予防運動指導員養成講座 於宮城 参加者33名
		11月25日	厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
		11月29日	山形県鍼灸師会創立40周年記念式典・懇親 会 於ニュー村尾浪漫館 埼玉県鍼灸師会創立60周年記念式典・祝賀 会 於パレスホテル大宮
		12月5日	ブロック会長会議 於日本鍼灸会館
		12月6日	全国師会長会議 於日本鍼灸会館 大阪府池 田市における『無資格者による鍼灸治療事故の 報道』に関してホームページにコメントを掲載
		12月17日	厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省

2010年 (平成22年)

- 1月 「日鍼会保障プラン」のWebサイトが開設された
- 1月28日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
- 1月30日 東洋療法学校協会設立25周年記念祝賀会 於グランドプリンスホテル新高輪
- 2月14日 栃木県鍼灸師会創立60周年記念式典 於チサンホテル宇都宮
- 2月24日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
- 2月28日 愛媛県鍼灸師会法人設立30周年記念式典 於にぎたつ会館
- 3月29日 3月29日(月)朝8時から始まるNHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の撮影に、東京都鍼灸師会が協力
- 4月1日 日本鍼灸新報が新しくなった
日鍼会ホームページのトップページが新しくなり、「会員限定ページ」を閲覧するための「ユーザー名」、「パスワード」が変更された
健康保険被保険者証の切り替えが行われ、4月1日以降は旧健康保険証(オレンジ色)の保険証は使用できなくなった
- 4月5日 NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」で、持病のリウマチ…というナレーションとともに施灸シーンが登場した
- 4月14日 鍼灸マッサージ保険推進協議会(日鍼会、全鍼師会、日マ会、日盲連)は、6月に実施される療養費の算定基準の見直しに先立ち、厚生労働省保険局医療課長に要望書を提出
厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
- 4月18日 辻野治孝前副会長告別式 於シティホール泉南
- 4月28日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
- 5月12日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
- 5月15日 平成22年度代議員会 於花田学園東京有明医療大学
- 5月16日 平成22年度総会 於花田学園 東京有明医療大学
社団法人日本鍼灸師会 創立60周年記念式典・公開講座・緊急特別講演・祝賀会 於ホテルグランパシフィック LE DAIBA
第31回鍼灸祭 流派・団体を越えた鍼灸振興の集い 於湯島聖堂講堂
- 5月28日 日本鍼灸師会のけんこう定期便No.1(創刊)
- 5月30日 杉山検校生誕400年記念式典・祝賀会 於すみだ産業会館サンライズホール
- 6月1日 保発0524第4号 はり師、きゅう師及びあん摩・マッサージ・指圧師の施術に係る療養費の支給について(通知) 6月1日以降の施術分から適用
初検料 1術の場合 1,405円
2術の場合 1,455円
施術料 1術の場合 1回につき 1,195円
2術の場合 1回につき 1,495円
電気針、電気温灸器又は電気光線器具を使用した場合は、電療料として 1回につき 30円を加算 往療料 1,860円 片道2キロを超え8キロまでの場合 2キロ又はその端数を増すごとに、所定金額に800円を加算し、片道8キロから16キロまでについては、一律2,400円を加算 片道16キロを超える場合の往療料は往療を必要とする絶対的な理由がある場合以外は認められない
- 6月11～13日 第59回全日本鍼灸学会学術大会(大阪大会) 於大阪国際会議場(グランキューブ大阪)
- 6月21～22日 日中友好協会創立60周年祝賀レセプション 於ホテルニューオータニ
- 6月23日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省

- 6月26～27日 東北ブロック会議 於秋田県たざわこ芸術村・温泉ゆぼぼ
- 7月4日 全国学術部長会議 於東医健保会館
全国保険部長会議 於日本鍼灸会館
- 7月11日 全国普及(広報)部長会議 於日本鍼灸会館
- 7月11日～8月8日 第18回介護予防運動指導員養成講座 於岡山 参加者26名
- 7月18日 全国青年部長会議 於日本鍼灸会館
全国青年部長オリエンテーション
- 7月19日 全国組織部長、共済部長会議、組織局ディスカッション 於日本鍼灸会館
- 7月18～19日 北陸ブロック会議 於宇奈月ニューオータニホテル
- 7月28日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
- 8月20日 平成22年8月20日付けで内閣府公益認定等委員会から内閣総理大臣に対し、日本鍼灸師会を公益法人として認定するよう答申が出された
- 8月26日 平成22年8月26日付けで日本鍼灸師会宛てに内閣総理大臣より認定書の交付を受けた
- 8月29日 関東ブロック会議 テーマ「急がれる日本鍼灸の創生」 於茨城県つくば市ホテルグランド東雲
- 9月1日 平成22年9月1日付で『公益社団法人 日本鍼灸師会』として生まれ変わった
鍼灸マッサージ保険推進協議会(4団体)では、9月以降の申請には統一様式を使用することになった
平成22年度全国師会アンケート調査実施
- 9月4～5日 中部ブロック会議 於松本市・松本東急イン
- 9月18～20日 第30期鍼灸臨床研修会
- 10月1日 平成22年度会員実態調査実施
- 10月10～11日 第6回公益社団法人日本鍼灸師会全国大会 in 京都、第10回臨床学術大会、第47回日青全国集会 テーマ「鍼灸が効く!だから治せる」
一伝統医療の真価を発揮して一 呈茶セレモニー、懇親会(新・都ホテル)、府民公開講座 於京都テルサ(京都府民総合交流プラザ内)
- 10月24日～11月28日 第19回介護予防運動指導員養成講座 於山梨 参加者23名
- 11月6～7日 WFAS(世界鍼灸学会連合会)2010米国国際鍼灸学会 於Hyatt Regency San Francisco Airport Hotel
- 11月7日 宮城県鍼灸師会法人設立60周年記念式典 於仙台市江陽グランドホテル
- 11月10日 公益法人会計20年度基準設定会議 於日本鍼灸会館
- 11月17日 協会健保施術及び4団体統一様式取扱、同意書交付協議(全国健康保険協会、国民健康保険中央会、全国保険医団体連合会)
- 11月22日 明治国際医療大学附属統合医療センター開所式、記念講演会、祝賀会 於京都エミナース
- 11月24日 厚労省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
- 11月26日 生涯研修検討委員会 於東洋療法研修試験財団
- 12月5日 全国師会長会議 於日本鍼灸会館
- 12月22日 第122回実務者協議 於厚生労働省保険局医療課
毎日社会福祉顕彰点字毎日文化省並びに鳩保己一賞受賞者合同祝賀会 於アルカディア市ヶ谷
広報誌(けんこう定期便No.6)インタビュー 於キャピトルホテル東急
- 12月26日

2011年 (平成23年)

- 1月9日～2月13日 第20回介護予防運動指導員養成講座in福島 於郡山国際メディカルテクノロジー専門学校・ミナト医科学仙台営業所
- 1月22日 第3回役員研修会「伝統を未来につなげる鍼灸を活用した日本型医療の創生」 於日本鍼灸会館

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

1月26日	第123回実務者協議 於厚生労働省保険局医療課	9月18～19日	中国・四国ブロック会議 於高松国際ホテル 中部ブロック会議 於岐阜市じゅろく
1月30日	第1回近畿ブロック会鍼灸師法専門チーム協議 於大阪府鍼灸師会館	9月24～25日	近畿ブロック会議 於奈良万葉若草の宿三笠
2月13日	第1回臨床鍼灸スポーツフォーラムin名古屋 於名古屋国際会議場	9月28日	第131回実務者協議 於厚生労働省保険局鍼灸マッサージ保険推進協議会4団体長会議 於日本鍼灸会館
2月20日	第17回近畿ブロック保険部長会議 於大阪府鍼灸師会館	10月9～10日	第7回全国大会in北海道（第11回臨床学術大会・第48回日青全国集会） テーマ「北の大地で拓く鍼灸の真価—安心・安全・人にやさしい医療—」 於札幌サンブラザ
2月20日～4月3日	第21回介護予防運動指導員養成講座 於大阪府鍼灸師会館・明治東洋医学院 1回目2月20日、2回目3月6日、3回目3月20日、4回目3月21日、5回目4月3日	10月16日～11月27日	第23回介護予防運動指導員養成講座in東京 於日本鍼灸会館・ミナト医科学東京営業所 1回目10月16日、2回目10月23日、3回目10月30日、4回目11月13日、5回目11月27日
2月23日	第124回実務者協議 於厚生労働省保険局医療課	10月26日	第132回実務者協議 於厚生労働省
3月11日	東北地方太平洋沖地震	10月30日	三重県鍼灸師会創立50周年記念式典・記念講演・祝賀会 於四日市都ホテル
3月30日	東北地方太平洋沖地震被災師会への義援金協力要請	11月3～20日	第22回介護予防運動指導員養成講座in新潟 於新潟市総合福祉会館・新潟県健康づくりスポーツ医科学センター 1回目11月3日、2回目11月5日、3回目11月6日、4回目11月19日、5回目11月20日
4月10日	介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於兵庫県鍼灸会館	11月13日	兵庫県鍼灸師会法人設立60周年記念式典 於ホテル北野ブラザ六甲荘
4月24日	介護予防スキルアップ研修 於日本鍼灸会館	11月20日	石川県鍼灸師会創立30周年記念式典 於クラウンプラザホテル金沢
4月27日	第126回医療課保険実務者協議 於厚生労働省 鍼灸マッサージ保健推進協議会4団体長会議 於日本鍼灸会館	11月23日	茨城県鍼灸師会創立60周年記念式典 於水戸京成ホテル
5月4日	臨時東北ブロック被災師会会長会議 於JALCITY仙台	12月2日	第2回臨床鍼灸スポーツフォーラム 於名古屋国際会議場
5月15日	杉山検校を偲ぶ会・第81回大祭 於江島杉山神社	12月4日	医道の日本社緊急トップ座談会 於医道の日本社
5月25日	介護予防主任運動指導員フォローアップ研修 於長寿医療センター 第127回医療課保険実務者協議 於厚生労働省	12月9日	全国師会会長会議・学術講習会60周年記念式典及び記念公開講座（人に優しい鍼灸医療—医療機関と鍼灸の連携の時代—） 於グランプリンスホテル新高輪
5月26日	細川厚生労働大臣訪問 於厚生労働省	12月11日	日本の医療を守るための総決起大会 於日本医師会館
6月7日	日本統合医療学会賛助会・分科会合同会議 於一ツ橋学士会館	12月12日	東北ブロック会療養費適正運用化会議 於ホテルJALシティ仙台
6月16日	全国健康保険協会との協議 於全国健康保険協会部		医療扶助協議 於厚生労働省社会援護局保護課
6月19日	第60回全日本鍼灸学会学術大会共催第39回日本伝統鍼灸学会学術大会 於東京有明医療大学		
6月25～26日	東北ブロック会議 於三沢シティーホテル		
6月29日	第128回医療課保険実務者協議 於厚生労働省 鍼灸マッサージ保健推進協議会4団体長会議 於日本鍼灸会館		
7月2～3日	九州ブロック会議 於沖縄レインボーホテル		
7月3日	全国学術部長会議 於日本鍼灸会館		
7月10日	全国普及・広報部長会議 於日本鍼灸会館 全国保険部長会議 於東医健保会館 長野県鍼灸師会創立60周年記念式典 於メトロポリタン長野		
7月17～18日	北陸ブロック会議 於越後湯沢ホテル		
7月21日	東洋療法研修試験財団臨時評議員会 於KKR東京		
7月27日	厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省		
7月30日	全国青年部長会議、シンポジウム（東日本大震災）、青年オリエンテーション 於日本鍼灸会館		
7月31日	全国組織・共済・青年合同研修会、全国組織・共済部長会議 於日本鍼灸会館		
8月3日	東日本大震災に係る鍼灸療養費支給の取扱いについて協議 於厚生労働省保険局医療課		
8月4日	鍼灸師の機能訓練指導員参入要望 於衆議院会館		
8月17日	療養費支給申請の取扱い 於厚生労働省		
8月21日	関東ブロック会議 於日光千姫物語		
8月31日	第130回厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省		
9月11日	北海道ブロック会議 於札幌サンブラザ		
2012年（平成24年）			
1月23日	日本統合医療学会合同分科会・賛助の会 於東京大学	1月23日	日本統合医療学会合同分科会・賛助の会 於東京大学
1月25日	第135回医療課保険実務者協議 於厚生労働省	1月25日	第135回医療課保険実務者協議 於厚生労働省
2月3日	第2回鍼灸医療プレスセミナー 於呉竹学園四谷校	2月3日	第2回鍼灸医療プレスセミナー 於呉竹学園四谷校
2月12日	スキルアップ研修会in福島 於国際メディカルテクノロジー専門学校	2月12日	スキルアップ研修会in福島 於国際メディカルテクノロジー専門学校
2月16日	第136回医療課保険実務者協議(臨時) 於厚生労働省 療養費の適正運用について 於健康保険組合連合会	2月16日	第136回医療課保険実務者協議(臨時) 於厚生労働省 療養費の適正運用について 於健康保険組合連合会
2月22日	療養費適正運用に関する協議 於全国健康保険協会	2月22日	療養費適正運用に関する協議 於全国健康保険協会
2月26日	スキルアップ研修会in岐阜 於岐阜市文化産業交流センター	2月26日	スキルアップ研修会in岐阜 於岐阜市文化産業交流センター
2月26日	近畿ブロック会保険部長会議	2月26日	近畿ブロック会保険部長会議
2月29日	第137回医療課保険実務者協議 於厚生労働省保険局医療課	2月29日	第137回医療課保険実務者協議 於厚生労働省保険局医療課
3月4日	関東ブロック保険部長会議 於日本鍼灸会館	3月4日	関東ブロック保険部長会議 於日本鍼灸会館
3月17日	第37回日本東洋医学系物理療法学会学術大会・総会懇親会 於東京有明医療大学	3月17日	第37回日本東洋医学系物理療法学会学術大会・総会懇親会 於東京有明医療大学
3月25日	中部ブロック会保険会議 於松本東急イン	3月25日	中部ブロック会保険会議 於松本東急イン
3月28日	第138回医療課保険実務者協議 於厚生労働省	3月28日	第138回医療課保険実務者協議 於厚生労働省

4月4日	第139回実務者協議 於厚生労働省医療課	11月3日	わくわく子供ふぉーらむ青年部合同事業 於朝日医療専門学校岡山校
4月13日	第140回実務者協議 於厚生労働省医療課	11月15日	第8回国民医療推進協議会総会 於日本 医師会館
4月16日	日本統合医療学会 於東京大学山上会館	11月25日	奈良県師会設立55周年記念式典 於ホテル フジタ奈良
4月18日	第141回実務者協議 於厚生労働省医療課	11月28日	意見交換会 於厚生労働省社会・援護局援 護課、労働基準局総務課、保険局医療課
4月25日	第142回実務者協議 於厚生労働省医療課	12月2日	全国師会長会議 於日本鍼灸会館
5月9日	第143回実務者協議 於厚生労働省	12月 8～9日	第16回日本統合医療学会 於大阪大学コン ベンションセンター・体育館
5月20日	第82回杉山検校を偲ぶ会 於江島杉山神社	12月21日	国民医療を守るための総決起大会 於日本 医師会館
5月23日	第144回実務者協議 於厚生労働省	12月23日	日本理療科教員連盟創立60周年記念式典 於筑波大学東京キャンパス文京校舎
5月23日	日本神経学会学術大会公開シンポジウム 於慶應義塾大学三田キャンパス		
6月2日	4団体長会議 於東京都盲人福祉センター	2013年（平成25年）	
6月8日	第61回全日本鍼灸学会学術大会、国民の ための鍼灸医療推進機構第2回運営委員会 於四日市市文化会館	1月20日	杉山検校遺徳顕彰会「春の交流会」 於江島 杉山神社
6月23日	東北ブロック会議in岩手 於花巻温泉ホテ ル千秋閣	1月23日	第152回実務者協議 於厚生労働省 鍼灸マッサージ保険推進協議会 於日本鍼灸 師会館
7月1日	全国学術部長会議 於日本鍼灸会館 山梨県師会法人設立30周年記念式典 於ホ テルベルクラシック甲府	2月3日	滋賀県師会設立40周年記念式典 於ホテル ニューオウミ
7月8日	全国広報・普及部長会議 於日本鍼灸会館 全国保険部長会議	2月17日	浜田暁先生藍綬褒章受章祝賀会 於シティブ ラザ大阪
7月10日	ハワイ大学ハミルトン図書館へ第30回、50 回、60回記念誌を献本	2月24日	近畿ブロック保険部長療養費適正運用会議 於大阪府鍼灸師会館
7月14日	全国青年部長会議、青年オリエンテーショ ン 於日本鍼灸会館	2月27日	第153回医療課実務者協議 於厚生労働省
7月15日	全国組織・共済部長会議—於日本鍼灸会館	3月3日	介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於 京都医療専門学校
7月16日	第3回臨床鍼灸スポーツフォーラム 於 WINC AICHI	3月4日	関東ブロック保険部長療養費適正運用会議 於日本鍼灸師会館
7月17日	地域ケア政策ネットワーク総会 於ホテル グランドヒル市ヶ谷	3月7日	第154回実務者協議 於厚生労働省
7月19日	厚生労働省老健局・健康局との協議 於厚 労省老健局	3月11日	鍼灸マ保険推進協議会4団体長会議 於参議 院議員会館
7月25日	第1回保険局医療課との意見交換会 於厚 生労働省	3月15日	東日本大震災2周年追悼式 於国立劇場
8月4日	北陸ブロック会議 於ANAクラウンプラザ ホテル金沢	3月24日	第155回実務者協議 於厚生労働省
8月5日	福島県師会夏季学術講習会 於郡山市市民 交流プラザ	3月27日	日本柔整師会法人設立60周年記念式典・祝 賀会 於東京ドームホテル
8月19日	富山県鍼灸マッサージ師会との協議 於富 山県鍼灸マッサージ師会館	3月28日	第156回実務者協議 於厚生労働省
8月22日	関東ブロック会議 於ホテルメトロポリタ ン高崎	3月28日	健康日本21推進全国連絡協議会総会 於法 曹会館
8月25日～9月30日	第2回意見交換会 於厚労省保険局医療課	4月4日	鍼灸マ保険推進協議会4団体長及び実務者と の協議 於参議院議員会館
9月1～2日	第24回介護予防運動指導員養成講座in山口 於山口県セミナーパーク 1回目8月25日、2回目8月26日、3回目9月8 日、4回目9月9日、5回目9月30日	4月24日	第157回実務者協議 於厚生労働省
9月4日	九州ブロック会議 於熊本交通センターホ テル	5月14日	鍼灸マッサージ保険推進協議会、日本医師会 公益社団法人移行記念祝賀会 於帝国ホテル
9月4日	4団体長と実務者協議 於日本鍼灸会館	5月15日	鍼灸保険取扱いについて 於厚生労働省
9月5日	鍼灸マを考える国会議員の会小委員会4団 体長勉強会於自由民主党本部	5月18日	全国病院理学療法協会創立65周年・法人認 可50周年記念式典・祝賀会 於日本教育会 館
9月8日	北海道ブロック会議 於札幌サンプラザ	5月22日	第158回医療課実務者協議 於厚生労働省
9月20日	4団体長及び実務者との協議 於全鍼師会	5月26日	大阪府師会創立50周年記念式典・祝賀会 於シティプラザ大阪
9月22～23日	中部ブロック会議 於静岡バルシェ	5月31日	あはき等法推進協議会、鍼灸日本委員会 於 全鍼師会
9月29～30日	近畿ブロック会議 於滋賀クレフィール湖 東	6月7日	全日学学術大会福岡大会開会式 於アクロス 福岡
10月7～8日	第8回日本鍼灸師会全国大会「国民の健康 に貢献する鍼灸医療—現代医療の一翼を担 う鍼灸—」、青年委員会 於大宮ソニックシ ティ	6月8日	全日学公益社団法人移行記念式典及び第62 回学術大会九州大会懇親会 於ホテルニュー オータニ博多
10月19～20日	第2回JIMTEF災害医療研修コース 於国立 災害医療センター	6月12日	鍼灸保険取扱いについて要望書提出 於厚労 省労災補償部
10月21日～11月11日	第25回介護予防運動指導員養成講座 於京 都医健専門学校 1回目10月21日、2回目10月28日、3回目11 月3日、4回目11月4日、5回目11月11日	6月15日	WHO元事務局局長中嶋宏先生を偲ぶ会 於ホ テルオークラ東京
10月24日	意見交換会 於厚労省保険局医療課	6月22～23日	東北ブロック会議 於江陽グランドホテル

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

6月26日	(公財)国際医療技術財団医療関連職種21団体協議会於KKRホテル東京	10月23日	厚生省労働基準局労災補償課との協議 於厚生労働省
6月30日	第159回医療課実務者協議 於厚生労働省	10月30日	国民医療推進協議会総会 於日本医師会館
7月7日	全国学術部長会議 於日本鍼灸師会館		第4回「あはき法」意見協議会 於厚生省医政局医事課
7月14日	全国保険部長会議 於日本鍼灸師会館	11月10日	沖縄県師会療養費等適正運用講習会 於沖縄統合医療学院
	全国広報・普及部長会議 於日本鍼灸師会館	11月16日	早稲田医療学園創立60周年記念祝賀会 於大宮パレスホテル
	介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於山口・セミナーパーク	11月17日	第5回日鍼会青年コラボ事業in福島 於郡山市民交流プラザ
7月14～15日	北陸ブロック会議 於福井・グランディア芳泉	11月20日	第5回「あはき法」意見協議会 於厚生省医政局医事課
7月16日	福祉自治体ユニット・地域ケア政策ネットワーク合同	11月24日	大阪府師会設立50周年記念事業府民公開講座、第4回臨床鍼灸スポーツフォーラム 於ホテルグランヴィア大阪
	総会 於ホテルグランドヒル市ヶ谷	11月27日	第164回実務者協議 於厚生労働省医療課
7月19日	第3回あはき等法推進協議会 於全鍼師会	12月1日	4団体長会 於日本鍼灸師会館
7月21日	全国組織・共済部長会議 於日本鍼灸師会館	12月6日	全国師会長対応協議会、健保委員会、全国師会会長会議、
7月24日	あはき法意見交換 於厚生省医政局医事課	12月8日	国民医療を守るための総決起大会 於日比谷公会堂
	第160回医療課実務者協議、沖縄県後期高齢者医療広域連合の件協議 於厚生省保険局高齢者医療課	12月10日	機能訓練指導員の要望書提出 於厚生労働省老健局
7月25日	平成25年度第1回健康寿命をのぼそう！サロン 於電通ホール	12月18日	土橋和明先生叙勲受章記念祝賀会 於甲府湯村常盤ホテル
7月30日	平成25年度第1回介護予防主任運動指導員フォローアップ研修 於東京都健康長寿医療センター研究所	12月22日	4団体長会議 於ラポール麹町
	「2025年に向けた新しい地域づくり」シンポジウム 於メルパルク仙台		社会援護局保護課との協議、第165回実務者協議、4団体長会議、第6回あはき法意見協議会 於厚生労働省
7月31日	4団体長会議 於日本鍼灸師会館		第17回日本統合医療学会 於日本赤十字看護大学
8月1日	沖縄県福祉保健部と協議 於沖縄県庁	2014年（平成26年）	
8月4日	関東ブロック会議 於さいたま市・清水園	1月13日～2月23日	第27回介護予防運動指導員養成講座 於横浜市技能文化会館
8月18日	青年委員会と各師会との合同事業 於金沢医療技術専門学校		1回目1月13日、2回目1月19日、3回目2月11日、4回目2月16日
8月28日	第161回医療課実務者協議、あはき法の問題点と疑問点の協議 於厚生労働省		5回目2月23日 於ミナト医科学(株)横浜営業所
8月31日～9月1日	九州ブロック会議 於長崎ワシントンホテル	1月15日	4団体長会議 於日本鍼灸師会館
9月3日	日本統合医療学会賛助会員情報交換会 於日本赤十字看護大学広尾キャンパス		「あはき法」意見協議会 於厚生省医政局医事課
9月7～8日	北海道ブロック会議 於札幌サンプラザ	1月22日	労省社会援護局保護課との協議、第166回医療課実務者協議 於厚生労働省
9月8日	介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於三重県鍼灸会館	1月26日	杉山検校平成26年春の交流会 於江島杉山神社本殿
9月10日	鍼灸マを考える国会議員の会衛藤先生との勉強会 於港区赤坂うまや	2月2日～3月21日	第28回介護予防運動指導員養成講座 於明治東洋医学院専門学校
9月14～16日	鍼灸臨床研修会 於東京・日本鍼灸会館、大阪・森ノ宮医療学園		1回目2月2日、2回目2月11日、3回目2月16日、4回目3月2日、5回目3月21日
9月14～22日	第26回介護予防運動指導員養成講座 於新潟市総合福祉会館	2月12日	あはき法意見協議会 於厚生省医政局医事課
	1回目9月14日、2回目9月15日、3回目9月16日、4回目9月21日、5回目9月22日	2月26日	第167回実務者協議 於厚生労働省
9月15～16日	中国・四国ブロック会議 於岡山・サン・ピーチOKAYAMA		4団体長会議 於日本鍼灸師会館
9月22～23日	中部ブロック会議 於山梨・甲府ホテル	2月28日	ボーイスカウト世界ジャンボリーの鍼・灸・柔整紹介コーナー出展協議 於ボーイスカウト日本連盟本部
9月25日	あはき法意見協議会、第162回実務者協議 於厚生労働省	3月1～2日	第16回日本在宅医学会大会浜松大会 於グランドホテル浜松
	今後あはき問題の進め方打ち合わせ 於参議院会館	3月5日	JIMTEF災害医療研修アドバンスコース 於(独法)国立病院機構災害医療センター
9月28～29日	近畿ブロック会議 於三重・プラトンホテル四日市	3月9日	介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於日本鍼灸師会館/池袋サンシャイン文化会館
10月9日	藤川日本医師会常任理事との意見協議会 於日本医師会	3月11日	東日本大震災3周年追悼式 於国立劇場
	鍼灸マッサージを考える国会議員の会 於参議院議員会館	3月19日	第1回消費税転嫁対策特別措置法の転嫁・表示カルテル説明 於厚生労働省
10月12日	全国青年部長会議・第50回日青全国集会記念事業 於岡山コンベンションセンター	3月22～23日	九州ブロック保険会議 於大分県師会事務所
10月13～14日	第9回日鍼会全国大会inおかやま「きぼう…未来へ!～宇宙に向けた鍼灸」 於岡山コンベンションセンターマカリアフォーラム	3月26日	生活保護取扱協議、第168回医療課実務者協議 於厚生労働省
10月14日	第16回日本在宅医学会大会日鍼会の参加組協議 於静岡県浜松市・坂の上ファミリークリニック		

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

3月30日	介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於森ノ宮医療学園専門学校 平成25年度第1回日本経絡経穴研究会運営委員会 於東京医療専門学校	7月27日	青年コラボ事業お灸フェス全国ツアー 2014 於マルヤガーデン鹿児島
4月1日	あはき療養費の改定 はり・きゅう ・初検料1術1610円 (+100円)、初検料2術1660円 (+100円) ・施術料1術1270円 (+40円)、施術料2術1510円 (+10円) あん摩・マッサージ指圧 ・マッサージ275円 (+5円)、変形徒手強制術565円 (+10円)、温電法80円 (+5円)	7月28日	第2回老人保健課協議 於厚生労働省
4月9日	鍼灸マッサージを考える国会議員の会議員総会 於自民党本部	7月29日	日本医師会新執行部披露パーティ 於帝国ホテル東京
4月16日	国民のための鍼灸医療推進機構運営委員会団体長会議 於医道の日本社東京支社	8月2日	関東ブロック正副会長意見交換会 於ロマーノ
4月23日	第169回実務者協議、4団体長会議(保険医療企画調査室長と面談) 於厚生労働省	8月3日	関東ブロック会議 於ホテルベルクラシック東京
4月27日	岡山県師会公益社団法人移行記念祝賀会 於岡山プラザホテル	8月13日	厚労省医政局医事課訪問 於霞が関・桂
5月14日	第10回国民医療推進協議会総会 於日本医師会館 あはき等法推進委員会 於全鍼師会	8月25日	NHKおはよう日本取材対応
5月17日	鍼灸学術団体協議会 於愛媛・ひめぎんホール	8月27日	第174回実務者協議 於厚生労働省 4団体長会議 於参議院会館
5月18日	杉山検校生誕400年記念事業実行委員会 於江島杉山神社本殿	8月30～31日	九州ブロック会議 於佐賀アバンセ
5月21日	定款改正に関する協議 於内閣府公益認定等委員会 第9回あはき法意見協議会 於厚生労働省医政局医事課	9月5日	医道審議会あはき分科会 於厚生労働省
5月26日	平成26年度第1回協議 於厚生労働省老人保健課	9月6～7日	北海道ブロック会議 於札幌サンプラザ
5月28日	生活保護法改正についての協議、厚労省労働基準局労災補償課との協議、第170回実務者協議 於厚生労働省 4団体長会議 於霞が関周辺	9月14日	第17回日本在宅医学会もりおか大会 於東日本ホテル盛岡
5月29～31日	第67回全国盲人福祉大会 於ホルトホール大分[祝電対応]	9月14～15日	中国・四国ブロック会議 於ホテルサンシャイン徳島アネックス館
6月1日	介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於宮城産業プラザセミナールーム	9月15日	卒後・フォローアップセミナー 於日本鍼灸師会館
6月18日	第171回実務者協議、第10回あはき法意見協議会、統合医療情報発信サイト打合せ 於厚生労働省	9月17日	第11回全国大会in神奈川実行委員会 於パシフィコ横浜 第12回あはき法意見協議会 於厚生労働省
6月21～22日	東北ブロック会議、福島県師会創立60周年記念式典 於スマイルホテル郡山	9月18日	第3回老人保健課協議 於厚生労働省
6月22日	神奈川衛生学園専門学校横須賀新校舎ご案内会 於神奈川衛生学園	9月20～21日	中部ブロック会議 於諏訪RAKO華乃井ホテル
6月25日	医療関連職種21団体協議会 於都道府県会館 第172回実務者協議 於厚生労働省 要望書提出 於厚生労働省老人保健課	9月22日	医政局医事課意見協議 於厚生労働省
6月29日～7月27日	第29回介護予防運動指導員養成講座 於静岡リヴ・レーダ(株) 1回目6月29日、2回目7月6日、3回目7月13日、4回目7月20日、5回目7月27日	9月24日	第175回実務者協議 於厚生労働省
7月11～12日	日本骨盤底医学会弘前大会 於ベストウェスタンホテルニューシティ弘前	9月27～28日	近畿ブロック会議 於京都・御所西京都平安ホテル
7月17日	公益法人の役員等の役割と責任についてのセミナー 於日本消防会館	9月28日	杉山検校鍼に感謝する集い(第35回鍼供養) 於墨田弥勒寺
7月20～21日	北陸ブロック会議 於新潟・蓬平温泉和泉屋	10月10日	JIMTEF災害医療研修コース準備委員会 於TBRビル 東京オリンピック・パラリンピック第1回顧問会議、1964東京オリンピック・パラリンピック50周年記念祝賀会 於パレスホテル東京
7月21日～9月7日	第30回介護予防運動指導員養成講座 1回目7月21日、2回目7月27日 於大阪医療技術学園専門学校 3回目8月3日 於ミナト医科学(株)大阪営業所 4回目8月31日 於大阪府鍼灸師会館 5回目9月7日 於大阪医療技術学園専門学校	10月12～13日	第10回日鍼会全国大会in岐阜「地域医療に貢献する鍼灸医療～鍼灸医療の特性と統合医療」 於じゅうろくプラザ
7月23日	第173回実務者協議 於厚生労働省 第11回あはき法意見協議会 於厚労省医政局医事課	10月13日	部長会議全体会議、全国保険部長会議、全国組織共済部長会議、全国青年部長会議、全国学術部長会議、全国広報普及部長会議 於じゅうろくプラザ
		10月15日	第13回あはき法意見協議会 於厚生労働省
		10月22日	国保中央会との協議 於全国町村会館 第176回実務者協議 於厚生労働省
		10月25～26日	東海北陸保険会議 於ホテルフジタ福井
		10月29日	第11回国民医療推進協議会総会 於日本医師会館
		10月31日	第4回老人保健課協議 於厚生労働省
		11月3日	第40回記念大会現代医療鍼灸臨床研究会 於東京大学鉄門記念講堂 杉山検校遺徳顕彰会和久田様ご夫妻受賞祝賀会 於ホテルベルグランデ
		11月12日	第14回あはき法意見協議会 於厚生労働省
		11月14日	第177回臨時実務者協議 於厚生労働省
		11月15～16日	第4回JIMTEF災害医療研修ベーシックコース 於(独法)国立病院機構災害医療センター
		11月16日	第5回臨床鍼灸スポーツフォーラム 於ホテルメトロポリタン長野 福岡県師会創立100周年記念式典・祝賀会 於ホテルニューオータニ博多
		11月18日	スマート・ライフ・プロジェクト(S・L・P) 第3回健康寿命をのばそう!アワード表彰式 於都市センターホテル

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

11月20日	(一財)渥美和彦記念未来健康医療財団第3回公開シンポジウム 於都道府県会館	8月9日	お灸フェスin北海道「お灸カフェ&トークショー」 於スパニッシュレストラン チャバダ
11月23日	青年コロナ事業in徳島 於徳島ふれあい健康館	8月20～30日	九州ブロック会議 於(一社)福岡市鍼灸師会館
11月26日	第178回実務者協議 於厚生労働省	8月26日	厚生労働省医政局医事課との打合せ、第23回あはき意見交換会 於厚生労働省
11月30日	第23回日本刺絡学会学術大会 於森ノ宮医療学園専門学校 全国師会会長会対応協議会、全国師会会長会議 於日本鍼灸師会館	8月30日	第6回臨床鍼灸スポーツフォーラムin北海道 於札幌サンプラザ「お灸フェス全国ツアー2015inヨコハマ」～カラダをもっと楽しもう!～ 於さくらworks
12月5日	第4回老人保健課協議 於厚生労働省	9月6日	北海道ブロック会議 於札幌サンプラザ
12月17日	第179回実務者協議、第15回あはき法意見協議会、保険局医療課との意見交換会 於厚生労働省	9月7日	医道審議会あはき師及び柔道整復師分科会 於厚生労働省
2015年 (平成27年)			
1月6日	セイリン株式会社と意見交換 於四日市たちばな	9月13日	「もし鍼灸師がコンディショニングについて考えたら」 於福井県地域交流会館AOSSA
1月21日	第16回あはき法意見協議会 於厚生労働省	9月13～14日	茨城県常総市豪雨被害状況の情報収集および医療ボランティアの交渉 於つくばみらい市総合運動公園市災害対策本部
1月28日	4団体長会議 於日本鍼灸師会館 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省	9月16日	厚生労働省医政局医事課との打合せ、厚生労働省保険局医療課実務者協議 於厚生労働省
2月	平成18年度～平成24年度の療養費の取扱い推移(推計)が厚生労働省より公表される 第3弾「地域包括ケアシステムと介護予防」が完成	9月19～21日	日本医師会会長との打合せ 於日本医師会館 第35期 鍼灸臨床研修会「本物の臨床家」を目指そう! 於中野健康医療専門学校
2月14日	JIMTEF災害医療研修 於国際協力機構東京国際センター	9月20日	第2回「卒後フォローアップセミナー」開催 於中野健康医療専門学校
2月23日	厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省	9月20～21日	中国・四国ブロック会議 於高知共済会館
2月25日	厚生労働省保険局医療課との実務者協議 あはき法意見協議会 於厚生労働省	9月30日	第24回あはき意見協議会、老健局定期協議、保険局長・審議官と面談 於厚生労働省
3月22日	お灸フェスin福島「お灸カフェ」於21世紀記念公園麓山の森	10月3～4日	近畿ブロック会議 於ホテル北野プラザ六甲荘
3月25日	厚生労働省保険局医療課との実務者協議 第18回あはき法意見協議会 於厚生労働省	10月31日	第11回全国大会 in 神奈川 日本鍼灸師会創立65周年記念式典 基調講演「スポーツと自律神経」 於パシフィコ横浜 記念祝賀会 於横浜港ディナークルーズ 日本鍼灸師会青年委員会「学生交流会」認知症の人に対する鍼灸治療の実際と可能性 於横浜市野毛地区センター
4月15日	第19回「あはき法」意見協議会 於厚生労働省	11月1日	第11回全国大会 in 神奈川 「鍼灸の今がわかる!～人気治療から経営まで～」 日本鍼灸師会創立65周年記念公開講座「活力の正体は自律神経!?」 於パシフィコ横浜 全国各部会長会議(学術・保険・組織共済・青年・広報普及) 於パシフィコ横浜
4月22日	国土交通省保証制度参事官室表敬訪問 於厚生労働省 厚生労働省社会援護局保護課表敬訪問、厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省	11月14日	大分県鍼灸師会創立100周年記念式典・前夜祭 於大分市トギハ会館、うを清
5月15日	厚生労働省保険局医療課との実務者協議	11月22日	東海北陸陸保険会議 於岐阜県ホテルグランパール岐山 学校法人明治東洋医学院創立90周年記念式典及び祝賀会 於京都ホテルオークラ
5月27日	厚生労働省保険局医療課との実務者協議・第20回「あはき法」意見協議会 NHKぎょうの健康4月号「C型肝炎感染原因に鍼灸治療との掲載」への抗議(NHK出版ぎょうの健康編集室)	11月22～23日	中部ブロック会議 於KKRホテル名古屋
5月28日	第1回老健局老人保健課と定期協議 於厚生労働省	11月23日	厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省
6月7日	定時代議員総会開催 役員選挙また理事21名以上24名内から18名以上21名以内に定款変更	11月29日	ブロック会会長会議 全国師会会長会議 於日本鍼灸師会館
6月24日	厚生労働省保険局との実務者会議、第21回あはき意見協議会 於厚生労働省	12月4日	健康日本21推進全国連絡協議会第1回分科会 於日本医師会館 厚生労働省保健医療2035シンポジウム 於京都大学百周年時計台記念館
6月27～28日	東北ブロック会議 於天童温泉滝の湯ホテル	12月13日	香川県鍼灸師会創立40周年・法人設立25周年記念式典 於高松国際ホテル けんこう定期便No.24取材 於四日市都ホテル・新大阪駅ビル
7月6日	厚生労働省老健局老人保健課長会議 於厚生労働省	12月16日	第191回厚生労働省保険局医療課実務者協議 於厚生労働省 4団体長会議 於日本盲人福祉センター
7月11日～8月9日	第32回介護予防運動指導員養成講座 於専門学校ユマニテク医療福祉大学校、デイサービス菜の花 1回目7月11日、2回目7月12日、3回目7月19日、4回目7月20日、5回目8月9日	12月21日	厚生労働省老健局老人保健課との定期協議 於厚生労働省
7月20～21日	北陸ブロック会議 於ホテル金沢	12月23日	JIMTEF災害医療研修アドバンスコース 於JICA東京
7月22日	4団体長会議 於当会館・参議院議員会館 第22回あはき意見協議会 於厚生労働省 第23回世界スカウトジャンボリー in 山口(鍼灸体験) 於山口県きらら浜	12月24日	厚生労働省医政局医事課あはき意見協議会 於厚生労働省
8月2日	関東ブロック会議 於ナビオス横浜		
8月3日	第2回あはきに係る療養費に関する意見交換 於厚生労働省		

2016年 (平成28年)

1月6日 厚生労働省新年挨拶回り 於厚労省
 1月10～11日 JIMTEF災害医療研修ベーシックコース 於JICA東京
 1月18日 第1回あはき師学校養成施設カリキュラム等改善委員会 於厚労省
 1月20日 ヘルスケア産業課とグレーゾーン解消制度による照会の会議 於経産省 4団体長会議、経産省発出の「グレーゾーン解消制度」について、医政局医事課と確認の打合せ会議 於厚労省
 1月25日 医道審議会・あはき師及び柔道整復師分科会 於厚労省
 1月26日 統合医療展セミナーにて講演 於東京ビッグサイト
 1月27日 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
 1月31日 お灸フェスin群馬「お灸カフェ &健康ツボ体操」 於芭蕉苑きつちャコ
 2月7日 介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於国際メディカルテクノロジー専門学校
 2月21日 JIMTEF災害医療研修アドバンスコース 於JICA東京
 近畿ブロック保険部長会議 於大阪府鍼灸師会館
 2月24日 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
 3月 平成19年度～平成25年度 厚生労働省 療養費の取扱い推移公表
 3月6日 介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於朝日医療専門学校
 3月7日 厚生労働省医政局医事課との打ち合わせ 於厚労省
 3月11日 東日本大震災5周年追悼式 於国立劇場
 3月12～13日 近畿ブロック青年委員会1泊研修 於プラトンホテル四日市
 3月13日 第1回2020東京オリンピック・パラリンピック準備委員会 於日本鍼灸会館
 3月20日 杉山和一記念館完成竣工式
 第2回お灸フェスin福島 於ロータスヨガスタジオ
 3月23日 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
 3月27日 介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於新潟県新潟市内
 4月 「ぶらまいさん plus」メルマガメンバー募集開始
 4月5日 厚生労働省老人保健課と打合せ 於厚労省
 4月6日 臨時厚生労働省保険局医療課実務者協議 於厚労省
 4月13日 臨時厚生労働省保険局医療課実務者協議 於厚労省
 4月21日 第26回あはき意見協議会 於厚労省
 経済産業省から発出されたニュースリリースに関する打合せ 於経産省
 4月24日 杉山和一記念館落成式典・祝賀会 於第一ホテル両国
 4月27日 厚生労働省保険局医療課実務者協議 於厚労省
 損害保険料率算出機構との意見交換会 於損害保険料率算出機構
 5月6日 鈴鹿医療科学大学25周年記念式典 於四日市都ホテル
 5月18日 経済産業省、厚生労働省と日鍼会との三者会議 於経産省
 5月25日 災害寄付金口座開設(ゆうちょ) 経産省オリ・パラ東京大会準備PT担当者との打合せ 於経産省
 厚生労働省保険局医療との実務者協議 於厚労省

5月29日 第25回日本刺絡学会学術大会大阪大会 於森ノ宮医療学園専門学校 兵庫県鍼灸師会65周年記念式典 於ホテル北野プラザ六甲荘
 6月4日 熊本地震対応・対策協議 於医道の日本社
 6月8日 あはき学校養成施設カリキュラム等改善検討準備会議、臨時厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
 6月10～11日 第65回全日本鍼灸学会学術大会in北海道 於札幌コンベンションセンター
 6月19日 東京都鍼灸師会創立65周年記念式典 於日本鍼灸会館
 6月22日 第27回あはき法意見協議会、厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚労省
 4団体長会議 於日本鍼灸会館
 6月25～26日 東北ブロック会議 於秋田ビューホテル
 6月26日 三重県鍼灸師会創立55周年記念式典・祝賀会 於ホテルグリーンパーク津
 6月30日 4団体長会議 医政局審議官交代による挨拶 於厚労省
 7月1日 厚生労働省老健局との定期協議 於厚労省
 7月3日 第3回「卒後フォローアップセミナー」および全国各部長合同会議(組織共済・青年・学術・広報普及・保険) 於花田学園渋谷インフォスタワー
 7月13日 厚生労働省保険局医療との実務者協議 於厚労省
 7月16～18日 第36期鍼灸臨床研修会 於呉竹医療専門学校大宮校
 7月17～18日 JIMTEF災害医療研修第6回ベーシックコース 於JICA関西 北陸ブロック会議 於グランディア芳泉
 7月27日 厚生労働省老健局との定期協議、厚生労働省保険局医療との実務者協議 於厚労省
 8月6～7日 中部ブロック会議 於岐阜・ハートフルスクエア
 8月7日 日本鍼灸師会「災害支援鍼灸師」養成講座 於大阪ハイテクノロジー専門学校
 関東ブロック会議 於京成ホテルミラマーレ
 8月8日 厚生労働省保険局医療課との臨時実務者協議 於厚労省
 8月21日 第7回臨床鍼灸スポーツフォーラムin岡山 於朝日医療大学校
 熊本県鍼灸マッサージ師会創立100周年記念式典・祝賀会 於ホテル日航熊本
 8月24日 厚生労働省保険局医療課との臨時実務者協議 於厚労省
 8月30日 第7回社会保障審議会医療保険部会 於全国都市会館
 8月31日 医政局地域医療計画課在宅医療係長との打合せ、厚生労働省保険局医療課との臨時実務者協議 於厚労省 経済産業省ヘルスケア産業課との打合せ 於経産省
 9月3～4日 JIMTEF災害医療研修第7回ベーシックコース 於JICA東京
 9月3～19日 第33回介護予防運動指導員養成講座 1回目9月3日、2回目9月4日、3回目9月10日、5回目9月19日 於日本鍼灸会館
 4回目9月11日 於ミナト医科学
 9月4日 コラボ事業in新潟 艾とお灸のフォーラム 於国際メディカル専門学校
 北海道ブロック会議 於札幌サンプラザ
 お灸フェス2016 於備前岡山京橋朝市会場
 九州ブロック会議 於いいちこ総合文化センター
 9月11日 お灸フェス in 岐阜 於じゅうろくプラザ
 9月17～19日 第36期 鍼灸臨床研修会 於森ノ宮医療学園専門学校
 9月18～19日 中国・四国ブロック会議 於米子コンベンションセンター
 9月22日 お灸フェス in 東京 於江島杉山神社

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

9月23日	労働基準局労災補償部補償課との打合せ 於厚労省 鍼灸マ保険推進協議会4団体長会議 於参議院会館	2月22日	厚生労働省保険局との第215回実務者協議 於厚労省
9月24日	滋賀県鍼灸師会小澤弘前会長叙勲祝賀会 於琵琶湖ホテル	2月23日	4団体長会議 於弁護士会館
9月28日	第28回あはき意見協議会および厚生労働省社会援護局保護課へ料金改定要望書、実務者協議 於厚労省	2月26日	第3回介護予防運動指導員スキルアップ研修会 於高松テルサ 近畿ブロック保険部長会議 於大阪府鍼灸師会館
9月29日	厚生労働省老健局との定期協議 於厚労省	3月1日	厚生労働省保険局との第216回実務者会議 於厚生労働省
10月1日	あはき療養費改訂 0.28%増額するも往療距離加算については減額	3月5日	関東ブロック保険部長会議
10月8～10日	第12回全国大会in福岡 古人の叡知「鍼灸」～未来へ繋ぐ学と術～ お灸フェス全国ツアーin福岡 青年委員会学生交流会講座 於パピヨン24ガスホール 懇親会会場 於ホテル・レガロ福岡	3月7日	厚生労働省保険局との第217回実務者会議 於厚生労働省
10月12日	WHO・ICD-11改定会議における伝統医学サイドセッション 於東京国際フォーラム	3月11日	東日本大震災6周年追悼式 於国立劇場
10月14日	WHO・ICD-11メインカンファレンス 於東京国際フォーラム 第1回あはき法19ページ条に関する訴訟問題対策会議 於日本盲人福祉センター	3月16日	厚生労働省保険局との第218回実務者会議 於厚労省
10月17日	厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚労省	3月22日	厚生労働省保険局との第219回実務者会議 於厚労省
10月20日	熊本県師会への災害義捐金送金(総額2,080,913円)	3月27日	「鍼灸・マッサージ療養費 平成30年度中に受領委任の導入を見据えた厚生労働省意見書」が了承
10月22～23日	近畿ブロック会議 於マイドームおおさか/シティプラザ大阪	4月3日	愛知・山本友行会長通夜式 於平安会館
10月23日	茨城県鍼灸師会創立65周年記念式典 於ホテルグランド東雲	4月17日	厚生労働省保険局との第220回実務者会議 於厚労省
10月26日	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との協議 於オリ・パラ競技大会組織委員会 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚労省	4月26日	厚生労働省保険局との第221回実務者会議 於厚労省
11月5～6日	WFAS東京/つくば2016 於つくば国際会議場	4月30日	お灸フェス2017(鳥取) 於野原のcafeほすと
11月8～11日	介護予防主任運動指導員養成講座(土日を除く11日間) 於東京都健康長寿医療センター研究所	5月10日	厚生労働省保険局との第222回実務者会議、医政局医事課訪問 於厚労省
11月13日	第2回2020東京オリ・パラ組織委員会との協議 於日本鍼灸会館	5月20日	長野県鍼灸師会青年シンポジウム 於ホテル国際21
11月17日	厚生労働省保険局医療課との実務者会議 於厚労省	5月24日	厚生労働省保険局との第223回実務者会議 於厚労省
11月30日	厚生労働省保険局医療課との実務者会議 於厚労省	6月19～11日	全日本鍼灸学会第66回学術大会(東京大会) 於東京大学
12月4日	2016お灸フェスinいわき 於いわき高原処農家そば屋 全国師会長会議 於日本鍼灸会館	6月11日	日本あん摩マッサージ指圧師会式典 於ホテルグランドヒル市ヶ谷
12月11日	JIMTEF災害医療研修第5回アドバンスコース 於JICA関西	6月14日	厚生労働省保険局との第224回実務者会議 於厚労省
12月19日	厚生労働省老健局老人保健課・振興課との協議、厚生労働省医政局医事課佐藤補佐との打合せ 於厚労省	6月24～25日	東北ブロック会議 於ダイワロイネットホテル八戸
12月21日	東京オリ・パラ競技大会について日鍼会の要望と協議 於橋本聖子参議院議員事務所 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚労省	6月28日	厚生労働省保険局との第225回実務者会議 於厚労省
12月24日	第20回日本統合医療学会でのセッション 於東北大学	7月12～13日	4団体長会議 於KKRホテル熱海
2017年(平成29年)		7月13日	厚生労働省保険局との第226回実務者会議 於厚労省
1月25日	第213回厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚労省	7月16～17日	北陸ブロック会議(富山県高岡市) 於ホテル・磯はなび
1月25～26日	第13回統合医療展2017ブース出展、公開セミナーでの講演 於東京ビッグサイト	7月25日	第2回リハビリ・介護予防サービス展セミナー・セッション 於東京ビッグサイト
2月8日	厚生労働省保険局との第214回実務者協議 於厚労省	7月25～29日	JIMTEF鍼灸医療協力の視察(ベトナム)
2月13～15日	第22回日本集団災害医学会学術集会ブース出展 於名古屋国際会議場	7月26日	厚生労働省保険局との第227回実務者会議 於厚労省
		8月6日	関東ブロック会議 於ホテルマロウド筑波
		8月9日	厚生労働省保険局との第228回実務者会議 於厚労省
		8月11日	お灸フェス2017(福井) 於ハピリン 2階特設会場
		8月20日	第8回臨床鍼灸スポーツフォーラム(三重) 於プラトンホテル四日市
		8月27日	第13回(公社)日本鍼灸師会全国大会(大阪)「大阪フェス前夜祭」 於大阪ハイテクノロジー専門学校
		9月2～3日	北海道ブロック会議 於札幌サンプラザ他
		9月3日	富山県鍼灸マッサージ師会70周年記念式典 於ボルファートとやま
		9月9～10日	九州ブロック会議 於宮崎市ホテルマリックス
		9月10日	福井県鍼灸師会創立40周年記念式典 於ユアーズホテルフクイ

9月13日	厚生労働省保険局との第229回実務者会議 於厚労省	3月3～4日	第3回介護予防運動指導員スキルアップ研修 会 於福岡県鍼灸マッサージ師会館
9月16～18日	第37期鍼灸臨床研修会 於呉竹医療専門学 校大宮校	3月4日	第4回卒後フォローアップセミナー 於日本 鍼灸会館
9月17～18日	中国・四国ブロック会議 於広島県民文化セ ンター	3月18日	第4回介護予防運動指導員スキルアップ研修 会 於山口県岩国市デイサービスセンター
9月23～24日	中部ブロック会議 於第一ビルアタミックス	3月20日	未病EXPO助成セミナー 於渋谷クロスタワ ー
9月27日	厚生労働省保険局との第230回実務者会議 於厚労省	3月25日	第1回医療連携研修講座 於東京衛生学園
10月8日	全国学術部長会議、全国広報・普及部長会議、 全国保険部長会議、全国青年部長会議、全国 組織・共済部長会議 於マイドーム大阪	3月28日	厚生労働省保険局との第238回実務者会議 於厚労省
10月8～9日	第13回全国大会in大阪 テーマ「大大阪フェス～伝統医療の振興～」 於マイドーム大阪	3月31日	けんこう定期便No.26（紙媒体最終号）発行
10月21～22日	近畿ブロック会議 於和歌山県民文化センタ ー	4月18日	厚生労働省保険局との第239回実務者会議 於厚労省
10月25日	厚生労働省保険局との第231回実務者会議 於厚労省	4月29～30日	第20回日本在宅医学会大会 於グランドブ リンスホテル高輪
11月3～5日	スポーツ鍼灸トレーナー研修会 於Hakuju Hall	5月9日	厚生労働省保険局との第240回実務者会議 於厚労省
11月5日	あはき等法制定70周年記念の集い 於東京 有明医療大学	5月20日	杉山検校を偲ぶ会及び学術研修会 於江島杉 山神社
11月8日	厚生労働省保険局との第232回実務者会議 於厚労省	5月23日	厚生労働省保険局との第241回実務者会議 於厚労省
11月11～12日	JIMTEF第7回災害医療研修アドバンスコース 於JICA関西	5月26日	全国病院理学療法協会創立70周年・法人認 可55周年記念式典・祝賀会 於ウエスタ川 越・川越プリンスホテル
11月19日	奈良県鍼灸師会設立60周年記念式典 於ホ テルフジタ奈良	6月1～3日	第67回全日本鍼灸学会学術大会 於ハイアッ トリージェンシー大阪・森ノ宮医療大学
11月19～ 12月17日	第34回介護予防運動指導員養成講座 於石 川県金沢市 1回目11月19日、2回目11月23日、3回目12 月3日、4回目12月10日、5回目12月17日	6月5日	認知症サポーター養成講座スキルアップ研修 於帝京平成大学
11月20日	4団体長会議 於TKP赤坂駅カンファレンス センター	6月13日	日本盲人会連合70周年記念式典 於東京文 化会館
11月22日	厚生労働省保険局との第233回実務者会議 於厚労省	6月23～24日	東北ブロック会議 於ホテル東日本盛岡
11月30日	4団体長会議 於衛藤藤一事務所	6月27日	厚生労働省保険局との第242回実務者会議 於厚労省
12月10日	山梨県鍼灸師会設立35周年式典 於石和名 湯館	7月8日	全国各部長合同会議 於花田学園
12月15日	4団体長会議 於日本鍼灸会館	7月14日	平成30年7月豪雨災害・災害対策本部立ち上 げ等支援活動（岡山県、広島県、愛媛県）
12月25日	厚生労働省保険局との第234回実務者会議 於厚労省	7月14～22日	第35回介護予防運動指導員養成講座 1回目7月14日、3回目7月16日、4回目7月21 日、5回目7月22日 於日本鍼灸会館 2回目7月15日 於ミナト医科学株式会社東 京営業所
12月27日	厚生労働省保険局長との面会、鍼灸マッサー ジ保健推進協議会、4団体長会議 於厚労省	7月18日	厚生労働省保険局との第243回実務者会議 於厚労省
2018年（平成30年）		7月20日	東京2020オリ・パラ事前キャンプ地ヘスポ ーツ鍼灸介入協議会 於長野県東御市長室
1月11日	厚生労働省保険局との第235回実務者会議 於厚労省	7月25日	厚生労働省保険局との第244回実務者会議 於厚労省
1月13～14日	第1回介護容認運動指導員スキルアップ研修 会 於新潟市総合福祉会館	7月25～26日	リーケアジャパン第3回リハビリ・介護予防 サービス展セミナー・セッション 於東京ビ ッグサイト
1月16日	厚生労働省保険局とNHK報道問題に関する 協議 於厚労省	8月5日	関東ブロック会議宇都宮大会 於ホテルニュー イタヤ
1月18日	鍼灸医学ベトナム国際セミナー～医療の向上 に貢献する日本鍼灸～ 於ベトナム・ハノイ J.W.マリオットホテル・ベトナム国立鍼灸病 院視察 於ベトナム・大使公邸他	8月5～9日	第17回日本スカウトジャンボリーブース出 典（石川県珠洲市）
1月21日	第2回介護容認運動指導員スキルアップ研修 会 於じゅうろくプラザ	8月11日	鍼灸経絡治療夏季大学60周年記念祝賀会 於 ホテルグランドニッコー
1月24日	厚生労働省保険局との第236回実務者会議 於厚労省	8月19日	第9回臨床鍼灸スポーツフォーラムin埼玉 於ラフォーレ清水園
1月24～25日	2018統合医療展にて日鍼会ブース出展（東 京ビックサイト）	8月19～22日	ベトナムハノイ視察及び協議 於国立鍼灸病 院、ハノイ伝統医科大学、ハノイ伝統医学病 院、軍108病院
1月27～28日	JIMTEF第8回災害医療研修アドバンスコース 於国立病院機構災害医療センター	8月22日	厚生労働省保険局との第245回実務者会議 於厚労省
2月13日	厚生労働省保険局との第237回実務者会議 於厚労省	8月25日	日本鍼灸会館お別れ会
2月18日	滋賀県鍼灸師会設立45周年記念式典 於ホテ ルニューオウミ	8月27日	東京2020オリ・パラ鍼灸協議会4団体とJOC との協議会 於花田学園
2月25日	近畿ブロック保険部長会議	9月13日	健康・体づくり事業財団創立40周年記念 式典・講演会・祝賀会 於ハイアットリー ジェンシー東京

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

9月16～17日 第2回医療連携研修講座 於日本鍼灸理療専門学校、花田学園
中部ブロック会議 於石和温泉・糸柳

9月23～24日 中国・四国ブロック会議 於国際ホテル松山

9月26日 厚生労働省保険局との第246回実務者会議 於厚労省

9月29日 日本医師会国際在宅医療会議 於日本医師会館

9月29～30日 近畿ブロック会議 於奈良ロイヤルホテル
スポーツ鍼灸トレーナー実地研修会 於信州健康ランド

10月14～15日 全日本鍼灸マッサージ師会東洋療法推進大会 in鹿児島 於鹿児島サンロイヤルホテル

10月24日 4団体で医師会訪問 於日本医師会館
厚生労働省保険局との第247回実務者会議 於厚労省

10月27～28日 第14回全国大会in沖縄
テーマ「時代を支える鍼灸～病に体にそして心に～」
於男女共同参画センターいりる・パシフィックホテル沖縄

11月3日 太子はりきゅう病院130周年記念講演会・祝賀会 於シェラトン都ホテル大阪

11月3～4日 東海北陸保険会議 於長野市サイホクカンホテル

11月25日 ブロック会長との意見交換会、全国師会長会議 於呉竹学園代々木校舎

11月28日 厚生労働省保険局との第248回実務者会議 於厚労省

12月1～2日 介護予防運動指導員・機能訓練指導員スキルアップ研修会、認知症サポーター養成講座 於兵庫県鍼灸師会館

12月9日 第1回災害支援鍼灸マッサージ師合同育成講習会 於横浜市技能文化会館

12月15～16日 JIMTEF第10回災害医療研修アドバンスコース 於JICA関西

12月15～24日 第36回介護予防運動指導員養成講座 於福岡福岡市
1回目12月15日、2回目12月16日、3回目12月22日、4回目12月23日、5回目12月24日

12月26日 厚生労働省保険局との第249回実務者会議 於厚労省

2019年（平成31年／令和元年）

1月1日 はりきゅう療養費に受療委任払い制度導入

1月13日 京都府鍼灸師会70周年記念式典・懇親会 於ウェスティン都ホテル京都

1月14日 関東ブロック師会会長会議 於双葉ビル

1月20日 群馬県鍼灸師会創立70周年記念式典・記念祝賀会 於群馬県・ホテルラシーネ新前橋

1月23日 厚生労働省保険局医療課との第250回実務者会議 於厚生労働省

1月27日 兵庫県鍼灸師会創立100周年記念式典 於ホテルオークラ神戸

2月3日 大阪府師会・得本会長藍綬褒章受章祝賀会 於ホテルシティプラザ大阪

2月14日 第5回あはぎ広告に関する検討会 於霞山会館

2月16日 JIMTEF災害医療研修第1回スキルアップコース 於国立病院機構災害医療センター

2月27日 厚生労働省保険局医療課との臨時実務者会議 於厚生労働省

3月8日 厚生労働省保険局医療課との臨時実務者協議 於厚生労働省

3月17日 第38期鍼灸臨床研修会スキルアップ講座 於呉竹医療専門学校

3月18日 厚生労働省医事課との広告のあり方検討会 於TKP赤坂

3月19日 東洋療法研修試験財団国家試験のあり方検討会

3月27日 厚生労働省保険局医療課との第252回実務者協議 於厚生労働省

3月30～31日 介護予防運動指導員・機能訓練指導員スキルアップ研修会・認知症サポーター養成講座 於国立オリンピック記念青少年総合センター
内閣府認定等委員会訪問（認定等委員会事務局）、厚生労働省保険局医療課との第253回実務者協議 於厚生労働省

4月24日 厚生労働省広告検討会 於TKP新橋カンファレンスセンター

5月16日 第1回介護予防主任運動指導員 フォローアップ研修 於東京都健康長寿医療センター、厚生労働省保険局医療課との第254回実務者協議 於厚生労働省

5月22日 岡山県鍼灸師会合併祝賀会 於アークホテル岡山

6月2日 JIMTEF災害医療研修第12回ベーシックコース 於兵庫県柔道整復師会館

6月26日 保険局医療課との第255回実務者協議 於厚生労働省

7月6～7日 地域ケア推進委員会会議 於東京都鍼灸師会事務所

7月7日 DSAM第2回災害支援鍼灸マッサージ師合同育成講習会 於大阪ハイテクノロジー専門学校

7月24日 東京オリ・パラ大会1年前準備報告会・1年前セレモニー 於東京フォーラム、厚生労働省保険局医療課との第256回実務者協議 於厚生労働省

8月1日 日本標準産業分類に関する厚労省との話し合い 於厚生労働省

8月4日 関東信越ブロック会議 於群馬県・ホテルラシーネ新前橋

8月7日 4団体長会議 於全鍼師会会館

8月21日 国会議員ラグビーワールドカップ打ち合わせ 於中谷議員事務所、厚生労働省保険局医療課との第257回実務者協議 於厚生労働省

8月28日 厚生労働省保険局医療課との第258回実務者協議 於厚生労働省

8月31～9月1日 北海道ブロック会議 於北海道・札幌サンブラザ

9月2日 厚生局でのあはぎ療養費受領委任研修開始に向けての挨拶 於北海道地方厚生局

9月4日 令和元年九州北部豪雨災害先遣隊派遣 於佐賀県大町町総合福祉センター美郷

9月7～8日 九州ブロック会議 於熊本市中央公民館

9月13日 台風13号災害先遣隊派遣 於千葉県君津市、安房郡

9月14～15日・17日 国会ワールドカップ2019大会鍼灸医療ケア 於山梨県くぬぎ平スポーツ公園

9月21～22日 JIMTEF災害医療研修第13回ベーシックコース 於JICA東京

9月22～23日 中国四国ブロック会議 山口大会 於山口県・ホテルサンルート徳山

9月25日 保険局医療課との第259回実務者協議 於厚生労働省、認定等委員会事務局と剰余金の処理方法の打合せ 於内閣府認定等委員会

9月26日 4団体長会議 於NATULUCK水道橋西口駅前店

9月29日 栃木県鍼灸師会70周年記念式典 於ホテルニューイタヤ

10月5日 JIMTEF災害医療研修第11回アドバンスコース 於JICA東京

10月6日 仲野先生旭日小綬章受章祝賀会 於三重県・都ホテル四日市

10月16日 台風19号被害先遣隊派遣・神奈川県 於神奈川県川崎市、あはぎ広告のあり方検討会 打合せ 於厚生労働省

10月17日 台風19号被害先遣隊派遣・長野県 於長野県庁舎、医師会他

10月19～20日 東海北陸ブロック会議 於三重県・プラトンホテル四日市
 10月20日 台風19号災害先遣隊派遣・福島県 於いわき市内、宮城県 於丸森町役場
 10月23日 厚生労働省社会援護局保護課医療係との協議、厚生労働省労働基準局補償課との協議、第260回 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省
 11月6日 厚生労働省あはき師及び柔整師の広告に関する検討会 於厚生労働省
 11月8日 4団体長会議 於日盲連
 11月11～16日 ベトナム使節団来日への対応 於明治国際医療大学他
 11月14日 厚生労働省あはき柔整師の広告に関する検討会 於主婦会館
 11月23～24日 第15回全国大会in静岡 「～鍼灸の可能性を探る 鍼灸の恩恵をすべての人に～」 於ホテルコンコルド浜松
 11月23日 医療連携研修講座 於ホテルコンコルド浜松
 11月27日 4団体長会議 於弁護士会館、厚生労働省保険局医療課との第261回実務者会議 於厚生労働省
 12月1日 日本鍼灸師会ブロック会長会議、全国師会長会議 於東京医療専門学校
 12月6日 国民医療を守るための総決起集会 於憲政記念館講堂
 12月18日 厚生労働省保険局医療課との第262回実務者協議 於厚生労働省、4団体長会議 於弁護士会館

2020年（令和2年）

1月17日 勇美記念財団2019年度第4回在宅医療推進のための会
 1月18～19日 JIMTEF災害医療研修第12回アドバンスコース 於国立病院機構災害医療センター
 1月22日 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省
 1月28～29日 第16回統合医療展2020体験ブース出展 於東京ビッグサイト
 2月5日 東京都鍼灸師会新年賀詞交換会 於京王プラザホテル
 2月5～7日 生涯活躍のまち推進アドバイザー人材養成モデル研修 於神田カンファレンスルーム・TKP水道橋会議室
 2月14日 第5回としま・まちごと福祉支援PJ会議 於アットビジネスセンター池袋駅前別館
 2月20日 WHO/ICD-11改訂版における伝統医学章の新設記念講演会 於学士会館
 2月20日 第25回日本災害医学会総会・学術集会以発表 於神戸国際会議場
 2月26日 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省
 2月26日 4団体長会議 於弁護士会館
 2月29日 埼玉県鍼灸師会設立70周年祝賀会 於大宮清水園
 3月14日 日本財団在宅看護センター nagomiとセラピー開設記念式 於アーバンリゾート代官山
 3月25日 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省
 3月25日 4団体長会議 於弁護士会館
 4月1日 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省
 4月9日 「新型コロナウイルス感染症に対する日本鍼灸師会の考え方～緊急事態宣言を受けて～」 「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」 発出
 4月13日 4団体長会議 於京都つくし法律事務所
 4月27日 4団体長会議 於京都つくし法律事務所、けんこう定期便No.27（電子版）発行

5月7日 日鍼会eラーニング研修制度（NELS）配信開始
 5月 日本鍼灸師会第16回全国大会in東京延期決定（新型コロナウイルス感染防止により）
 5月 ホームページリニューアル
 6月3日 警視庁捜査一課より鍼治療による死亡事故について相談
 6月5日 四団体長会議 於京都つくし法律事務所
 6月10日 広告問題に関する3団体長会議 於京都つくし法律事務所
 7月11日 令和2年7月豪雨DSAM先遣隊活動 於熊本県
 7月20日 自由民主党組織運動本部長より日本鍼灸師連盟へ感謝状が授与
 7月22日 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省
 8月9日 3団体長会議 於京都つくし法律事務所
 8月19日 3団体長会議 於日本視覚障害者団体連合事務所、新宿つくし法律事務所
 8月24日 社保審にむけた4団体長会議 於京都つくし法律事務所
 9月3日 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省
 9月4日 各メディアへのプレスリリースを開始
 9月16日 あはき団体長会議 於厚生労働省
 9月22日 お灸フェスYouTubeライブ 於江島杉山神社
 9月28日 あはき四団体長会議 於霞が関弁護士会館
 10月4日 東海北陸ブロック会議（Web：一社愛知県師会担当）
 10月15日 厚生労働省保険局医療課との実務者協議 於厚生労働省
 10月30日 日本財団在宅看護センター起業家育成事業 於日本財団ビル
 11月2日 秋の叙勲・褒章で4名が受章 一井典子（旭日単光章）大口俊徳、要信義、萩野利赴（藍綬褒章）
 11月29日 全国師会長会議 於東京医療専門学校（ハイブリッド）
 12月3日 機能訓練についての会議 於厚生労働省
 12月7日 3団体長会議 於京都つくし法律事務所
 12月13日 DSAM第3回災害支援鍼灸マッサージ師会合同報告会（Web会議）
 12月20日 日本鍼灸師会全国青年部長会議（Web会議）
 12月22日 あはき施術管理者に係るファシリテーター会議 於呉竹鍼灸柔整専門学校横浜校
 12月23日 オンライン資格確認のあり方についての意見交換 於厚生労働省
 単位管理システムの切り替え「GKシステム」から「NGKシステム」へ

2021年（令和3年）

1月30～31日 はり師、きゅう師及びあん摩マッサージ指圧師施術管理者研修（呉竹医療専門学校大宮校）
 3月29日 新会館契約書締結（総合マンションギャラリー池袋館）、日鍼会創立70周年記念式典会場及び同祝賀会会場下見（メトロポリタンホテル池袋宴会場、としま区民センター多目的ホール）
 4月28日 第269回実務者会議 於日本視覚障害者団体連合
 5月14日 マイナンバーカードでの保険資格認定のスケジュールについて 於厚生労働省
 5月24日 自民党各種団体協議会 於自民党本部
 5月26日 第270回実務者会議（Web会議）
 5月30日 東京都鍼灸師会創立70周年記念式典 於帝京平成大学

公益社団法人 日本鍼灸師会 年表 1948.1-2021.10

6月1日	柔道整復師会等におけるオンラインによる医療保険の資格に係る意見交換会 於厚生労働省
6月27日	東北ブロック会議 (Web:福島県師会担当)
7月11日	関東信越ブロック会議 (Web:埼玉県師会担当)
10月24日	創立70周年記念式典 於としま区民センター
10月24～25日	第16回全国大会in東京 於としま区民センター

編集後記

新型コロナウイルスのパンデミックにより創立70周年記念式典が一年延期となりましたが、創立71年目になる令和3年（2021年）10月24日にハイブリッド形式で無事開催することができましたことに心より感謝いたします。

式典開催前の2021年8月から記念DVDの企画構成を始め、取材・編集等を行ってまいりましたが、皆様のご協力のおかげをもちまして、制作を完了いたしました。

ご祝辞をいただきました後藤茂之厚生労働大臣はじめご来賓の方々、歴代4会長対談で取材をさせていただきました相馬元会長・仲野元会長・小川前会長・要会長、各委員会記録等を執筆していただきました各委員長及び監事に心よりお礼申し上げます。

過去2回を振り返ってみますと、創立50周年と60周年の記録は記念誌を発行し、今回はDVDに記録を残すことになりました。これも時代の流れを反映したものと思います。本会の記録は60周年記念誌の年表に続けて詳細に残してありますが、当時の記念誌の編集作業は、最終確認作業前日に東北地方太平洋沖地震（2011.3.11）が発生したために作業が一時期中断となり、何とか年度内に発行することができたとうかがっております。

本DVD制作にあたっては、前々回・前回の式典経験者である大口創立70周年記念事業実行委員長と一見創立70周年記念事業実行委員に作業に加わっていただきました。式典の記念講演の撮影には永島学術委員長、過去の資料等の調査と整理は岡田事務局長・樋口事務局職員・堀部事務局職員・瀬尾事務局職員にご協力をいただきました。さらに、株式会社キューアイ・マネージ石井様には多大なるサポートをいただきました。新型コロナウイルスのパンデミックの影響を受けながらのご協力に、厚くお礼申し上げます。

本DVDの編集作業は、広報普及 I T 委員会の矢津田副委員長・廣橋委員・佐合委員・端場委員・岡田委員・瀧本委員・松浦委員と私が行いましたが、ホームページに掲載されている過去の記録誌とともに日本鍼灸師会の歩みをご覧いただければと思います。

（広報普及 I T 委員長 児山俊浩）

公益社団法人日本鍼灸師会創立70周年記念誌（DVD）

発行日／令和4年（2022年）2月10日 発行者／公益社団法人日本鍼灸師会

〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨2-1-19 双葉ビル2階

☎03-5944-5089

編集担当者／児山俊浩・大口俊徳・矢津田善仁・一見隆彦・廣橋久美子・佐合基樹・端場真美弥・岡田高・瀧本一・松浦朱里

制作／株式会社キューアイ・マネージ